

第3次葛飾区地域福祉活動計画・ 第2次かつしかボランティア活動推進計画 策定のための調査報告書



平成29年3月

葛飾区社会福祉協議会
かつしかボランティアセンター

目 次

第1章 調査の目的と方法 1

第2章 アンケート調査の結果 5

I. 町会長・福祉協力委員調査 6

1. ご本人について 6
2. 自治町会について 9
3. 地域の課題や小地域福祉活動について 18
4. 福祉協力委員活動について 28
5. その他の地域活動について 33
6. 社協について 38
7. 自由意見 43

II. 社協事業協力者調査 46

1. ご本人について 46
2. ご協力いただいている社協事業について 48
3. その他の地域活動について 57
4. 社協について 59
5. 自由意見 64

III. 社協会員事業者調査 66

1. 事業所について 66
2. 事業所の地域貢献活動について 70
3. 職員のボランティア活動について 77
4. 自由意見 78

IV. 高校生調査 79

1. ボランティア活動への意識や経験について 80
2. ボランティア活動に対する意向について 86
3. ボランティアセンターについて 89
4. 自由意見 93

V. 個人ボランティア調査 94

1. ご本人について 94
2. ボランティア活動について 96
3. その他の地域活動について 105
4. ボランティアセンターについて 107
5. 自由意見 112

VI. ボランティア団体調査 113

1. 貴団体について 113
2. ボランティア活動について 115
3. ボランティアメンバーの募集について 119
4. 地域活動について 122
5. ボランティアセンターについて 124
6. 自由意見 127

第3章 町会長聞き取り調査の結果 ・ 129

1. 調査結果の概要 130
2. 町会ごとの調査結果 134

第 1 章

調査の目的と方法

(1) 調査の目的

この調査は、「第3次葛飾区地域福祉活動計画（平成29～33年度）」及び「第2次かつしかボランティア活動推進計画（平成29～33年度）」の策定に向け、葛飾区内で地域福祉活動に取り組んでいる方々の活動実態や意向を把握し、地域の課題を抽出し、計画の方向性・重点項目等を決定するための基礎的な資料とすることを目的として実施しました。

(2) アンケート調査の期間・対象・方法

平成28年5月10日～6月6日の期間に実施しました（高校生調査は5月20日～6月15日）。

調査の種類	調査の対象	調査方法	
①町会長・福祉協力委員調査	葛飾区内の町会長や福祉協力委員等計 802 人を対象としました。	自治町会連合会及び民生委員・児童委員協議会を通じて調査票を直接配布し（一部郵送配布）、郵送回収しました。	
②社協事業協力者調査	葛飾区社会福祉協議会が実施している以下の事業にご協力いただいている方 485 人を対象としました。 ※ 2つの事業にご協力いただいている方がいるため、以下の合計は総数を超えます。	調査票を郵送配布し、郵送回収しました。	
	1. しあわせサービス（協力会員）		195 人
	2. ファミリー・サポート・センター（サポート会員）		272 人
	3. 手話通訳者派遣事業		30 人
	4. 成年後見センター（生活支援員）	16 人	
③社協会員事業者調査	葛飾区社会福祉協議会の法人会員となっている事業者の 100 事業所を対象としました。	調査票を郵送配布し、郵送回収しました。	
④高校生調査	葛飾区内の 7 校の高等学校に通う高校 2 年生を各校 1 クラス抽出し、272 人を対象としました。	学校を通じて調査票を直接配布し、各校でまとめて回収しました。	
⑤個人ボランティア調査	かつしかボランティアセンターにボランティア登録している個人 143 名を対象としました。	調査票を郵送配布し、郵送回収しました。	
⑥ボランティア団体調査	かつしかボランティアセンターに登録しているボランティア団体 91 団体を対象としました。	調査票を郵送配布し、郵送回収しました。	

(3) アンケート調査配布・回収状況

調査の種類	配布数	回収数	白票・無効票	有効回収数	有効回収率
①町会長・福祉協力委員調査	802	556	1	555	69.2%
②社協事業協力者調査	485	301	0	301	62.1%
③社協会員事業者調査	100	33	0	33	33.0%
④高校生調査	272	272	0	272	100.0%
⑤個人ボランティア調査	143	62	0	62	43.4%
⑥ボランティア団体調査	90	59	0	59	65.6%

(4) 町会長聞き取り調査の期間・対象・方法

平成28年9月14日～16日の期間に実施しました。

調査の対象	調査方法
アンケート調査の町会長・福祉協力委員調査で、聞き取り調査にご協力いただけると回答のあった町会長の方12人を対象としました。	明治学院大学・河合研究室と合同で対象者を個別に訪問し、学生が聞き取りを行いました。

◆ 調査結果の見方について

- ① 集計した数値(%)は小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表示しています。このため、質問に対する回答の選択肢が一つだけの場合、選択肢の数値(%)を全て合計しても、四捨五入の関係で100.0%にならない場合があります。
- ② 回答者数を分母として割合(%)を計算しているため、複数回答の場合には、各選択肢の割合を合計すると100%を越えます。
- ③ 表(クロス集計)では、特別の表記がない限り、上段が実数、下段が%(小数点以下第1位まで)を表示しています。
- ④ 回答結果を見やすくしたり、先行調査との比較を行うため、グラフ等で回答のなかった選択肢や無回答など一部の項目を省略している場合があります。
- ⑤ 町会長・福祉協力委員調査では、一部該当する役職に就いている方だけに回答していただいた設問があります(詳細は本文中の表示を参照)。
- ⑥ 社協事業協力者調査では、2つ以上の事業にご協力いただいている方には一部の設問を事業ごとに複数お答えいただいた関係で、母数が有効回収数を上回っている場合があります。

第 2 章

アンケート調査の結果

I. 町会長・福祉協力委員調査

1. ご本人について

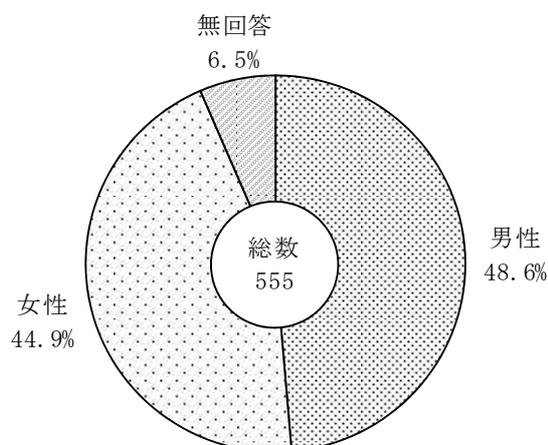
(1) 性別・年齢・役職

Q 1 あなたご自身についてお聞きします。平成 28 年 4 月 1 日現在でご記入ください。

①性別

「男性」が 48.6%、「女性」が 44.9%と、「男性」のほうがやや多くなっています。

Q 1 ①-1 性別



年代別に見ると、60歳代までは「女性」が多く、70歳代以上になると「男性」が多くなっています。

役職別に見ると、町会長はほとんどが「男性」で、民生委員・児童委員、主任児童委員は「女性」のほうが多くなっています。福祉協力委員は男女半々となっています。

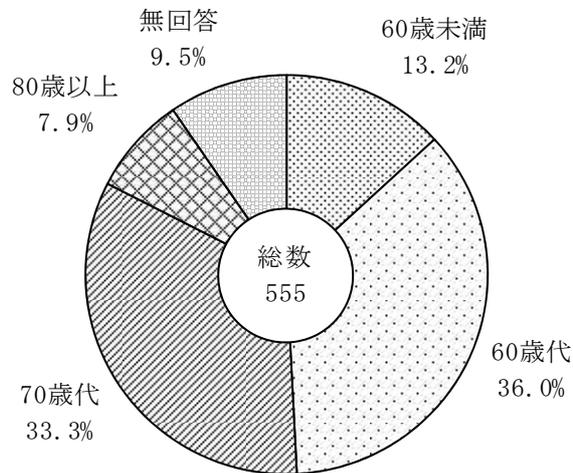
Q 1 ①-2 性別 【年代別・役職別】

		全体	男性	女性	無回答
全体		555 100.0	270 48.6	249 44.9	36 6.5
年齢	60歳未満	73 100.0	22 30.1	51 69.9	-
	60歳代	200 100.0	82 41.0	118 59.0	-
	70歳代	185 100.0	120 64.9	64 34.6	1 0.5
	80歳以上	44 100.0	38 86.4	6 13.6	-
	無回答	53 100.0	8 15.1	10 18.9	35 66.0
役職	町会長	164 100.0	147 89.6	7 4.3	10 6.1
	福祉協力委員	325 100.0	152 46.8	149 45.8	24 7.4
	民生委員・児童委員、 主任児童委員	279 100.0	69 24.7	207 74.2	3 1.1
	あてはまるものはない	11 100.0	5 45.5	3 27.3	3 27.3
	無回答	- *	- *	- *	- *

②年齢

「60歳代」が36.0%と最も多く、次いで「70歳代」が33.3%、「60歳未満」が13.2%、「80歳以上」が7.9%となっています。約4割が70歳以上という結果でした。

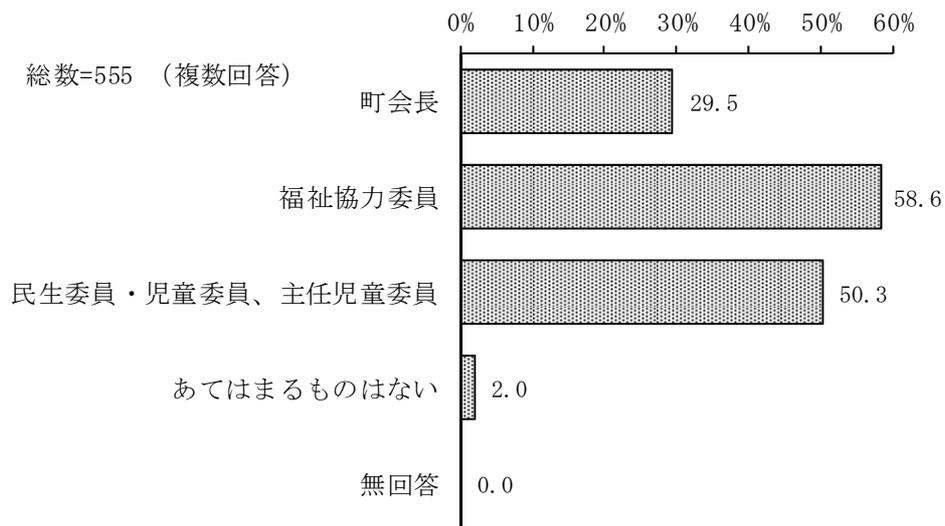
Q1② 年齢



③役職

「福祉協力委員」が58.6%と最も多く、次いで「民生委員・児童委員、主任児童委員」が50.3%、「町会長」が29.5%となっています。

Q1③ 役職

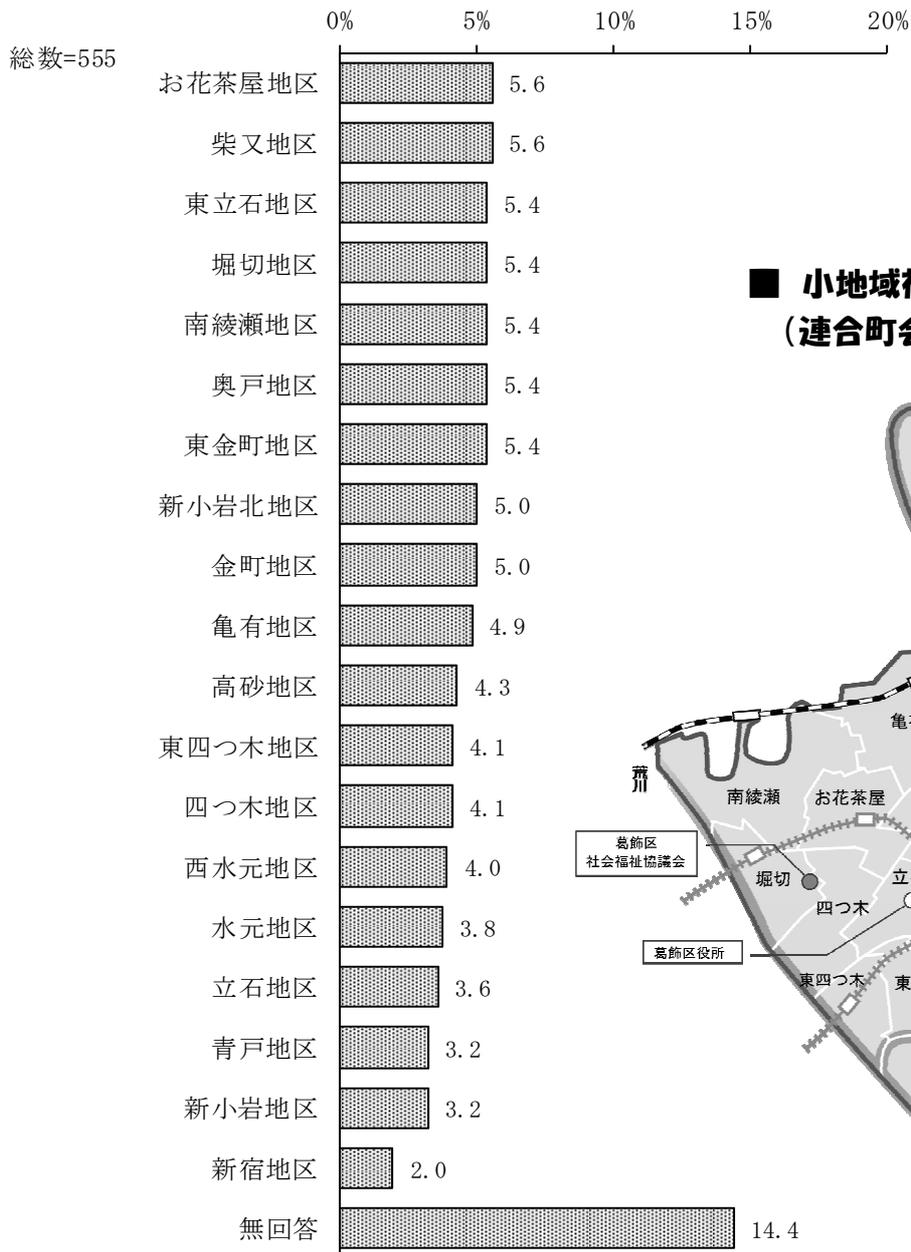


(2) 居住地区

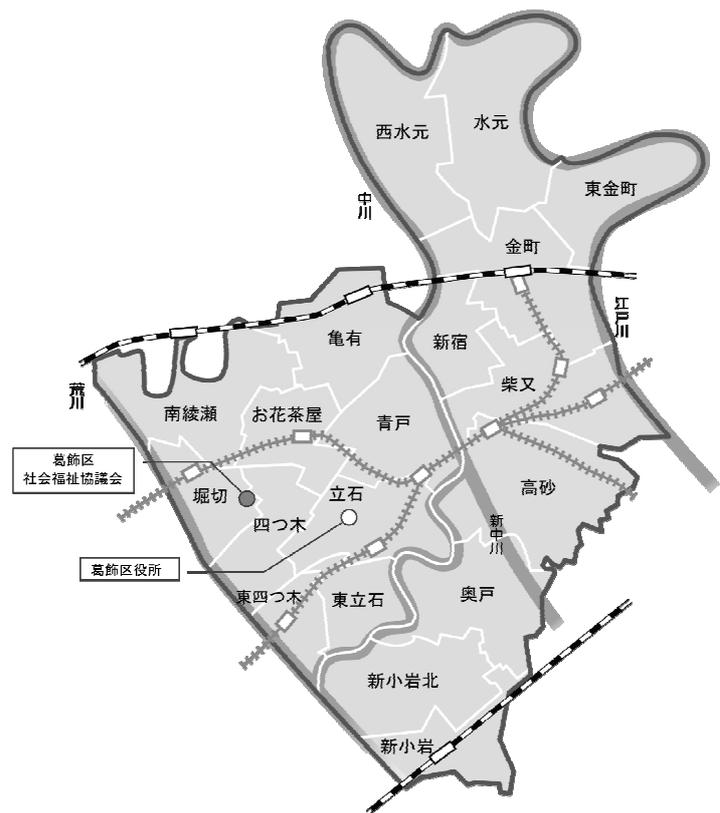
Q2 あなたがお住まいの地区をお聞きます。(〇は一つ)

「お花茶屋地区」「柴又地区」がそれぞれ5.6%と最も多く、次いで「東立石地区」「堀切地区」「南綾瀬地区」「奥戸地区」「東金町地区」がそれぞれ5.4%となっています。

Q2 居住地区



■ 小地域福祉活動の地区
(連合町会単位 19地区)



2. 自治町会について

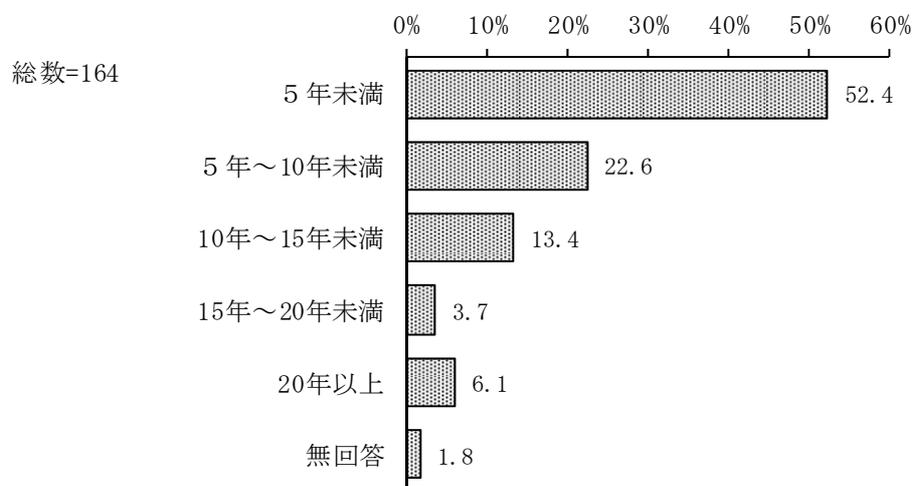
この章の設問は、**町会長の方** にご回答いただきました。

(1) 町会長の在任年数

Q 3 あなたが町会長をつとめている年数をお聞きます。

「5年未満」が52.4%と最も多く、次いで「5年～10年未満」が22.6%、「10年～15年未満」が13.4%、「20年以上」が6.1%となっています。

Q 3 町会長の在任年数



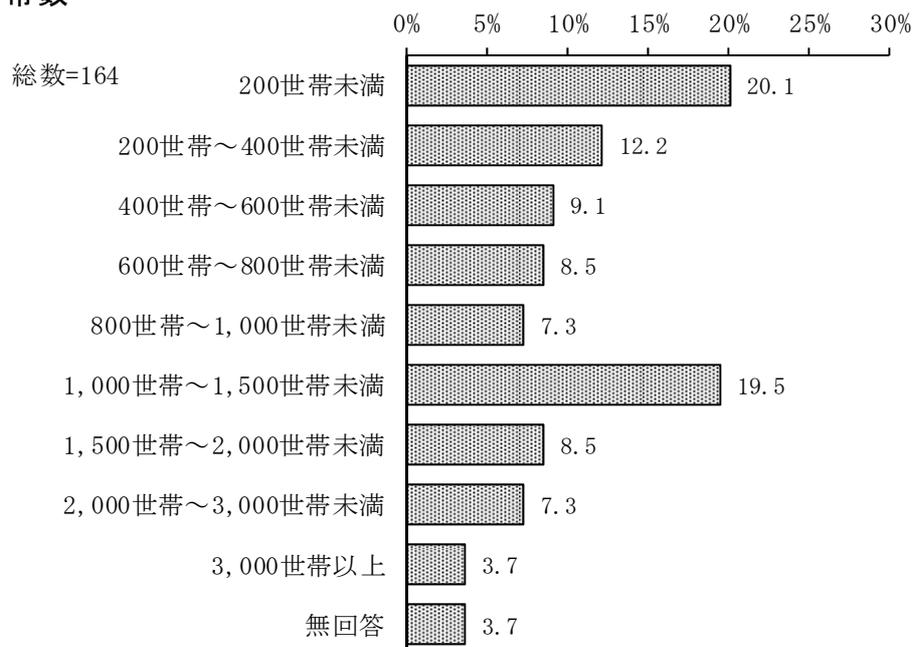
(2) 全世帯数・会員世帯数・加入率

Q 4 あなたの自治町会の地域内の全世帯数と会員世帯数（法人会員含む）をお聞きします。

①全世帯数

「200世帯未満」が20.1%と最も多く、次いで「1,000世帯～1,500世帯未満」が19.5%、「200世帯～400世帯未満」が12.2%、「400世帯～600世帯未満」が9.1%となっています。

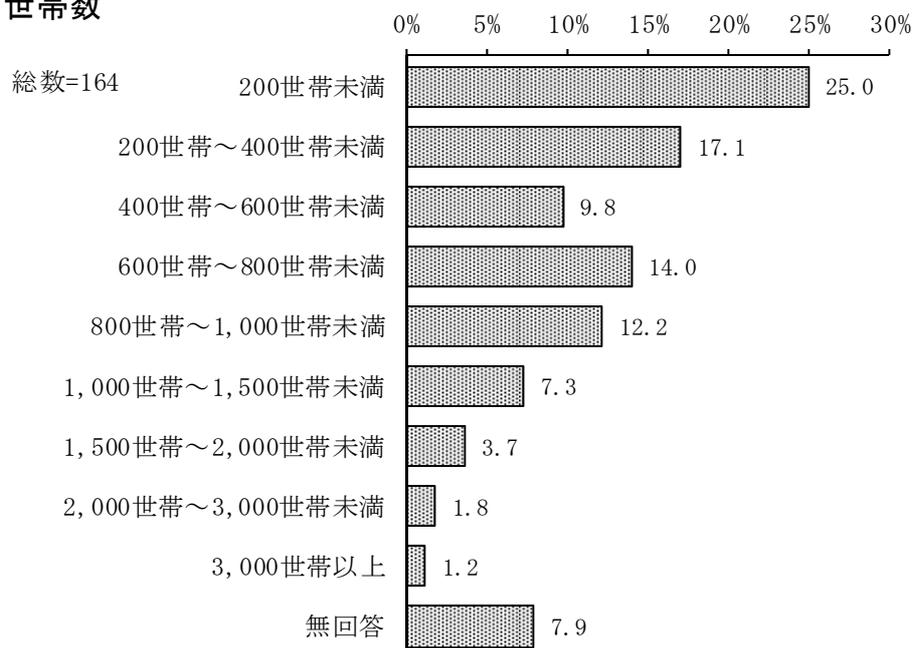
Q 4 ① 全世帯数



②会員世帯数

「200世帯未満」が25.0%と最も多く、次いで「200世帯～400世帯未満」が17.1%、「600世帯～800世帯未満」が14.0%、「800世帯～1,000世帯未満」が12.2%となっています。

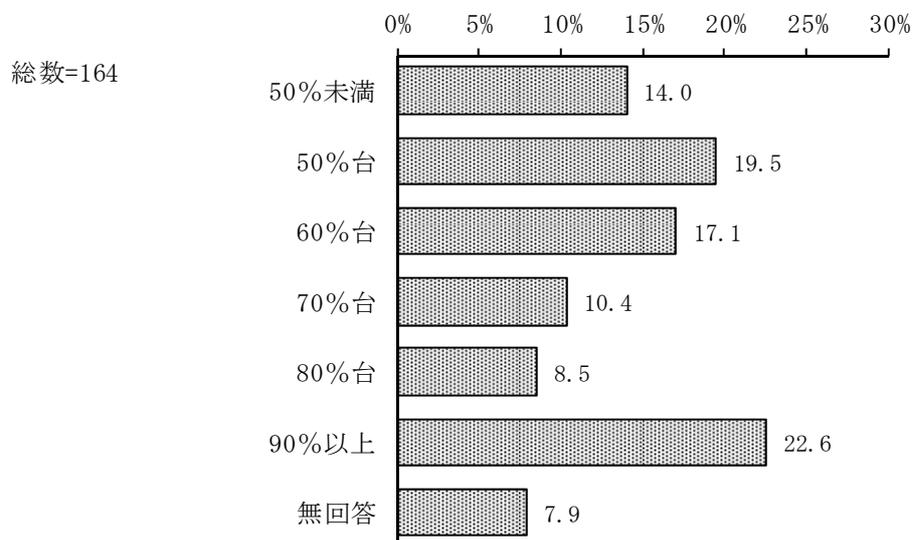
Q 4 ② 会員世帯数



③加入率

「90%以上」が22.6%と最も多く、次いで「50%台」が19.5%、「60%台」が17.1%、「50%未満」が14.0%となっています。

Q 4 ③-1 加入率



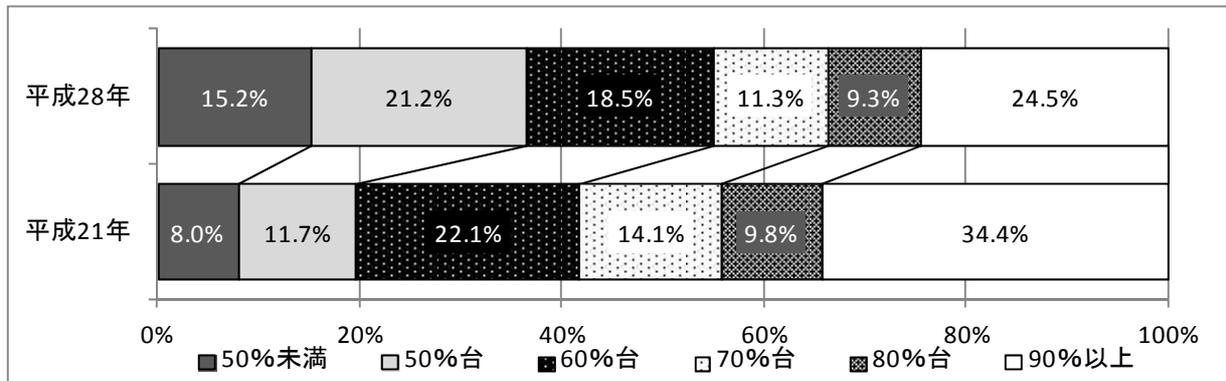
会員世帯数別に見ると、250世帯未満の町会では約6割が「90%以上」と回答しており、250世帯以上の町会と比較するとかなり高くなっています。

Q 4 ③-2 加入率【会員世帯数別】

		全体	50%未満	50%台	60%台	70%台	80%台	90%以上	無回答
全体		164 100.0	23 14.0	32 19.5	28 17.1	17 10.4	14 8.5	37 22.6	13 7.9
会員世帯数	250世帯未満	47 100.0	6 12.8	5 10.6	5 10.6	-	3 6.4	28 59.6	-
	250世帯～500世帯未満	32 100.0	4 12.5	7 21.9	5 15.6	4 12.5	7 21.9	5 15.6	-
	500世帯～1,000世帯未満	49 100.0	9 18.4	15 30.6	12 24.5	8 16.3	2 4.1	3 6.1	-
	1,000世帯以上	23 100.0	4 17.4	5 21.7	6 26.1	5 21.7	2 8.7	1 4.3	-
	無回答	13 100.0	-	-	-	-	-	-	13 100.0

平成 21 年に実施された「葛飾区自治町会活動実態調査」と比較すると、「90%以上」という回答は3割台半ばから2割台半ばに約10ポイント低下しているのに対し、「50%未満」という回答は1割弱から1割台半ばに、「50%台」という回答は約1割から約2割に上昇しており、全体として加入率の低下傾向が見られます。

Q 4 ③-3 加入率【平成 21 年調査との比較】



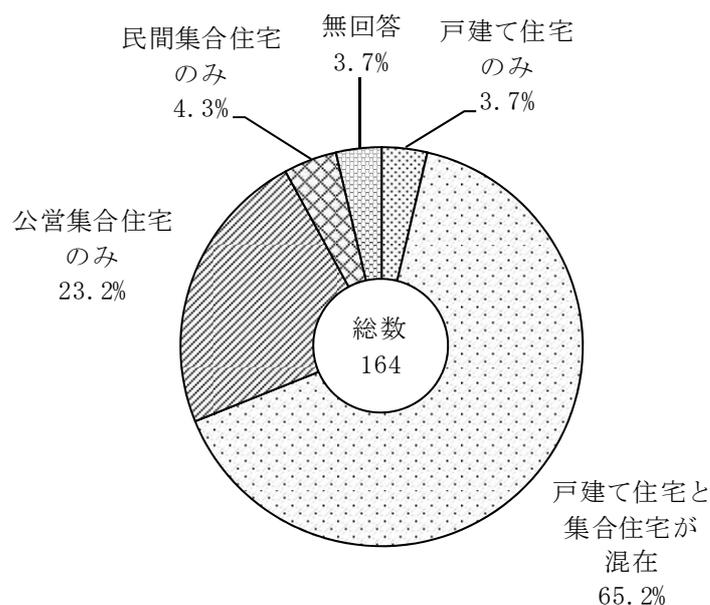
※ 比較の関係で無回答を除いて再集計しているため、前記の結果と若干数値が異なります。

(3) 地域の住宅状況

Q 5 あなたの自治町会の状況は以下のうちどれにあてはまりますか。(○は一つ)

「戸建て住宅と集合住宅が混在」が65.2%と最も多く、次いで「公営集合住宅のみ」が23.2%、「民間集合住宅のみ」が4.3%、「戸建て住宅のみ」が3.7%となっています。

Q 5 地域の住宅状況

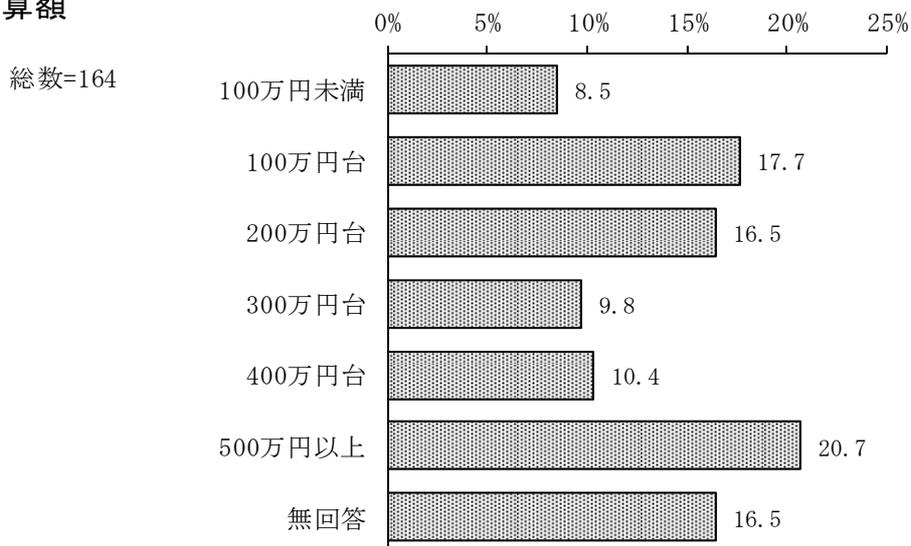


(4) 年間予算額

Q 6 あなたの自治町会の1年間の予算額はだいたいどのくらいですか。

「500万円以上」が20.7%と最も多く、次いで「100万円台」が17.7%、「200万円台」が16.5%、「400万円台」が10.4%となっています。

Q 6 年間予算額

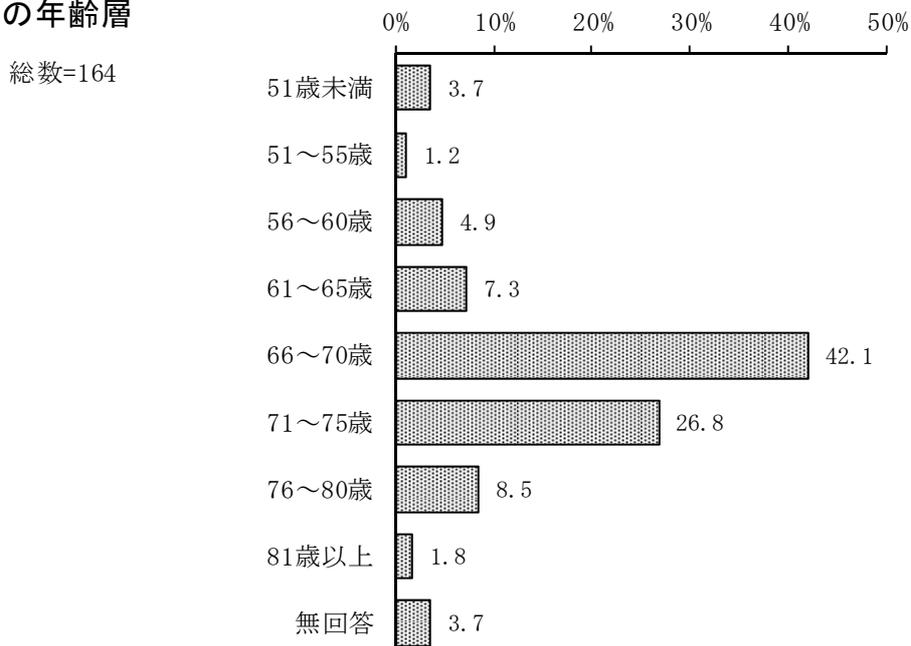


(5) 役職員の年齢層

Q 7 あなたの自治町会の役職員（副会長・会計・部長など）で最も多い年齢層は以下のうちどれですか。（○は一つ）

「66～70歳」が42.1%と最も多く、次いで「71～75歳」が26.8%、「76～80歳」が8.5%、「61～65歳」が7.3%となっています。66～75歳が約7割を占めています。

Q 7 役職員の年齢層

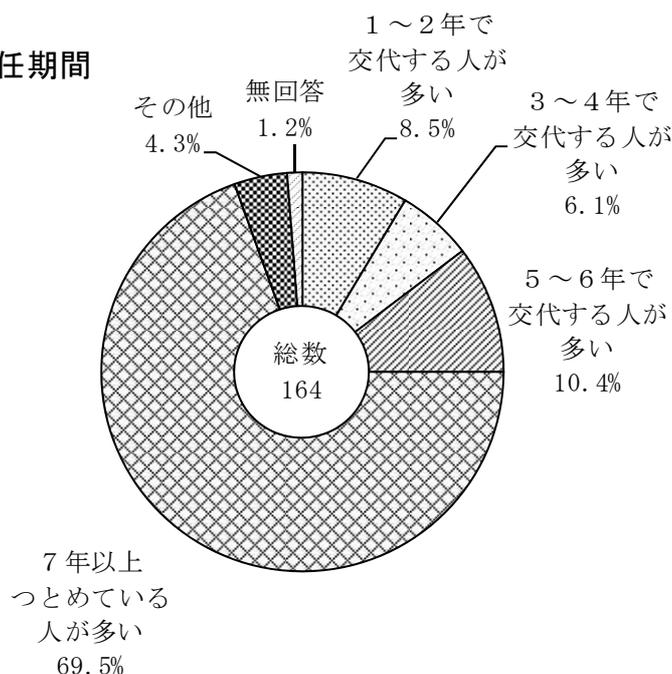


(6) 役職員の在任期間

Q8 役職員の平均的な在任期間について、あなたの自治町会の状況に最も近いのは以下のうちどれですか。(〇は一つ)

「7年以上つとめている人が多い」が69.5%と最も多く、次いで「5～6年で交代する人が多い」が10.4%、「1～2年で交代する人が多い」が8.5%、「3～4年で交代する人が多い」が6.1%となっています。

Q8① 役職員の在任期間



「7年以上つとめている人が多い」の割合は会員世帯数が多い自治町会ほど高くなっており、特に1,000世帯以上の町会では約9割が「7年以上」となっています。

Q8② 役職員の在任期間【会員世帯数別】

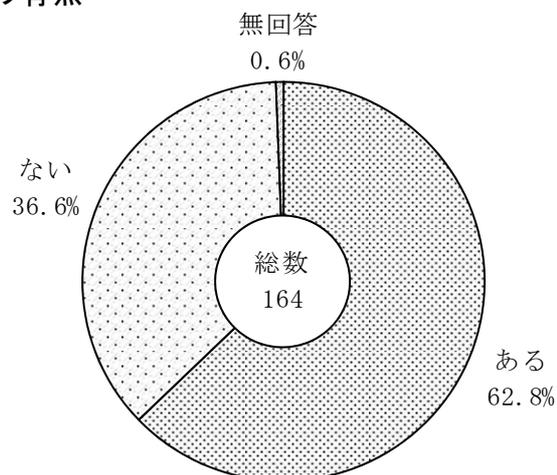
	全体	在任期間					その他	無回答
		1～2年で交代する人が多い	3～4年で交代する人が多い	5～6年で交代する人が多い	7年以上つとめている人が多い			
全体	164 100.0	14 8.5	10 6.1	17 10.4	114 69.5	7 4.3	2 1.2	
会員世帯数	250世帯未満	47 100.0	9 19.1	7 14.9	4 8.5	23 48.9	4 8.5	-
	250世帯～500世帯未満	32 100.0	1 3.1	1 3.1	4 12.5	25 78.1	1 3.1	-
	500世帯～1,000世帯未満	49 100.0	1 2.0	1 2.0	7 14.3	39 79.6	1 2.0	-
	1,000世帯以上	23 100.0	-	1 4.3	-	21 91.3	1 4.3	-
	無回答	13 100.0	3 23.1	-	2 15.4	6 46.2	-	2 15.4

(7) 福祉に関する部の有無

Q 9 現在、あなたの自治町会の中に、福祉に関する部（「福祉部」や「厚生部」等）がありますか。（○は一つ）

「ある」が62.8%、「ない」が36.6%となっています。

Q 9 福祉に関する部の有無

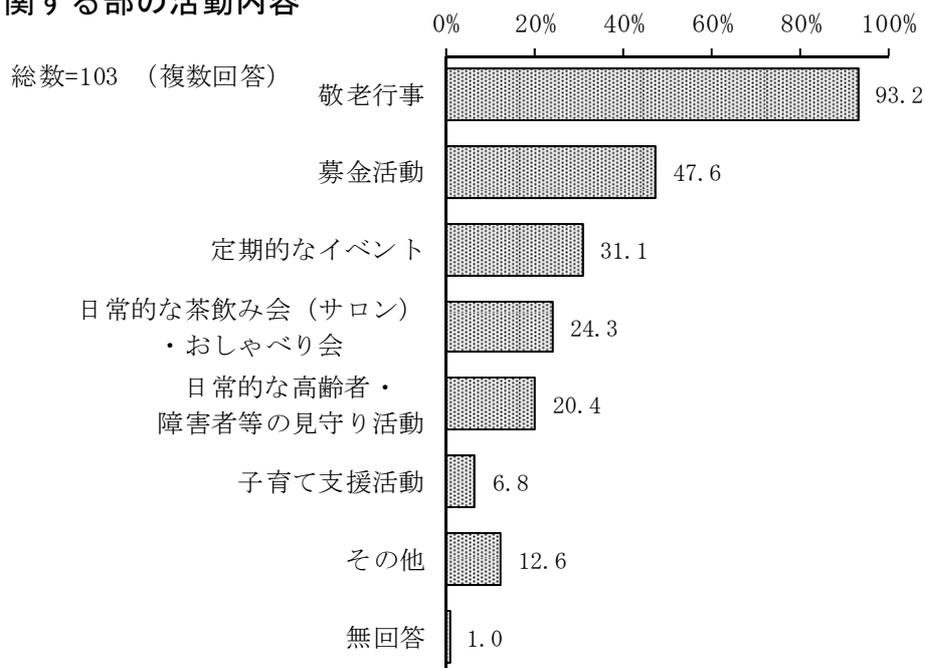


(8) 福祉に関する部の活動内容

Q10 Q9で「1 ある」と答えた方にお聞きします。活動内容はどのようなものですか。
(〇はいくつでも)

「敬老行事」が93.2%と最も多く、次いで「募金活動」が47.6%、「定期的なイベント」が31.1%、「日常的な茶飲み会（サロン）・おしゃべり会」が24.3%となっています。

Q10 福祉に関する部の活動内容

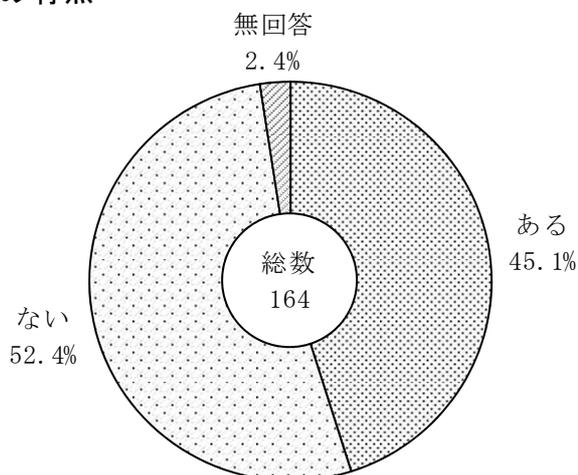


(9) 福祉活動団体等の有無

Q11 自治町会の区域内に、高齢者や障害者等の見守り、茶飲み会や食事会、健康体操、子育て支援などの福祉活動を行う団体等がありますか。(〇は一つ)

「ない」が52.4%、「ある」が45.1%となっています。

Q11 福祉活動団体等の有無



(10) 福祉活動団体等の活動内容

Q12 Q11で「1 ある」と答えた方にお聞きします。その活動はどのようなものですか（誰が、いつから、何をなど、簡単でかまいません）。

74件の回答がありました。「サロン・食事会・誕生会など」に関する回答が44件と最も多く、次いで「高齢者」に関する回答が40件、「娯楽・レジャー・スポーツ」「健康づくり・体操」に関する回答がそれぞれ25件となっています。

Q12 福祉活動団体等の活動内容

項目	件数	項目	件数
サロン・食事会・誕生会など	44	みまもり・福祉活動	11
高齢者	40	子ども・子育て	6
娯楽・レジャー・スポーツ	25	清掃・町内美化	5
健康づくり・体操	25	その他	16

※ 複数の項目にわたる回答があるため、各項目の件数の合計は意見数を上回ります。

◆ 主な意見（紙幅の関係で内容を要約・省略している場合があります）

意見	地区
65歳以上を対象に友親会という会を作って、独自に（カラオケ、グランドゴルフ、町内の清掃等）運営活動を行っている。町会は補助金を出して応援をしている。	水元
和楽会、高齢者同士の交流、町会内の各部、地域割合での茶話会。ラジオ体操。町会との関わりはないが幼児の預かり施設。	堀切
老人会があり毎月1回定例会があり、食事会を行う年に一度の旅行会、他自治会の行事に協力している。水元公園内にて2年ほど前より老人会会長がラジオ体操を始めました。	東金町
朗読会、合唱、カラオケ、雑談会、麻雀、グラウンドゴルフ、輪投げ、卓球などを曜日を決めて活動している。	柴又
いちようクラブの名称で年3回ほどの食事会に参加。最近高齢者の方々の参加で会館にて筋肉向上トレーニングを始め、約15人の会員がいます。毎週火曜日実施。	無回答
高齢者対策として8年前より認知症等介護予防の活動。老人クラブもあり茶飲み会や食事会、歌等活動。	奥戸
団地内（あこたば事業所）週1回コーヒー1杯50円で健康について活動のPRを行っている。	無回答
高齢者クラブを町会役員が協力し誕生月に誕生祝いを持って友愛訪問し、元気を確認する事業。	亀有
高齢者や障害者等の見守りについては3名の民生委員が中心となって行っている。また、小地域福祉活動で食事会が年3回、新小岩地域で行っている。	新小岩
「金町マンション見守り・安心の会」が平成20年6月設立。災害時用支援者アンケート、筋トレ教室、粗大ごみ搬出の協力、講演会開催、防災訓練、サクラのお花見、食事会、勉強会（運営委員のため）、救急医療情報キットの紹介と申込み手伝い。	柴又
一人暮らしの高齢者への声かけ、みまもりを昭和の頃から高齢者クラブが行っている。サロン活動は平成26年頃から。健康体操は平成24年頃から。	無回答
こすげの「わ」、2011年、乳幼児とお母さんが遊んで、親同士で交流「見守りする人が相談等に乗る。健康体操：老人会の若葉会主催2015年。	南綾瀬
年4回おしゃべり、ポスターで住民に知らせる。20人位集まります。花壇も年4回植え替え20人位でお世話し、団地の方に喜ばれている。コンクールにも参加します。昨年賞を取りました。	新小岩

3. 地域の課題や小地域福祉活動について

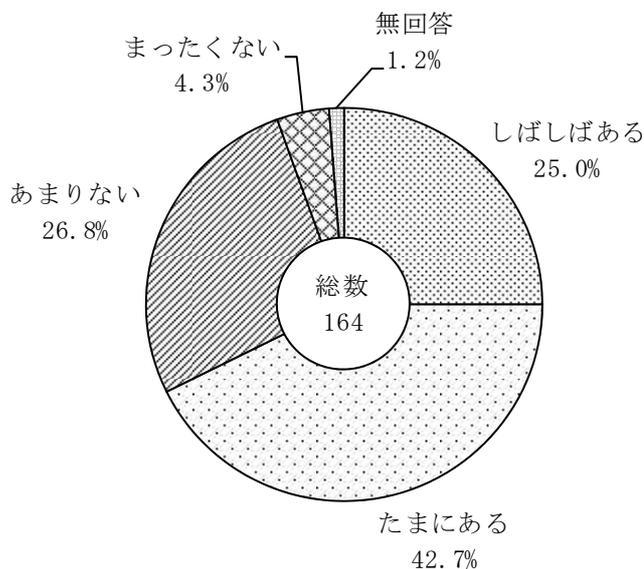
この章の設問は、**町会長の方** にご回答いただきました。

(1) ひとり暮らし高齢者の問題

Q13 自治町会活動において、ひとり暮らし高齢者の問題が話題になることはありますか。
(〇は一つ)

「たまにある」が42.7%と最も多く、次いで「あまりない」が26.8%、「しばしばある」が25.0%、「まったくない」が4.3%となっています。「しばしばある」「たまにある」を合わせると、7割近くが「ある」と回答しています。

Q13 ひとり暮らし高齢者の問題

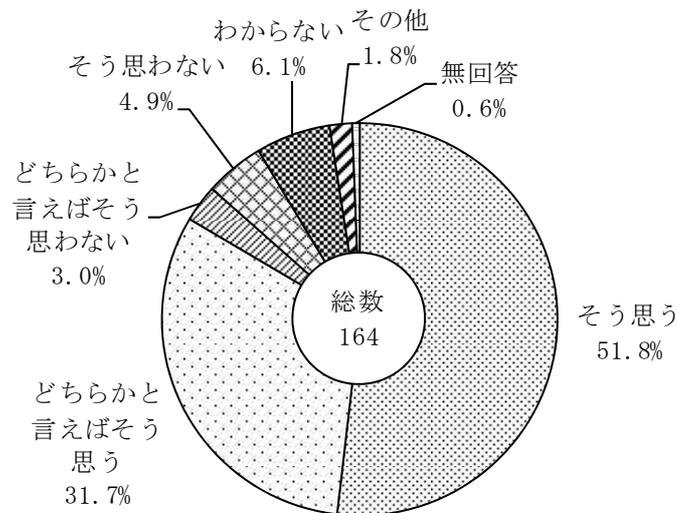


(2) ひとり暮らし高齢者の情報把握

Q14 自治町会が、区域内のひとり暮らし高齢者の情報を把握できるような仕組みや制度上の工夫が必要だと思いますか。(〇は一つ)

「そう思う」が51.8%と最も多く、次いで「どちらかと言えばそう思う」が31.7%、「そう思わない」が4.9%、「どちらかと言えばそう思わない」が3.0%となっています。「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせると、8割あまりが必要だと思うと回答しています。

Q14① ひとり暮らし高齢者の情報把握



会員世帯数別に見ると、「そう思う」という回答は250世帯未満の町会で約7割と高くなっています。

Q14② ひとり暮らし高齢者の情報把握【会員世帯数別】

		全体	そう思う	どちらか そう 思う 言えば	どちら か と 言 え ば	そう 思 わ な い	わ か ら な い	そ の 他	無 回 答
全体		164 100.0	85 51.8	52 31.7	5 3.0	8 4.9	10 6.1	3 1.8	1 0.6
会員 世 帯 数	250世帯未満	47 100.0	33 70.2	10 21.3	1 2.1	-	2 4.3	1 2.1	-
	250世帯～500世帯未満	32 100.0	14 43.8	13 40.6	-	2 6.3	2 6.3	1 3.1	-
	500世帯～1,000世帯未満	49 100.0	24 49.0	16 32.7	2 4.1	3 6.1	3 6.1	1 2.0	-
	1,000世帯以上	23 100.0	9 39.1	9 39.1	2 8.7	2 8.7	1 4.3	-	-
	無回答	13 100.0	5 38.5	4 30.8	-	1 7.7	2 15.4	-	1 7.7

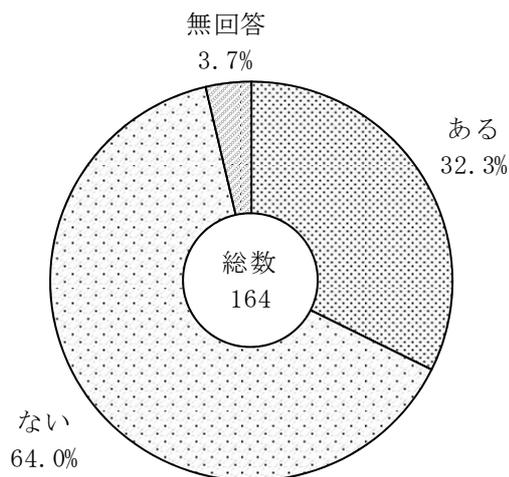
(3) 孤独死の発生

Q15 あなたの会長在任中に、地域内でいわゆる「孤独死」の発生を見聞きしたことはありますか。ある場合はおおよその件数もお答えください。(〇は一つ)

①孤独死発生の有無

「ない」が64.0%、「ある」が32.3%となっています。

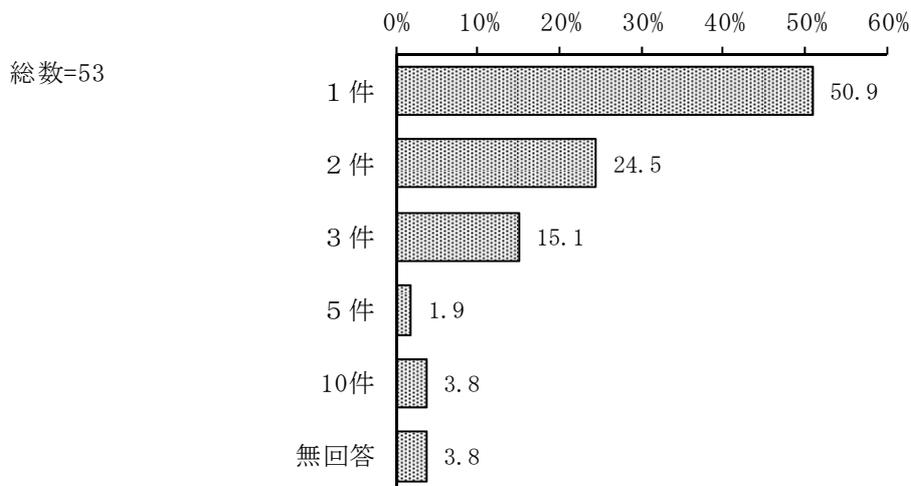
Q15① 孤独死発生の有無



②孤独死の発生件数

「1件」が50.9%と最も多く、次いで「2件」が24.5%、「3件」が15.1%、「10件」が3.8%、「5件」が1.9%となっています。

Q15② 孤独死の発生件数



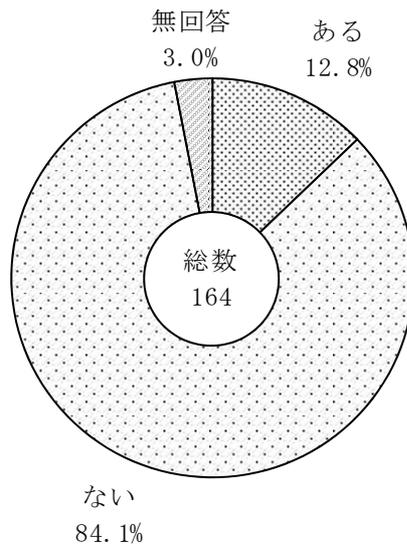
(4) ゴミ屋敷の問題

Q16 地域内でいわゆる「ゴミ屋敷」の問題を抱える世帯がありますか。ある場合はおおよその件数もお答えください。(〇は一つ)

① ゴミ屋敷の有無

「ない」が84.1%、「ある」が12.8%となっています。

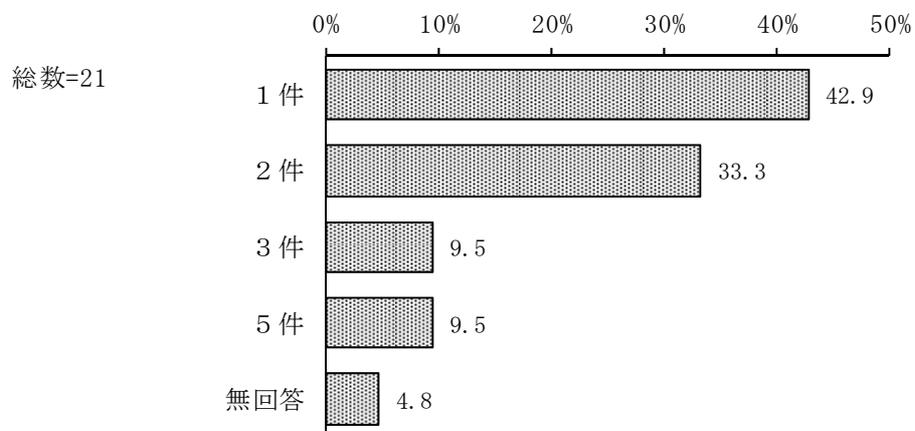
Q16① ゴミ屋敷の有無



② ゴミ屋敷の発生件数

「1件」が42.9%と最も多く、次いで「2件」が33.3%、「3件」「5件」がそれぞれ9.5%となっています。

Q16② ゴミ屋敷の発生件数

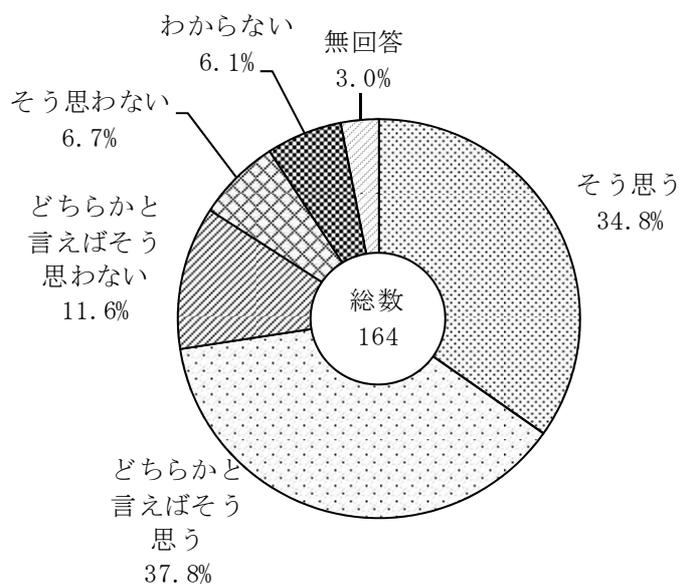


(5) 小地域福祉活動の必要性

Q17 あなたは自治町会あるいは連合町会単位で小地域福祉活動（見守りやお茶飲み会、食事会等）に、取り組む必要があると思いますか。（○は一つ）

「どちらかと言えばそう思う」が 37.8%と最も多く、次いで「そう思う」が 34.8%、「どちらかと言えばそう思わない」が 11.6%、「そう思わない」が 6.7%となっています。「どちらかと言えばそう思う」「そう思う」を合わせると、7割あまりが必要があると回答しています。

Q17 小地域福祉活動の必要性

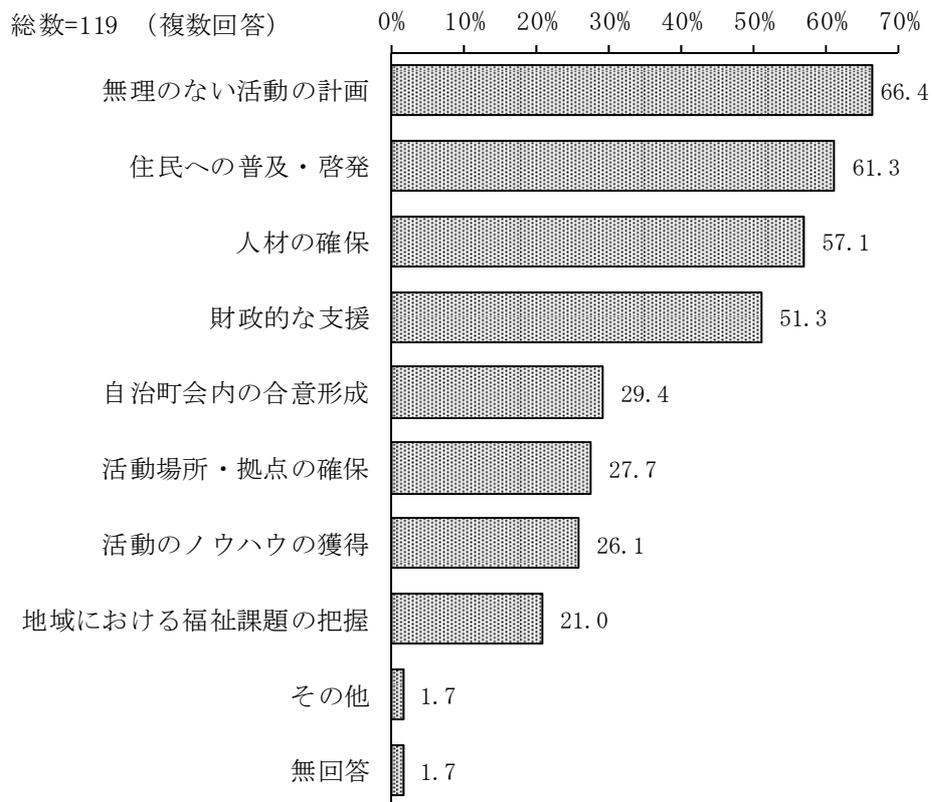


(6) 小地域福祉活動に取り組むために必要なこと

Q18 Q17で「1 そう思う」「2 どちらかと言えばそう思う」と答えた方にお聞きします。地域で小地域福祉活動を展開・充実していくためには、どのようなことが必要になると思いますか。必要だと思うものに○をつけてください。(○はいくつでも)

「無理のない活動の計画」が66.4%と最も多く、次いで「住民への普及・啓発」が61.3%、「人材の確保」が57.1%、「財政的な支援」が51.3%となっています。

Q18 小地域福祉活動に取り組むために必要なこと



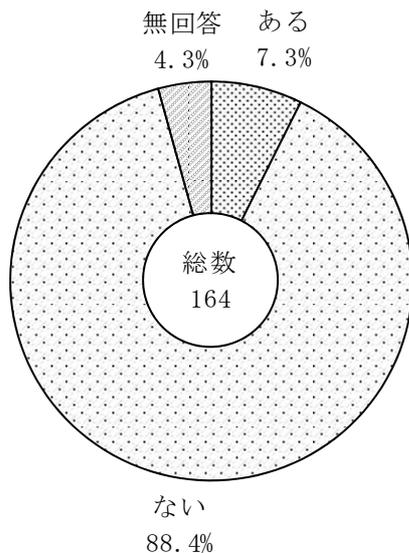
(7) ボランティアグループや NPO 法人等との連携

Q19 現在、あなたの自治町会の活動において、ボランティアグループや NPO 法人等と継続的な連携や協力関係がありますか。ある場合は、その団体名をお書き下さい。(○は一つ)

①連携の有無

「ない」が 88.4%、「ある」が 7.3%と、「ない」のほうがかなり多くなっています。

Q19①-1 連携の有無



会員世帯数別に見ると、「ある」という回答は 1,000 世帯以上の自治町会で 3 割あまりと比較的多くなっているのに対し、1,000 世帯未満の町会では少数となっています。

Q19①-2 連携の有無【会員世帯数別】

		全体	ある	ない	無回答
全体		164 100.0	12 7.3	145 88.4	7 4.3
会員 世帯 数	250世帯未満	47 100.0	1 2.1	43 91.5	3 6.4
	250世帯～500世帯未満	32 100.0	1 3.1	31 96.9	-
	500世帯～1,000世帯未満	49 100.0	2 4.1	44 89.8	3 6.1
	1,000世帯以上	23 100.0	8 34.8	14 60.9	1 4.3
	無回答	13 100.0	-	13 100.0	-

②連携している団体

連携していると回答のあった団体は以下の通りです。

Q19② 連携している団体

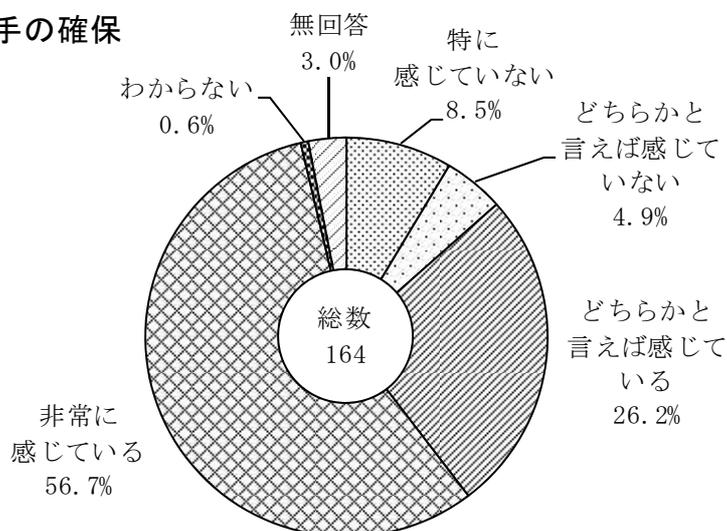
団体名	地区
地域まちづくり協会。	新小岩北
NPO ア！安全、快適街づくり	新小岩北
中西会	四つ木
NPO 法人会。駅周辺まちづくり協議会、ほっとマイタウン会。	四つ木
笑顔であいましょう。	奥戸
民生委員	柴又
葛飾市民活動ネットワーク	立石
新小岩北地区ゼロメートル地域協議会	新小岩北
葛飾市民活動ネットワーク	立石
さくらハウス、かがやけ作業所、介護老人保健施設花の木	新宿
高齢者包括センター、保健所	新小岩
NPO あんぜんまちづくり	立石

(8) 役員のなり手の確保

Q20 あなたの自治町会では、役員のなり手の確保に困難を感じていますか。(〇は一つ)

「非常に感じている」が56.7%と最も多く、次いで「どちらかと言えれば感じている」が26.2%、「特に感じていない」が8.5%、「どちらかと言えれば感じていない」が4.9%となっています。「非常に感じている」「どちらかと言えれば感じている」を合わせると、8割あまりが困難を感じていると回答しています。

Q20 役員のなり手の確保



(9) 役員のなり手確保のための工夫

Q21 Q20で「3 どちらかと言えば感じている」「4 非常に感じている」と答えた方にお聞きします。役員のなり手確保のために工夫していることがあれば、その内容をお書きください。

117 件の回答がありました。「一人ひとり個別に依頼」などの回答が 37 件と最も多く、次いで「役員からの紹介」が 16 件、「行事やイベントで声かけ」が 14 件となっています。一方で、工夫ではなく、「若い人のなり手がいない」「役員の高齢化が進んでいる」「良い方法がない」といった回答もかなり見られました。

Q21 役員のなり手確保のための工夫

項目	件数	項目	件数
一人ひとり個別に依頼	37	町会だより・回覧板・掲示板等	4
役員からの紹介	16	その他	26
行事やイベントで声かけ	14		
日頃からの関係づくり	8	若い人のなり手がいない	12
子ども会・PTAなどの関係から	6	役員の高齢化が進んでいる	11
活動の見直し・役員の負担軽減	5	良い方法がない	23

※ 複数の項目にまたがる回答があるため、各項目の件数の合計は意見数を上回ります。

◆ 主な意見（紙幅の関係で内容を要約・省略している場合があります）

意見	地区
適任者一人一人にあたり理解をいただき、役員になっていただいている。	高砂
役員を希望する方に一声運動をし、特に定年退職者にお話をして町会行事に時々参加してもらいます。	無回答
現役員に良い人を紹介するように役員会等でお願している。	東立石
役員になっていただいた中より紹介してもらったり、当番になった方等に声かける。	柴又
行事等に参加していただき、自治会に興味をお持ちの方に声をかけ、「お手伝いをしてほしい」旨伝える。	青戸
町会行事への参加者の中で協力できそうな人材に対して勧誘する。	新小岩
定年退職間近の人に声をかける。餅つき大会、旅行会、お祭りなど積極的に応援してくれる方に声をかける。	堀切
日頃からの住民への声掛け。	水元
互いによく知り合うことに努力している。	東四つ木
コミュニケーションを大切にしている。	東金町
小学生、中学生の時遊んだ人々、先輩、後輩との関係で協力者を確保しています。また、PTA活動した昔の仲間には声をかけやすい。	南綾瀬
子ども会、青少年育成委員会と連携を通い親密化を図る（結果あまり無し）。	奥戸

意見	地区
出来ることをコツコツとではありませんが、自治会活動の出来る範囲を狭めて活動してもらい、その後これでもしてみたい、出来ることを増やしてもらおうようにしている。	無回答
役員負担の軽減として、募金活動は止めて町会費より支出、役員会の数を減らす、交通安全・歳末警戒・薬剤散布などは薄謝を支給する。	無回答
役員による勧誘。町会イベントを通しての勧誘。町会だよりによる勧誘等。	四つ木
回覧板、掲示板に募集広告。役員会等でお互いの知り合いへの声掛け。	堀切
28年度より賛助理事（専門理事制度）を設けることとした。毎年総会で「目的が達成した場合」感謝状の贈呈他を実施する。	柴又
子どもの若い役員を町会役員にスカウトしています。	奥戸
0メートル地域なので水害時に使えるエンジン付きのゴムボートを購入し、訓練と準備を兼ね、防災意識の向上を図って加入につなげていきたい。	新小岩北
女性の活用で困難を解消している。	水元
若い人の確保が困難。	四つ木
一番話し合いの場を持ってやれば良いと思うのですが、なかなか40～50歳の人は仕事を持っていて、内仕事以外の人が多く、顔を合わせる事が少ないです。	南綾瀬
若い人は仕事を持っていてやりたくない、出来ないと言う。年寄りには無理をさせる訳にはいかない。	青戸
なり手が決まらず、段々と高齢者になりつつある。	青戸
会員、役員の高齢化が進む中で定年後も収入を得るために何かと収入を得られる仕事につき、役員等につきにくい方が多いので新しく役員に勧誘することが困難であり、これという方策が見当たらない。	お花茶屋
特別なない。個人的にピンポイントで啓蒙しているが、なかなか良い返事はもらえない。	無回答
お手上げです。教えて下さい。	金町

4. 福祉協力委員活動について

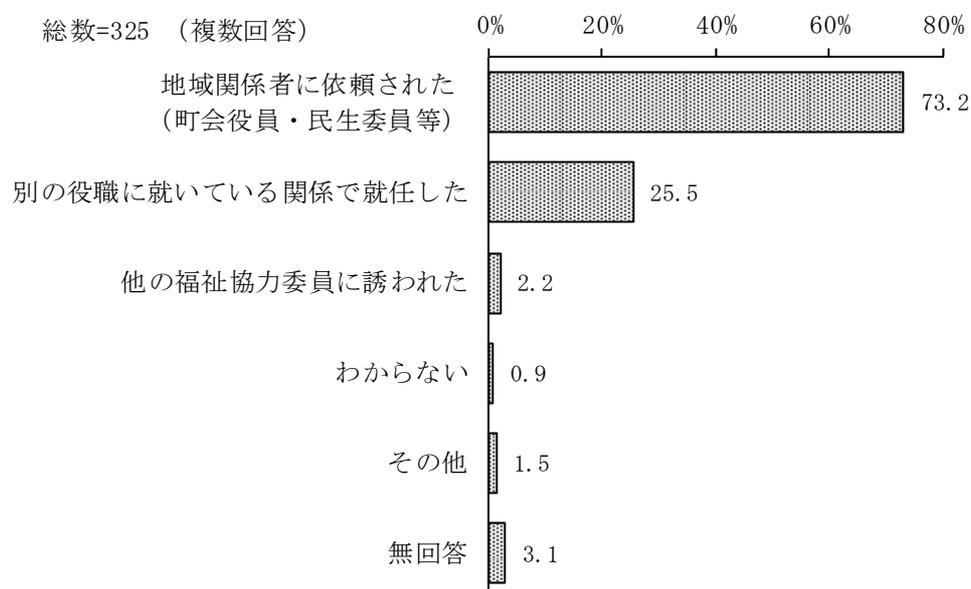
この章の設問は、**福祉協力委員の方**にお聞きしました。

(1) 福祉協力委員になったきっかけ

Q22 あなたが福祉協力委員になったきっかけは何ですか。(〇はいくつでも)

「地域関係者に依頼された(町会役員・民生委員等)」が73.2%と最も多く、次いで「別の役職に就いている関係で就任した」が25.5%、「他の福祉協力委員に誘われた」が2.2%となっています。

Q22 福祉協力委員になったきっかけ

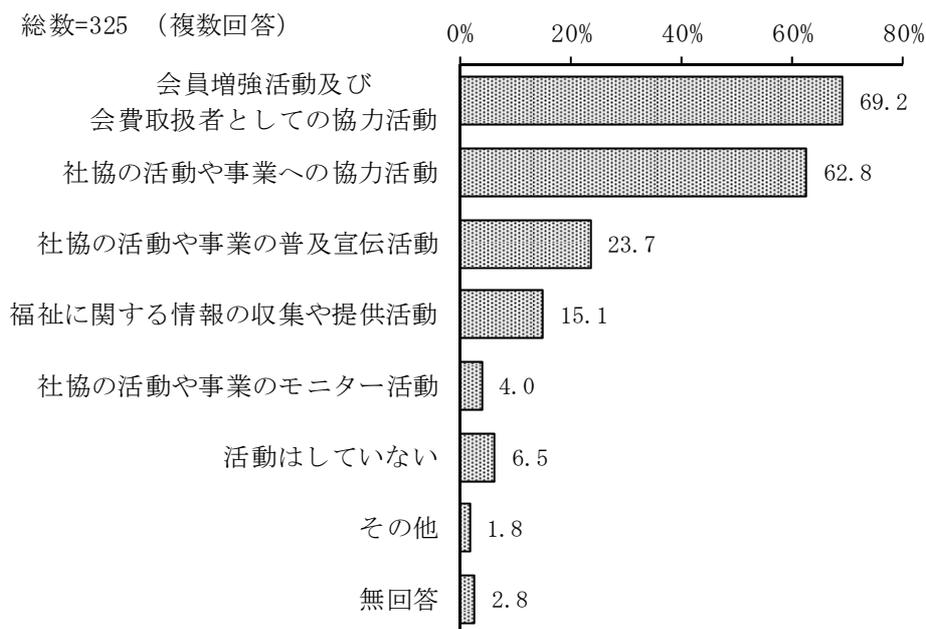


(2) 福祉協力委員としての活動状況

Q23 あなたは、福祉協力委員として、次のような活動をしていますか。(〇はいくつでも)

「会員増強活動及び会費取扱者としての協力活動」が69.2%と最も多く、次いで「社協の活動や事業への協力活動」が62.8%、「社協の活動や事業の普及宣伝活動」が23.7%、「福祉に関する情報の収集や提供活動」が15.1%となっています。

Q23① 福祉協力委員としての活動状況



男女別に見ると、女性では「会員増強活動及び会費取扱者としての協力活動」の割合が8割あまりとなっており、男性より20ポイント以上高くなっています。

Q23② 福祉協力委員としての活動状況【男女別】

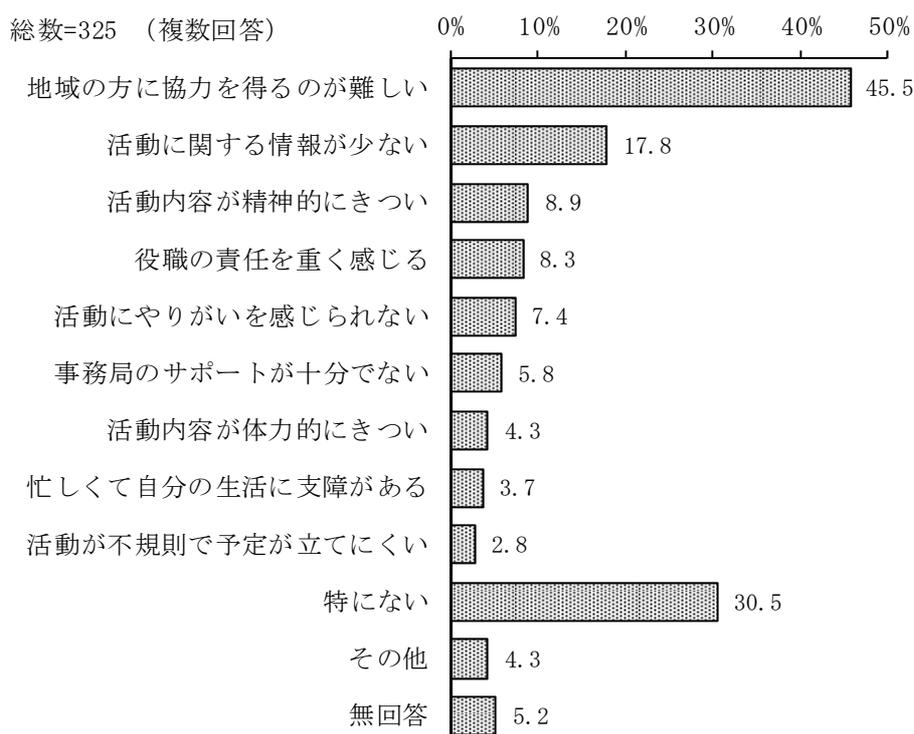
性別		全体	社協の活動や事業への協力活動	社協の活動や事業の普及宣伝活動	会員増強活動及び会費取扱者としての協力活動	福祉に関する情報の収集や提供活動	社協の活動や事業のモニター活動	活動はしていない	その他	無回答
			割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
	全体	325 100.0	204 62.8	77 23.7	225 69.2	49 15.1	13 4.0	21 6.5	6 1.8	9 2.8
性別	男性	152 100.0	95 62.5	32 21.1	86 56.6	19 12.5	6 3.9	15 9.9	3 2.0	5 3.3
	女性	149 100.0	90 60.4	40 26.8	124 83.2	26 17.4	7 4.7	4 2.7	3 2.0	4 2.7
	無回答	24 100.0	19 79.2	5 20.8	15 62.5	4 16.7	-	2 8.3	-	-

(3) 活動に関して困っていること

Q24 あなたには、福祉協力委員の活動に関して困っていることはありますか。(〇はいくつでも)

「地域の方に協力を得るのが難しい」が45.5%と最も多く、次いで「活動に関する情報が少ない」が17.8%、「活動内容が精神的にきつい」が8.9%、「役職の責任を重く感じる」が8.3%となっています。

Q24① 活動に関して困っていること



男女別に見ると、女性では「地域の方に協力を得るのが難しい」の割合が半数あまりとなっており、男性より高くなっています。

Q24② 活動に関して困っていること

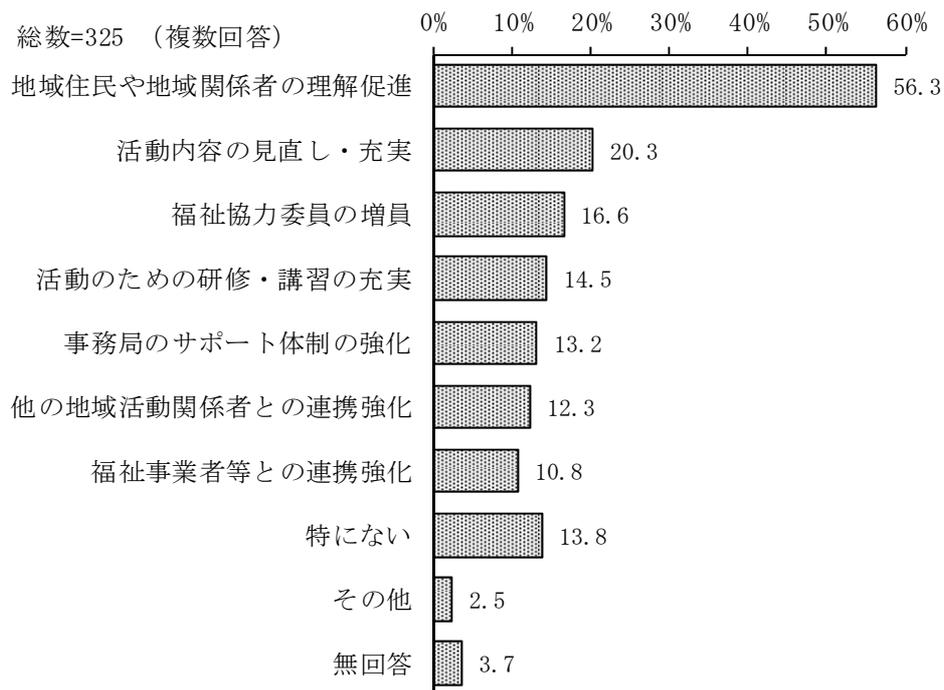
		全体	活動に関する情報が少ない	活動内容が体力的にきつい	活動内容が精神的にきつい	活動にやりがいを感じられない	地域の方に協力を得るのが難しい	忙しくて自分の生活に支障がある	活動が不規則で予定を立てにくい	役職の責任を重く感じる	事務局のサポートが十分でない	特にない	その他	無回答
全体		325 100.0	58 17.8	14 4.3	29 8.9	24 7.4	148 45.5	12 3.7	9 2.8	27 8.3	19 5.8	99 30.5	14 4.3	17 5.2
性別	男性	152 100.0	28 18.4	8 5.3	9 5.9	8 5.3	57 37.5	9 5.9	6 3.9	12 7.9	11 7.2	49 32.2	8 5.3	12 7.9
	女性	149 100.0	27 18.1	5 3.4	18 12.1	15 10.1	81 54.4	2 1.3	3 2.0	13 8.7	7 4.7	39 26.2	6 4.0	4 2.7
	無回答	24 100.0	3 12.5	1 4.2	2 8.3	1 4.2	10 41.7	1 4.2	-	2 8.3	1 4.2	11 45.8	-	1 4.2

(4) より良い活動のために必要なこと

Q25 あなたは、福祉協力委員の活動をより良いものにしていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「地域住民や地域関係者の理解促進」が56.3%と最も多く、次いで「活動内容の見直し・充実」が20.3%、「福祉協力委員の増員」が16.6%、「活動のための研修・講習の充実」が14.5%となっています。

Q25① より良い活動のために必要なこと



男女別に見ると、女性では「地域住民や地域関係者の理解促進」の割合が約7割と男性より20ポイント以上高くなっています。

Q25② より良い活動のために必要なこと【男女別】

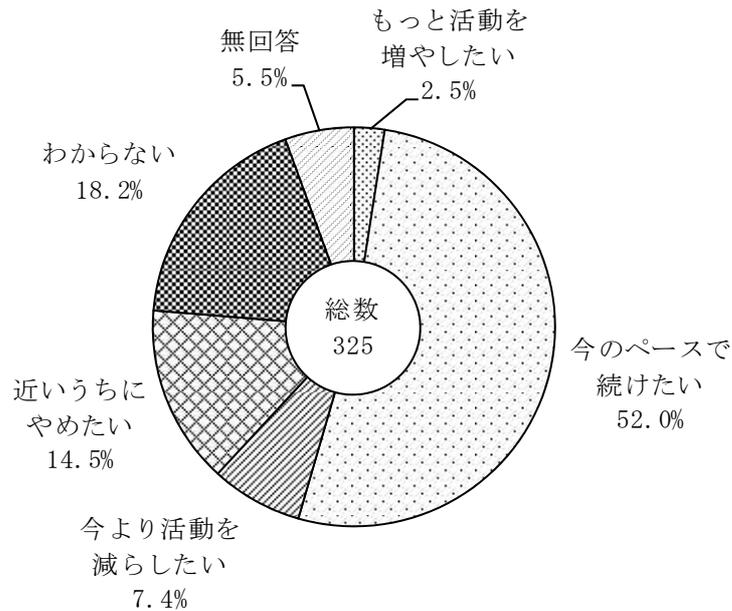
性別		全体	活動内容の見直し・充実	活動のための研修・講習の充実	福祉協力委員の増員	地域住民や地域関係者の理解促進	事務局のサポート体制の強化	他の地域活動関係者との連携強化	福祉事業者等との連携強化	特にない	その他	無回答
		割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
	全体	325 100.0	66 20.3	47 14.5	54 16.6	183 56.3	43 13.2	40 12.3	35 10.8	45 13.8	8 2.5	12 3.7
性別	男性	152 100.0	27 17.8	24 15.8	31 20.4	69 45.4	23 15.1	15 9.9	11 7.2	30 19.7	6 3.9	7 4.6
	女性	149 100.0	32 21.5	21 14.1	20 13.4	102 68.5	17 11.4	23 15.4	19 12.8	11 7.4	2 1.3	4 2.7
	無回答	24 100.0	7 29.2	2 8.3	3 12.5	12 50.0	3 12.5	2 8.3	5 20.8	4 16.7	-	1 4.2

(5) 今後の活動の意向

Q26 あなたは今後、福祉協力委員としての活動をどのようにしていきたいと思いますか。
(〇は一つ)

「今のペースで続けたい」が52.0%と最も多く、次いで「近いうちにやめたい」が14.5%、「今より活動を減らしたい」が7.4%となっています。

Q26 今後の活動の意向



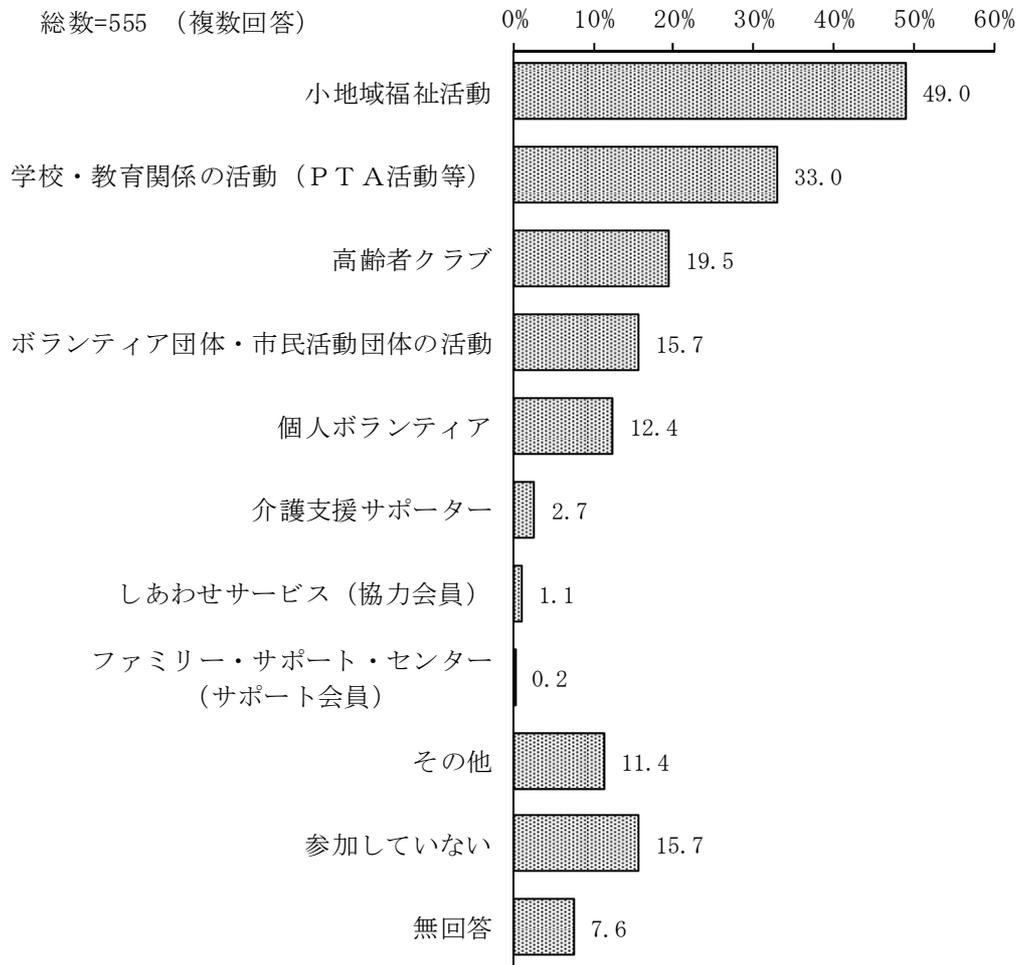
5. その他の地域活動について

(1) 地域活動への参加状況

Q27 あなたは、自治町会活動や福祉協力委員活動以外に、地域活動に参加していますか。
参加している方はその活動をお答えください。(〇はいくつでも)

「小地域福祉活動」が49.0%と最も多く、次いで「学校・教育関係の活動（PTA活動等）」が33.0%、「高齢者クラブ」が19.5%、「ボランティア団体・市民活動団体の活動」が15.7%となっています。8割近くの方が何らかの活動に参加していると回答しており、「参加していない」という回答は15.7%でした。

Q27 地域活動への参加状況

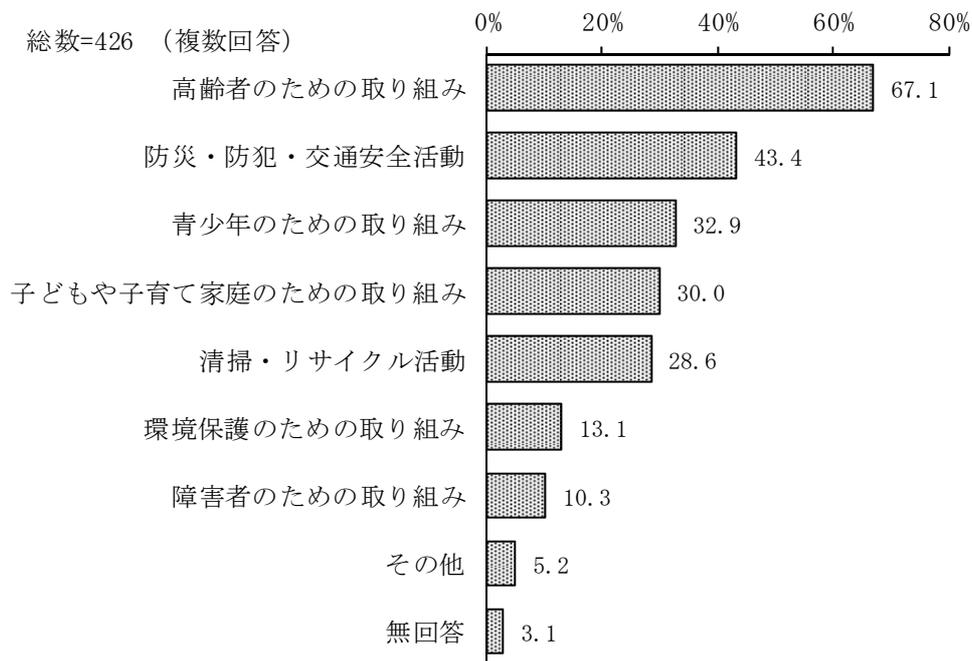


(2) 参加している地域活動の内容

Q28 Q27で「参加している(1~9)」と答えた方にお聞きします。あなたが参加している地域活動では、どのような取り組みをしていますか。複数の地域活動に参加している方は、全ての地域活動についてお答えください。(〇はいくつでも)

「高齢者のための取り組み」が67.1%と最も多く、次いで「防災・防犯・交通安全活動」が43.4%、「青少年のための取り組み」が32.9%、「子どもや子育て家庭のための取り組み」が30.0%となっています。

Q28① 参加している地域活動の内容



男女別に見ると、女性では「高齢者のための取り組み」「子どもや子育て家庭のための取り組み」の割合が男性より高く、男性では「防災・防犯・交通安全活動」「青少年のための取り組み」「清掃・リサイクル活動」の割合が女性より高くなっています。

Q28② 参加している地域活動の内容【男女別】

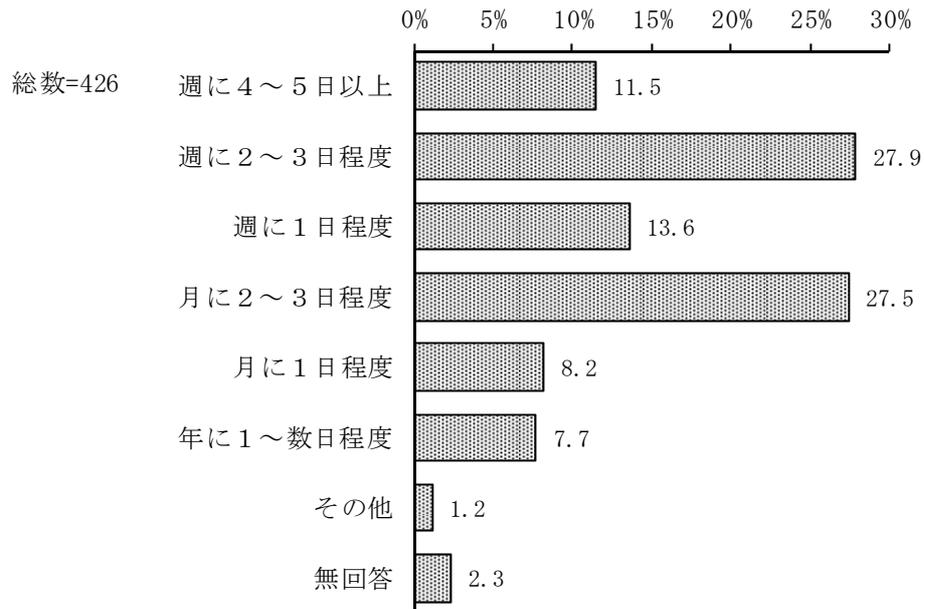
		地域活動の内容									
		全体	高齢者のための取り組み	障害者のための取り組み	子どもや子育て家庭のための取り組み	青少年のための取り組み	環境保護のための取り組み	清掃・リサイクル活動	防災・防犯・交通安全活動	その他	無回答
	全体	426 100.0	286 67.1	44 10.3	128 30.0	140 32.9	56 13.1	122 28.6	185 43.4	22 5.2	13 3.1
性別	男性	200 100.0	118 59.0	19 9.5	46 23.0	83 41.5	36 18.0	70 35.0	111 55.5	11 5.5	10 5.0
	女性	203 100.0	152 74.9	23 11.3	77 37.9	54 26.6	18 8.9	44 21.7	62 30.5	10 4.9	3 1.5
	無回答	23 100.0	16 69.6	2 8.7	5 21.7	3 13.0	2 8.7	8 34.8	12 52.2	1 4.3	-

(3) 地域活動への参加頻度

Q29 あなたは、どのくらいの頻度で地域活動に参加していますか。複数の地域活動に参加している方は、全ての地域活動を合わせた頻度をお答えください。(〇は一つ)

「週に2～3日程度」が27.9%と最も多く、次いで「月に2～3日程度」が27.5%、「週に1日程度」が13.6%、「週に4～5日以上」が11.5%となっています。

Q29 地域活動への参加頻度

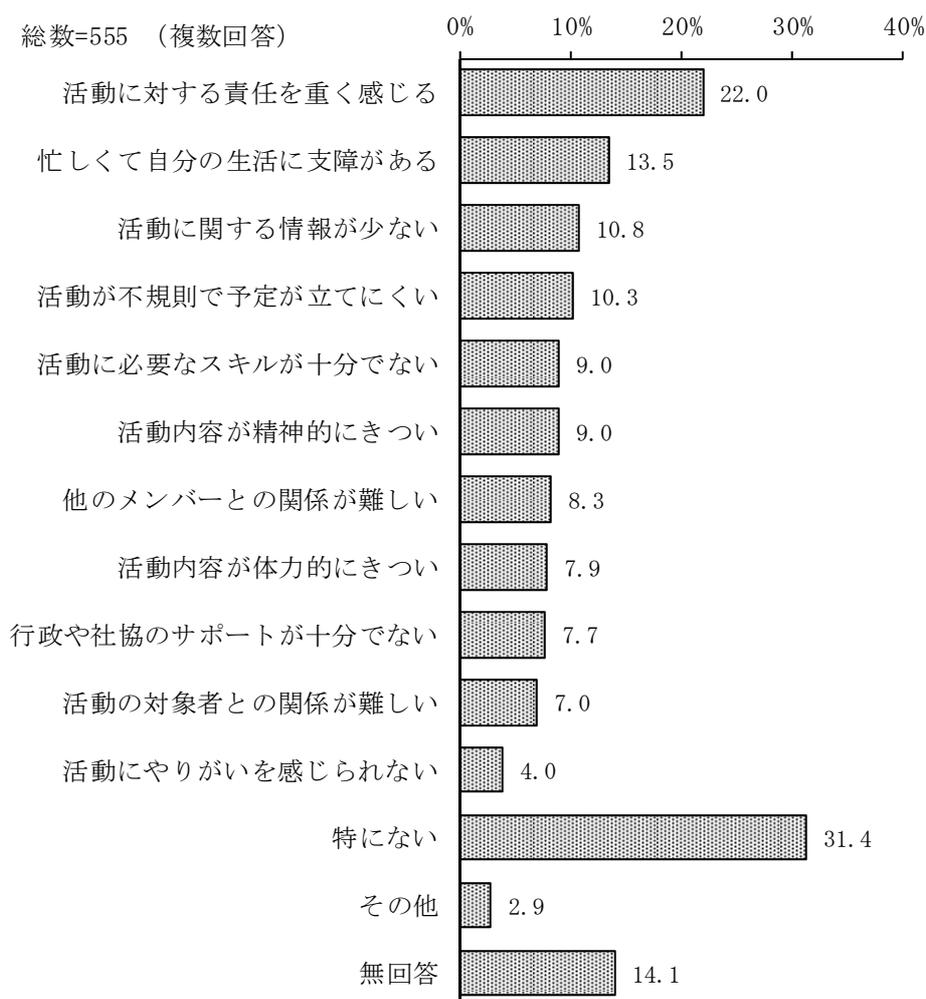


(4) 地域活動に関して困っていること

Q30 あなたには、地域活動に関して困っていることはありますか。(〇はいくつでも)

「活動に対する責任を重く感じる」が22.0%と最も多く、次いで「忙しくて自分の生活に支障がある」が13.5%、「活動に関する情報が少ない」が10.8%、「活動が不規則で予定が立てにくい」が10.3%となっています。「特にない」は31.4%でした。

Q30 地域活動に関して困っていること

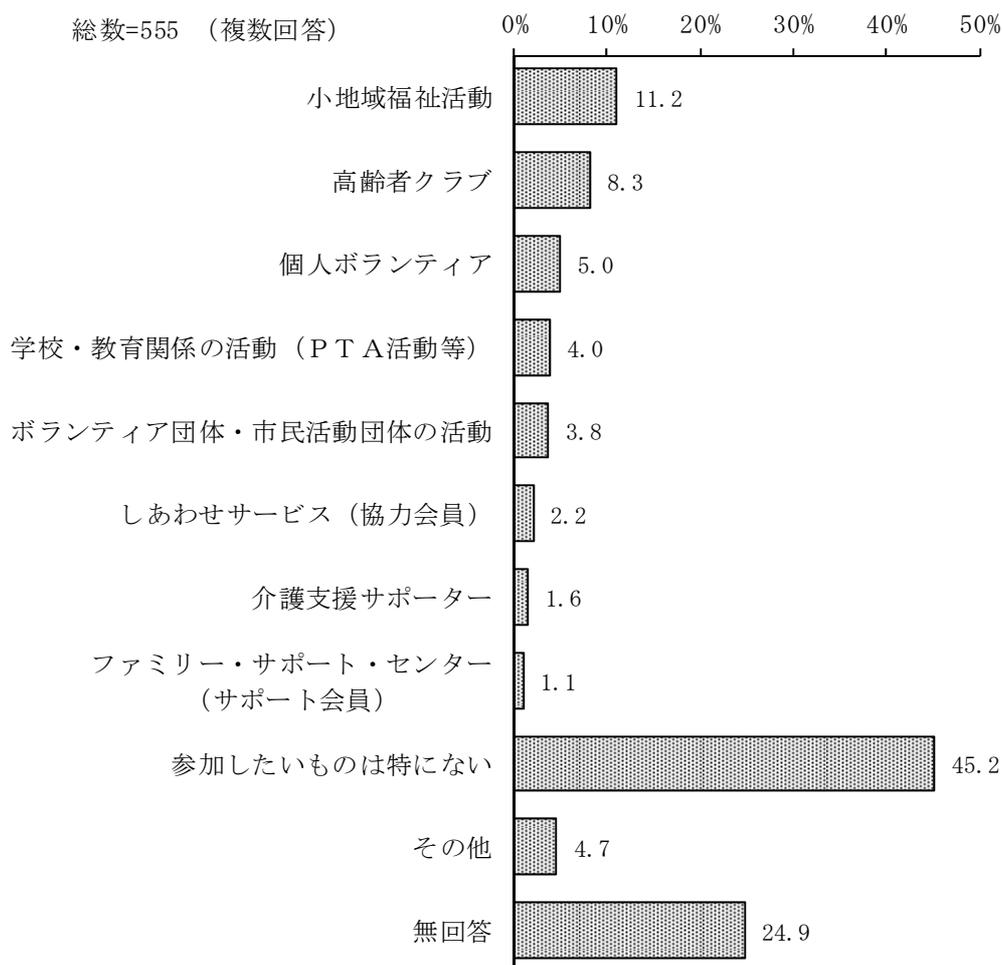


(5) 今後の地域活動への参加意向

Q31 あなたは今後、現在参加しているもの以外の地域活動に新たに参加したいと思いますか。参加したい方はその活動をお答えください。(〇はいくつでも)

「小地域福祉活動」が11.2%と最も多く、次いで「高齢者クラブ」が8.3%、「個人ボランティア」が5.0%、「学校・教育関係の活動（PTA活動等）」が4.0%となっています。「参加したいものは特にない」は45.2%でした。

Q31 今後の地域活動への参加意向



6. 社協について

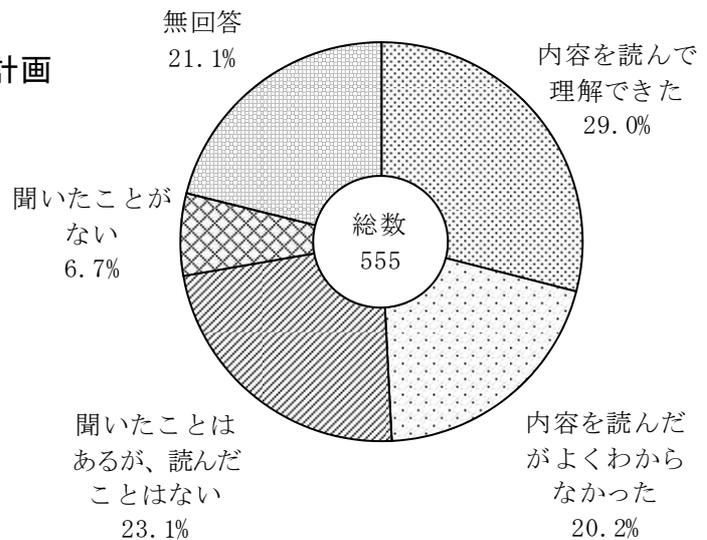
(1) 社協の情報・事業の認知状況

Q32 次の社協の情報や事業について、あてはまるものをお答えください。(それぞれ○は一つ)

①第2次葛飾区地域福祉活動計画（平成24～28年度）

「内容を読んで理解できた」が29.0%と最も多く、次いで「聞いたことはあるが、読んだことはない」が23.1%、「内容を読んだがよくわからなかった」が20.2%、「聞いたことがない」が6.7%となっています。

Q32①-1 第2次葛飾区地域福祉活動計画 （平成24～28年度）



年代別にみると、「内容を読んで理解できた」の割合は年齢が上がるにつれて高くなる傾向にあり、60歳未満や60歳代では2割台半ばですが、70歳代では3割あまり、80歳以上では4割台半ばに上っています。

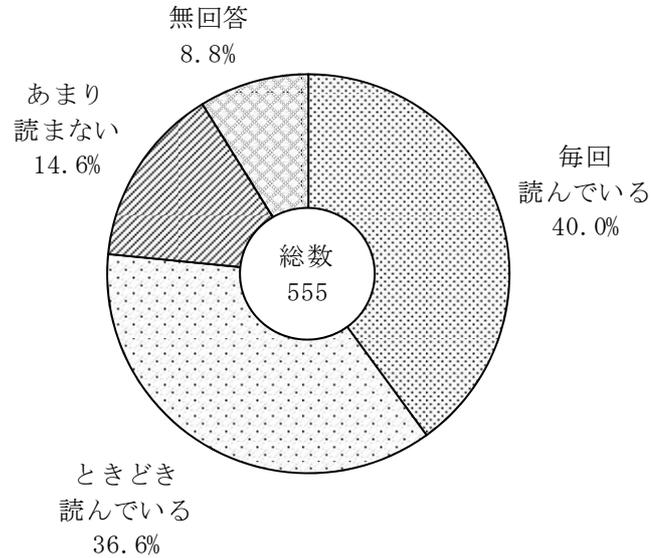
Q32①-2 第2次葛飾区地域福祉活動計画（平成24～28年度）【年代別】

	全体	認知状況					無回答
		内容を読んで理解できた	よく内容を読んだがよくわからなかった	聞いたことはあるが、読んだことはない	聞いたことがない	無回答	
全体	555 100.0	161 29.0	112 20.2	128 23.1	37 6.7	117 21.1	
年齢	60歳未満	73 100.0	18 24.7	16 21.9	23 31.5	7 9.6	9 12.3
	60歳代	200 100.0	50 25.0	54 27.0	51 25.5	17 8.5	28 14.0
	70歳代	185 100.0	62 33.5	25 13.5	42 22.7	8 4.3	48 25.9
	80歳以上	44 100.0	20 45.5	4 9.1	4 9.1	2 4.5	14 31.8
	無回答	53 100.0	11 20.8	13 24.5	8 15.1	3 5.7	18 34.0

②社協だより

「毎回読んでいる」が40.0%と最も多く、次いで「ときどき読んでいる」が36.6%、「あまり読まない」が14.6%となっています。

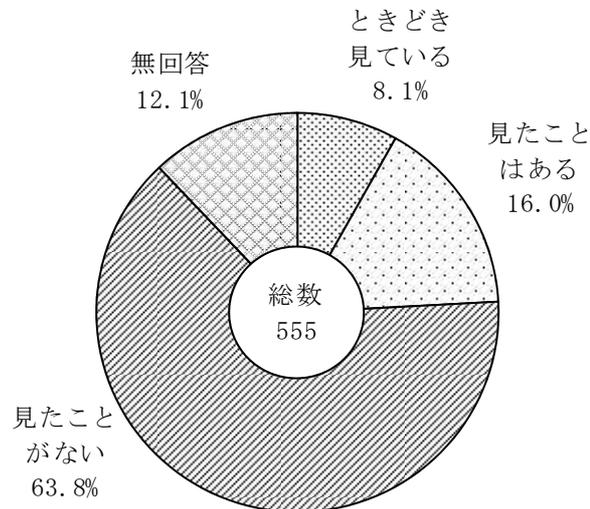
Q32② 社協だより



③社協ホームページ

「見たことがない」が63.8%と最も多く、次いで「見たことはある」が16.0%、「ときどき見ている」が8.1%となっています。

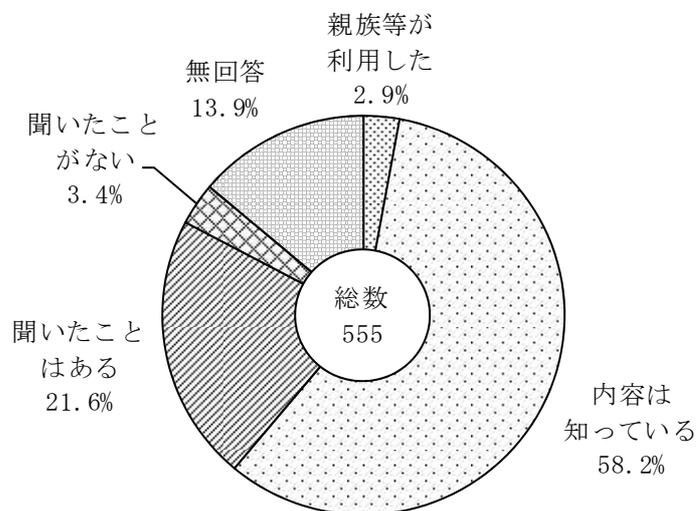
Q32③ 社協ホームページ



④成年後見制度

「内容は知っている」が58.2%と最も多く、次いで「聞いたことはある」が21.6%、「聞いたことがない」が3.4%、「親族等が利用した」が2.9%となっています。

Q32④-1 成年後見制度



役職別に見ると、「内容は知っている」の割合は民生委員では7割あまり、福祉協力委員では約6割となっていますが、町会長では約半数とやや低くなっています。

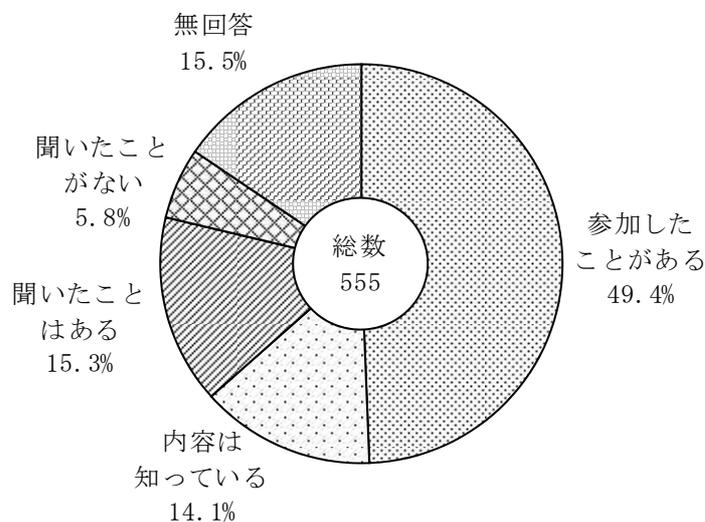
Q32④-2 成年後見制度【役職別】

		全体	親族等 が利用した	内容は 知っている	聞いた ことは ある	聞いた ことが ない	無回 答
全体		555 100.0	16 2.9	323 58.2	120 21.6	19 3.4	77 13.9
役職	町会長	164 100.0	3 1.8	81 49.4	37 22.6	10 6.1	33 20.1
	福祉協力委員	325 100.0	10 3.1	196 60.3	75 23.1	8 2.5	36 11.1
	民生委員・児童委員、 主任児童委員	279 100.0	10 3.6	205 73.5	47 16.8	1 0.4	16 5.7
	あてはまるものはない	11 100.0	-	1 9.1	3 27.3	2 18.2	5 45.5
	無回答	- *	- *	- *	- *	- *	- *

⑤小地域福祉活動

「参加したことがある」が49.4%と最も多く、次いで「聞いたことはある」が15.3%、「内容は知っている」が14.1%、「聞いたことがない」が5.8%となっています。

Q32⑤-1 小地域福祉活動



男女別に見ると、「参加したことがある」の割合は女性では6割台半ばと男性より20ポイント以上高くなっています。

Q32⑤-2 小地域福祉活動【男女別】

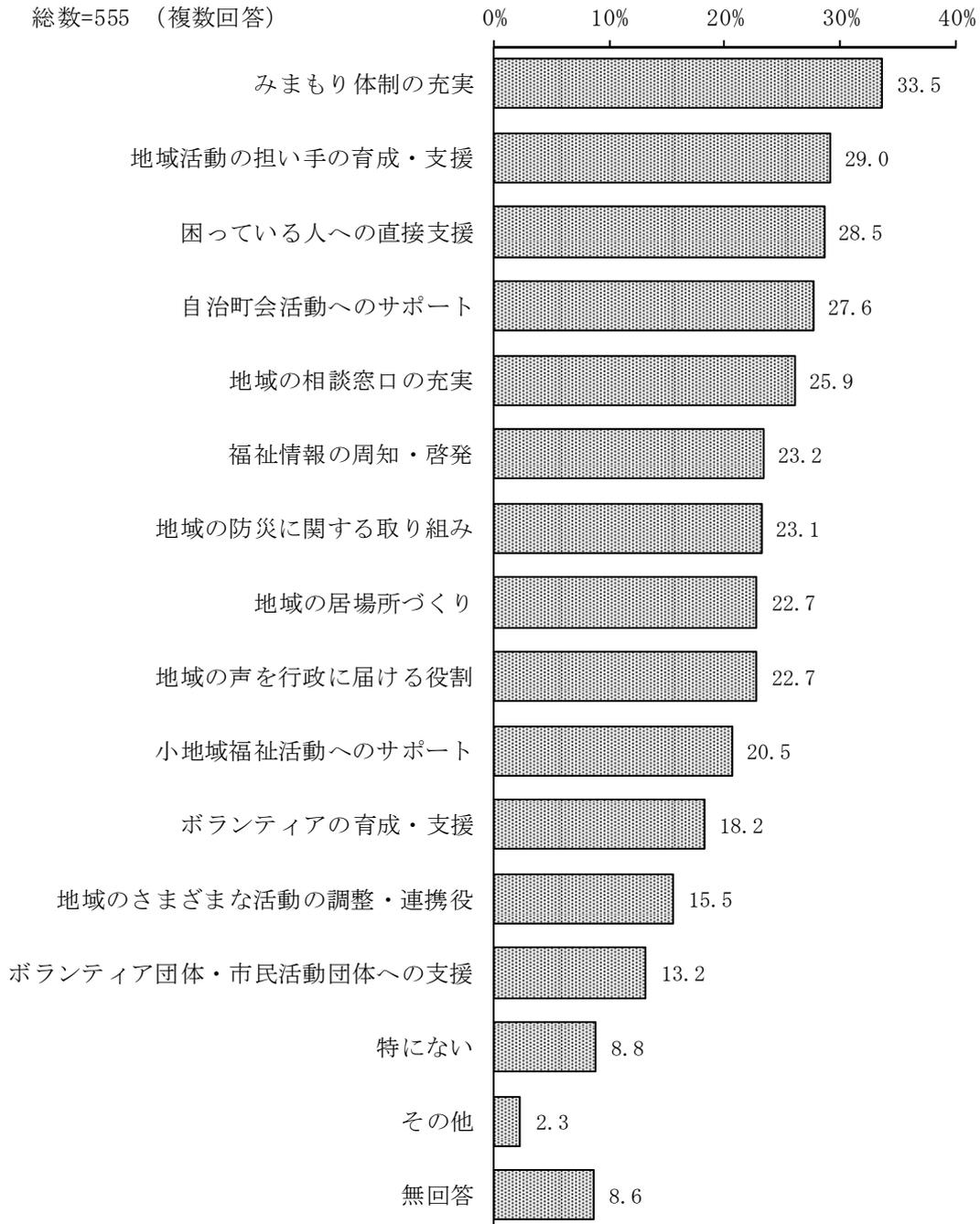
		全体	参加したことがある	内容は知っている	聞いたことはある	聞いたことがない	無回答
全体		555 100.0	274 49.4	78 14.1	85 15.3	32 5.8	86 15.5
性別	男性	270 100.0	101 37.4	41 15.2	54 20.0	25 9.3	49 18.1
	女性	249 100.0	160 64.3	32 12.9	27 10.8	5 2.0	25 10.0
	無回答	36 100.0	13 36.1	5 13.9	4 11.1	2 5.6	12 33.3

(2) 社協に期待すること

Q33 あなたは今後、社協にどのようなことを期待しますか。(〇はいくつでも)

「みまもり体制の充実」が33.5%と最も多く、次いで「地域活動の担い手の育成・支援」が29.0%、「困っている人への直接支援」が28.5%、「自治町会活動へのサポート」が27.6%となっています。

Q33 社協に期待すること



7. 自由意見

Q34 自治町会活動や福祉協力委員活動、社協の事業に関することなど、地域福祉活動を進める上でご意見等、何かありましたら、ご自由にお書き下さい。(記述式)

101 件の回答がありました。「福祉協力委員活動・会員会費」に関する回答が 32 件と最も多く、次いで「町会の活動・運営」が 26 件、「地域福祉活動」「社協の取り組み・PR など」がそれぞれ 23 件、「地域人材（町会役員など）」が 22 件となっています。

Q34 自由意見

項目	件数	項目	件数
福祉協力委員活動・会員会費	32	地域の現状・地域住民	17
町会の活動・運営	26	高齢者	12
地域福祉活動	23	行政	11
社協の取り組み・PR など	23	その他	22
地域人材（町会役員など）	22		

※ 複数の項目にまたがる回答があるため、各項目の件数の合計は回答数を上回ります。

◆ 主な意見（紙幅の関係で内容を要約・省略している場合があります）

意見	性別・年齢	役職	地区
福祉協力委員としての活動で年一度の会費集めが大変です。75 歳を超えている人もたくさんおります。気持ちよく会費を納付してくれますが、形としてのお礼が出来ず、心苦しく思っております。長い間会員の方にはポイント制などを導入してご本人が福祉のサービスを必要になった時に利用できる優先制のサービスを実現して欲しいと強く思っております。	女性 70 歳代	福祉協力委員 民生委員	西水元
社協の会費を頂くのも、今は昔から頂いている人も高齢者になり、その方々からお金をもらうのはとても心苦しい思いをしています。新規を取るのも大変です。	女性 60 歳代	福祉協力委員 民生委員	無回答
会員増強のため、会費徴収をしていますが、会員は皆かなりの高齢者で協力できないと言われることが多くなっている。新たに協力を得ることは、なかなか難しい。	女性 60 歳代	福祉協力委員 民生委員	水元
福祉協力委員の会への勧誘・会員から会費を集金するのは毎年大変負担です。町会の役員になられた方に無理にお願いしている状態で何かと協力、お仕事をしている方をお願いしています。一般には知られていないから余計に気が重いです。	女性 60 歳代	福祉協力委員 民生委員	お花茶屋
私達の町会役員 25 名中半数以上が 70 歳以上で町会運営も大変厳しい。役員歴 20 年、30 年の人が多い。またアパートが増え、町会未加入者が多く、年々町会費収入が減っているため、町会行事等の見直しも考えている。	男性 70 歳代	町会長 民生委員	東四つ木

意見	性別・年齢	役職	地区
昨今、どこの町会でも役員の高齢化で年齢を考えると町会祭礼、納涼大会、その小さな行事はありますが、若い方の役員の加入がないまま今日まで来てしまい、若い方々の行事が考えられない。社協で若い方が役員になれそうな行事等がありましたら良いアイデアを教えてください。	男性 70歳代	町会長 民生委員	水元
新しい住民で町会に入らない人の増加。高齢化で会費負担がきつく、退会する人の増加、積極的に外へ出て活動に参加する人達が多いと良いのですが、出たがらない人が多いので困ります。	男性 60歳代	町会長 福祉協力委員 民生委員	亀有
町会活動について。高齢者の見守り、防災対策が心配です。町会役員の高齢化、人員減（なり手がいない）などで。毎年既存の行事で手一杯、新しいことにとりかかる意欲がもてません。	女性 60歳代	福祉協力委員 民生委員	立石
社協の指導、推進事業であります「小地域福祉活動」は現在自治町会連合会単位で活動しておりますが、より小地域（単位町会）での活動の方が地域での見守りが確実ではないでしょうか？	男性 70歳代	町会長 福祉協力委員 民生委員	東金町
福祉という言葉のイメージ（生活保護・障害者・高齢者）が強く、民生委員が対応との理解。これからの地域福祉は地域と居住する全ての人が協力し、健康と生きがいを持てる社会、安全安心のまちづくりに努めて行かなければならないと思います。	男性 60歳代	町会長 福祉協力委員 民生委員	東金町
小地域福祉活動の区全体への拡がりは良いと思う。社協への理解が一般に少ないので、広報宣伝活動を活発にして、一般の方への理解を得ていくことが必要。	男性 70歳代	福祉協力委員 民生委員	新小岩
地域福祉活動の重要性は理解できますが、負担になる方も見受けられます。少し活動によっては共有できるものはまとめられると良いかと感じます。また、参加状況によっては必要性を見なおす必要もあるかと思っています。継続に拘る必要はないと思います。	女性 50歳代	民生委員	金町
社協の活動が限定的に感じます。もっと幅広く活動状況が一般の方に知られるよう努力すべき（予算の都合もあると思いますが）。	男性 60歳代	町会長	新小岩北
社会福祉協議会の認知度が低い。従って、会員数も増えない。町内会に積極的に入り込み、活動内容等の周知を図って頂きたい。	男性 60歳代	町会長 福祉協力委員	お花茶屋
社協の存在を知らない人がほとんどだと思います。私自身民生委員、福祉協力委員になってはじめて知りました。地方の人と話していると社協の存在が浸透しているようで、その差にびっくりしています。	男性 60歳代	福祉協力委員 民生委員	四つ木
自治会役員、地域役員、民生委員等何かしらの団体の活動のお手伝いをしています。各々の団体に関わる方々が全体として高齢化しており、次の代を担う若い方が見つかりにくく苦慮しています。多くの若い方の参加を切に願うばかりです。	女性 60歳代	民生委員	無回答
町会の行事（防災訓練、クリーン作戦、盆踊り、祭り等々）に参加してくれている町会会員に、私達役員が声をかけて勧誘しています。声をかけることによって今すぐではなく、少しでも町会活動に関心を持ってもらうことが大切と思っています。尚、会社を退職なさった人にも声をかけるように心掛けています。	男性 70歳代	町会長 福祉協力委員	新宿

意見	性別・年齢	役職	地区
マンション等が増え地元以外の人たちが多くなったせいか、地元愛が感じられず町会などに無関心な人が多い。悲しいことだ。町会の規模が広すぎて役員のみならず手も少なく、温かみがない。もう少し狭い範囲で目の届くようにしたらどうか？	女性 70歳代	福祉協力委員 民生委員	立石
地域に住み60年です。地域の人々との付き合いが薄くなり、震災等があった場合、地域の協力ができるか不安です。自助の役、社協のリーダーシップを期待します。町会全世帯数700世帯、会員300世帯、一人暮らしの方80世帯、70歳以上の高齢者220人、子供、孫の時代が来た時のことを考えますと高齢者の自立を深く考えます。	女性 60歳代	民生委員	南綾瀬
高齢者社会を迎え、これからの地域福祉活動は健康の方々が1年でも長く健康でいられるために、高齢者が気軽に集うことが出来る場所の拡大、充実、イベント等を多く企画、計画していくことが必要。	男性 70歳代	町会長	四つ木
一人暮らしの高齢者が楽しめる場所、参加していただける会を考えていますが、家に閉じこもってしまった方を誘いの声をかけても参加して下さった方はまだ一回もありませんが、諦めることなく声掛けをしていこうと思っております。	女性 60歳代	民生委員	奥戸
本来役所がすべきことをあまりに多く自治会に代行させている割には、自治会への補助金が少額過ぎると思います。町会長は大変です。このままでは町会長のなり手がなくなり町会解散というようなことが近い将来出てくると思います。自治会が解散したら役所は大変なことになるということを考えてください。	男性 70歳代	町会長	新小岩北
行政から見れば地域の町会長を始め、地域の人々の協力無くして福祉事業の推進は不可能です。ただ、より専門性が高い現在の事業内容を私達が理解、お手伝いすることが困難になっているのも事実です。せっきくの制度が地域の隅々まで周知されるようになるにはさらなる工夫が必要です。	男性 60歳代	福祉協力委員	奥戸
地域の防災に関する取り組み等、学校、自治町会と連携し、これからも協力をしたい。	男性 70歳代	町会長 福祉協力委員	立石
災害時において高齢者を助けるか、その責任どころが不明確。社協と町会等がしっかり取り組んで欲しい。民生委員がやればいいという声が町会で開かれる。とても残念です。	女性 60歳代	福祉協力委員 民生委員	東四つ木
子ども達のインターンシップを推進してほしい。たまに小学生の商店への派遣を見かけるが少々首かしげる。もっと葛飾区らしいやり方があると考えている。他の区と比較してみてもはどうだろうか？	女性 60歳代	民生委員	水元
「人は助けあって生きていく」という精神を幼いころからどう育てるか、幼子に同地域の人々の姿を見せて育てるか、時間はかかるが、最重要課題である。	女性 50歳代	民生委員	高砂

Ⅱ. 社協事業協力者調査

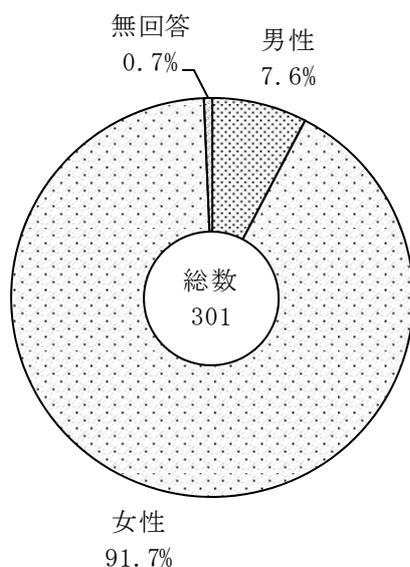
1. ご本人について

(1) 性別

Q 1 あなたの性別をお聞きします。(〇は一つ)

「女性」が91.7%と、「男性」の7.6%を大きく上回っています。

Q 1 性別

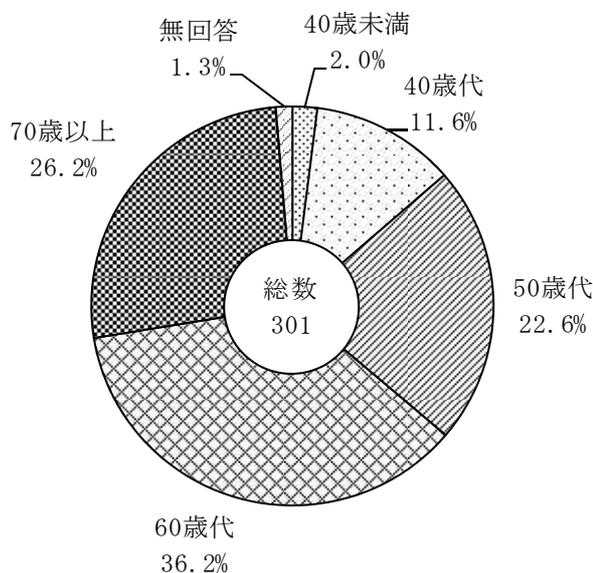


(2) 年齢

Q 2 あなたの年齢をお聞きします。平成 28 年 4 月 1 日現在の年齢を、下の枠内にご記入ください。

「60歳代」が36.2%と最も多く、次いで「70歳以上」が26.2%、「50歳代」が22.6%、「40歳代」が11.6%となっています。6割あまりが60歳以上という結果でした。

Q 2 年齢

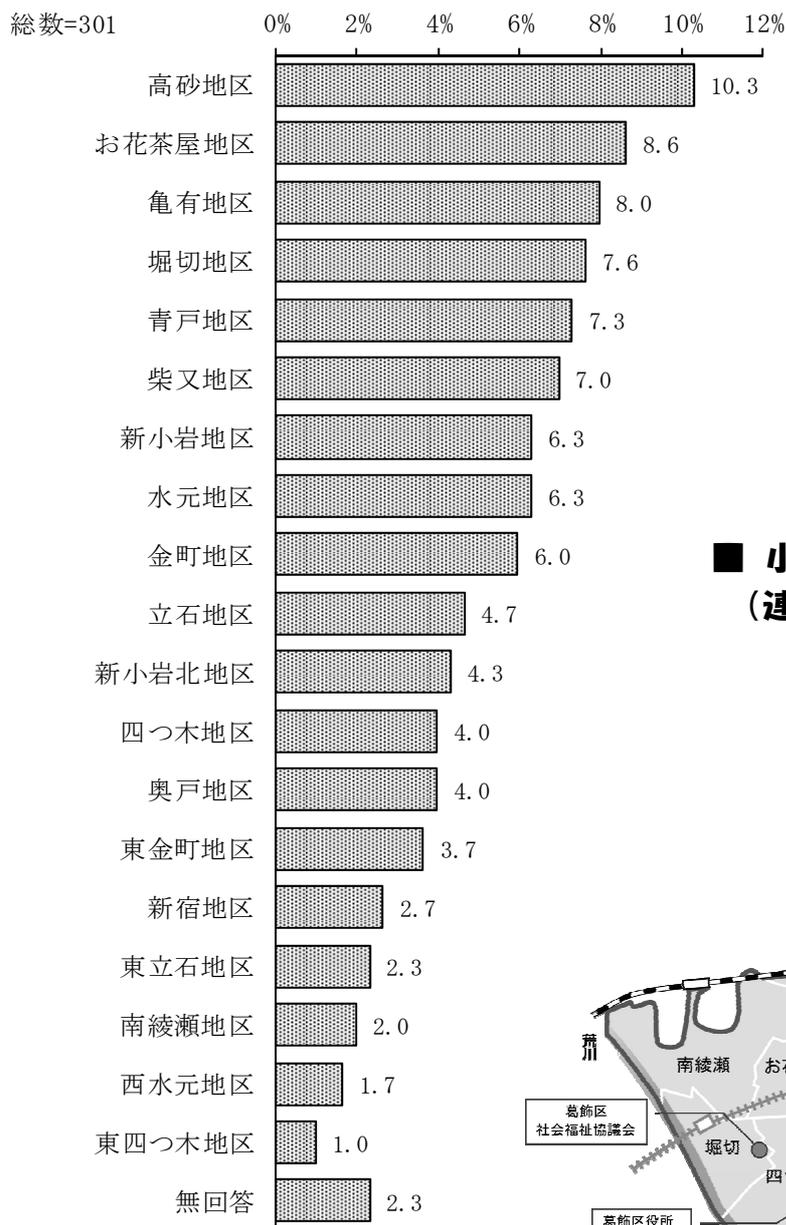


(3) 居住地区

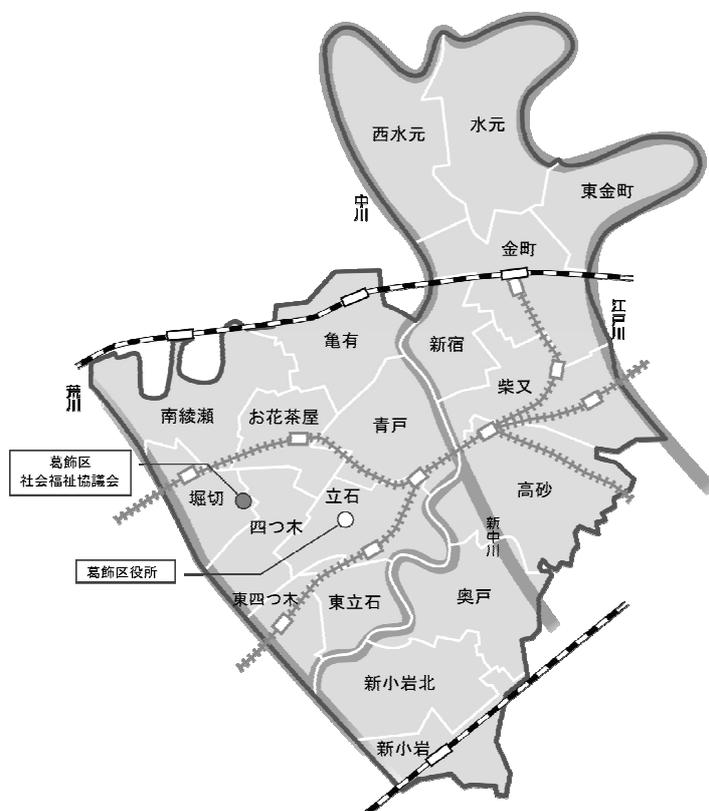
Q3 あなたがお住まいの地区をお聞きます。(〇は一つ)

「高砂地区」が10.3%と最も多く、次いで「お花茶屋地区」が8.6%、「亀有地区」が8.0%、「堀切地区」が7.6%、「青戸地区」が7.3%となっています。

Q3 居住地区



■ 小地域福祉活動の地区 (連合町会単位 19地区)



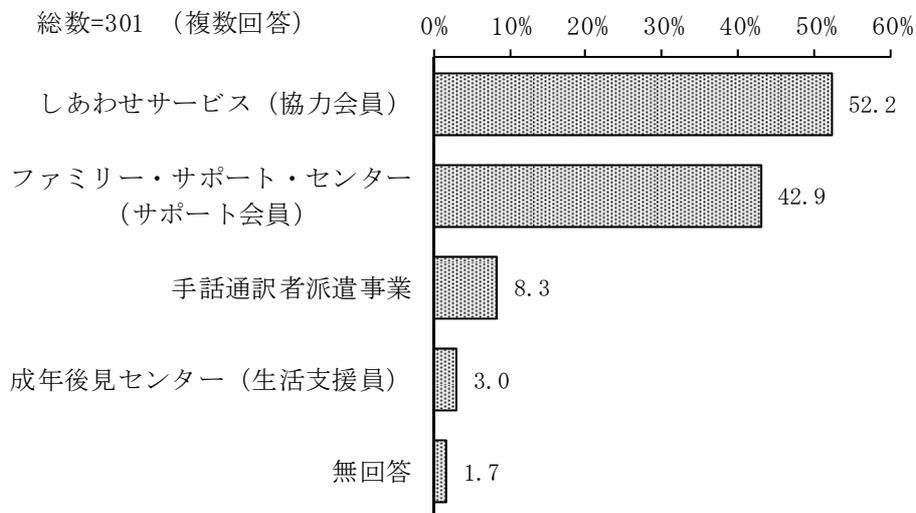
2. ご協力いただいている社協事業について

(1) ご協力いただいている事業

Q 4 あなたがご協力くださっている社協の事業をお聞きします。(〇は一つ)

「しあわせサービス (協力会員)」が 52.2%と最も多く、次いで「ファミリー・サポート・センター (サポート会員)」が 42.9%、「手話通訳者派遣事業」が 8.3%、「成年後見センター (生活支援員)」が 3.0%となっています。

Q 4 ご協力いただいている事業



以下の設問（Q5～Q10）では、2つ以上の事業にご協力いただいている方には事業ごとに複数お答えいただいた関係で、母数が有効回収数を上回っています。

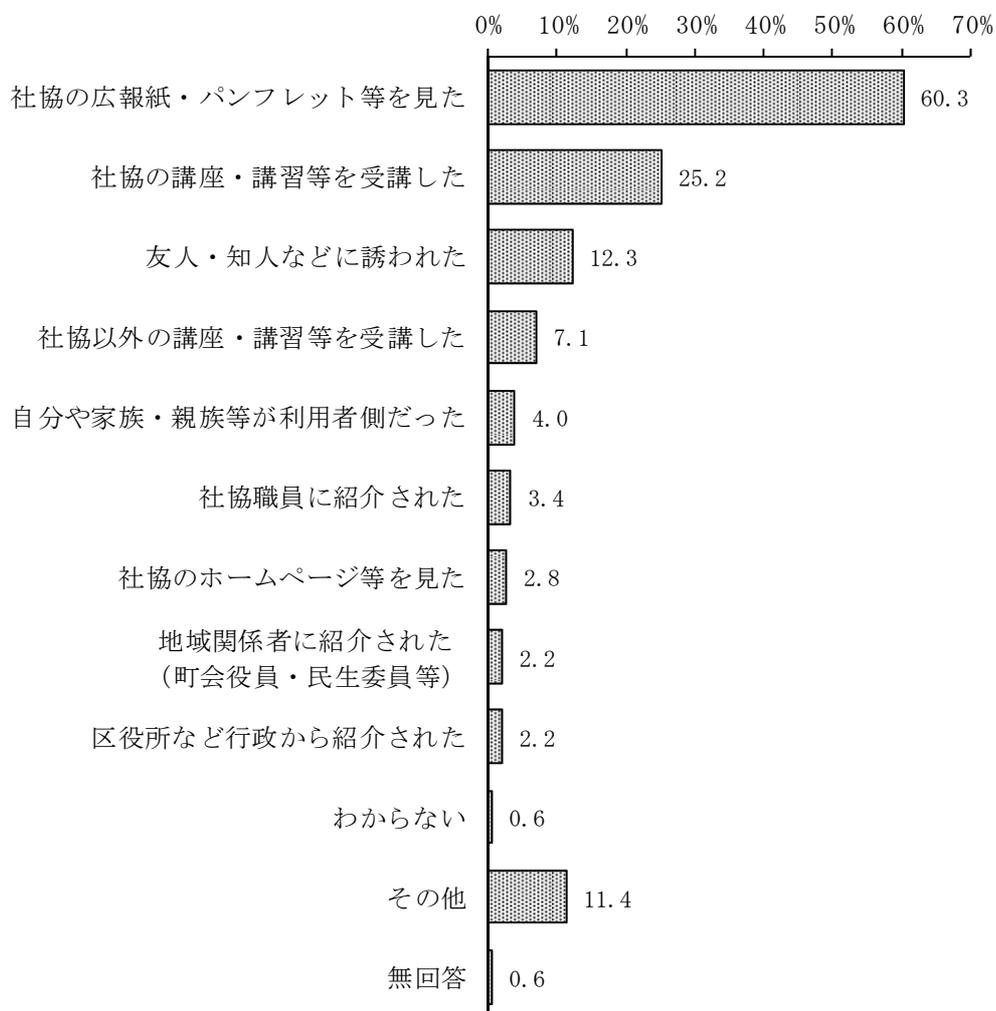
（2）協力者になったきっかけ

Q5 あなたが社協事業に協力して下さるようになったきっかけは何ですか。（〇はいくつで

「社協の広報紙・パンフレット等を見た」が60.3%と最も多く、次いで「社協の講座・講習等を受講した」が25.2%、「友人・知人などに誘われた」が12.3%、「社協以外の講座・講習等を受講した」が7.1%となっています。

Q5① 協力者になったきっかけ

総数=325（複数回答）



協力事業別に見ると、手話通訳者派遣事業では「社協の講座・講習等を受講した」、それ以外の事業では「社協の広報紙・パンフレット等を見た」の割合が最も高くなっています。

Q5② 協力者になったきっかけ【協力事業別】

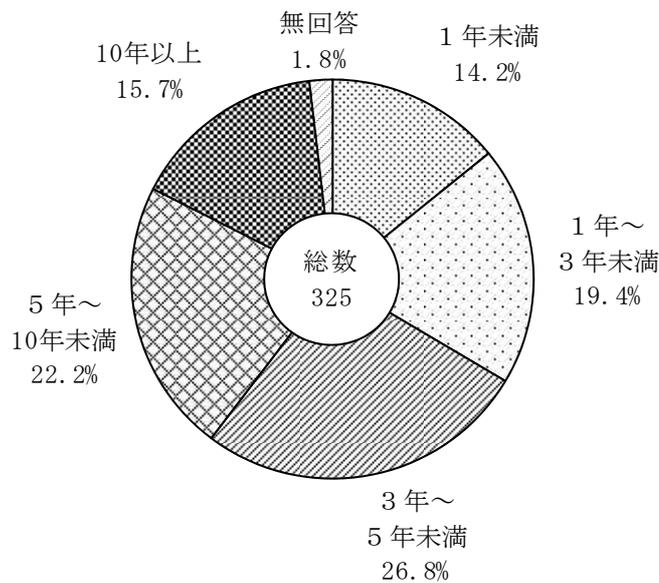
	全体	友人・知人などに誘われた	社協職員に紹介された	地域関係者に紹介された (町会役員・民生委員等)	区役所など行政から紹介された	自分や家族・親族等が利用者側だった	社協の講座・講習等を受講した	社協以外の講座・講習等を受講した	社協の広報紙・パンフレット等を見た	社協のホームページ等を見た	わからない	その他	無回答	
全体	325 100.0	40 12.3	11 3.4	7 2.2	7 2.2	13 4.0	82 25.2	23 7.1	196 60.3	9 2.8	2 0.6	37 11.4	2 0.6	
協力している事業	しあわせサービス (協力会員)	157 100.0	19 12.1	5 3.2	3 1.9	3 1.9	5 3.2	37 23.6	14 8.9	108 68.8	2 1.3	-	15 9.6	1 0.6
	ファミリー・サポート・センター (サポート会員)	129 100.0	17 13.2	5 3.9	4 3.1	2 1.6	7 5.4	22 17.1	7 5.4	76 58.9	6 4.7	2 1.6	17 13.2	-
	手話通訳者派遣事業	25 100.0	4 16.0	1 4.0	-	2 8.0	1 4.0	20 80.0	1 4.0	1 4.0	1 4.0	-	3 12.0	-
	成年後見センター (生活支援員)	9 100.0	-	-	-	-	-	1 11.1	-	9 100.0	-	-	-	-
	無回答	5 100.0	-	-	-	-	-	2 40.0	1 20.0	2 40.0	-	-	2 40.0	1 20.0

(3) 協力している年数

Q6 社協事業にご協力いただいている年数をお聞きます。(○は一つ)

「3年～5年未満」が26.8%と最も多く、次いで「5年～10年未満」が22.2%、「1年～3年未満」が19.4%、「10年以上」が15.7%、「1年未満」が14.2%となっています。

Q6① 協力している年数



協力事業別に見ると、手話通訳者派遣事業では「10年以上」の割合が高くなっています。

Q6② 協力している年数【協力事業別】

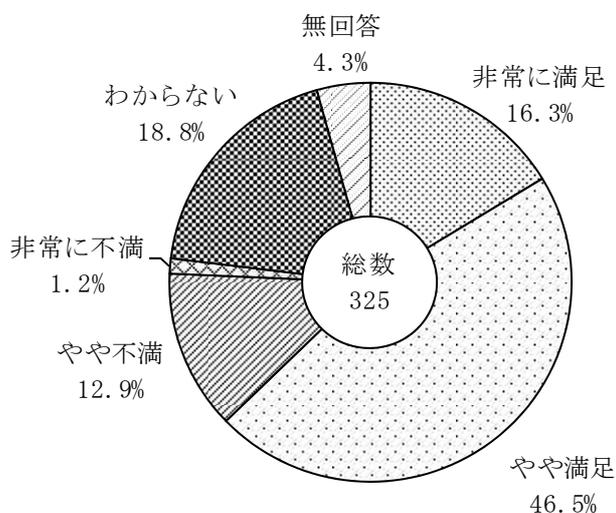
		全体	1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年以上	無回答
全体		325 100.0	46 14.2	63 19.4	87 26.8	72 22.2	51 15.7	6 1.8
協力している事業	しあわせサービス (協力会員)	157 100.0	21 13.4	29 18.5	49 31.2	34 21.7	24 15.3	-
	ファミリー・サポート・センター (サポート会員)	129 100.0	24 18.6	25 19.4	30 23.3	29 22.5	17 13.2	4 3.1
	手話通訳者派遣事業	25 100.0	1 4.0	4 16.0	6 24.0	6 24.0	8 32.0	-
	成年後見センター (生活支援員)	9 100.0	-	4 44.4	2 22.2	3 33.3	-	-
	無回答	5 100.0	-	1 20.0	-	-	2 40.0	2 40.0

(4) 活動の満足度

Q7 あなたは、社協事業の活動に参加してどのように感じていますか。(○は一つ)

「やや満足」が46.5%と最も多く、次いで「非常に満足」が16.3%、「やや不満」が12.9%となっています。どちらかと言えば満足という回答は6割あまり、どちらかと言えば不満という回答は1割あまりとなっています。

Q7 活動の満足度

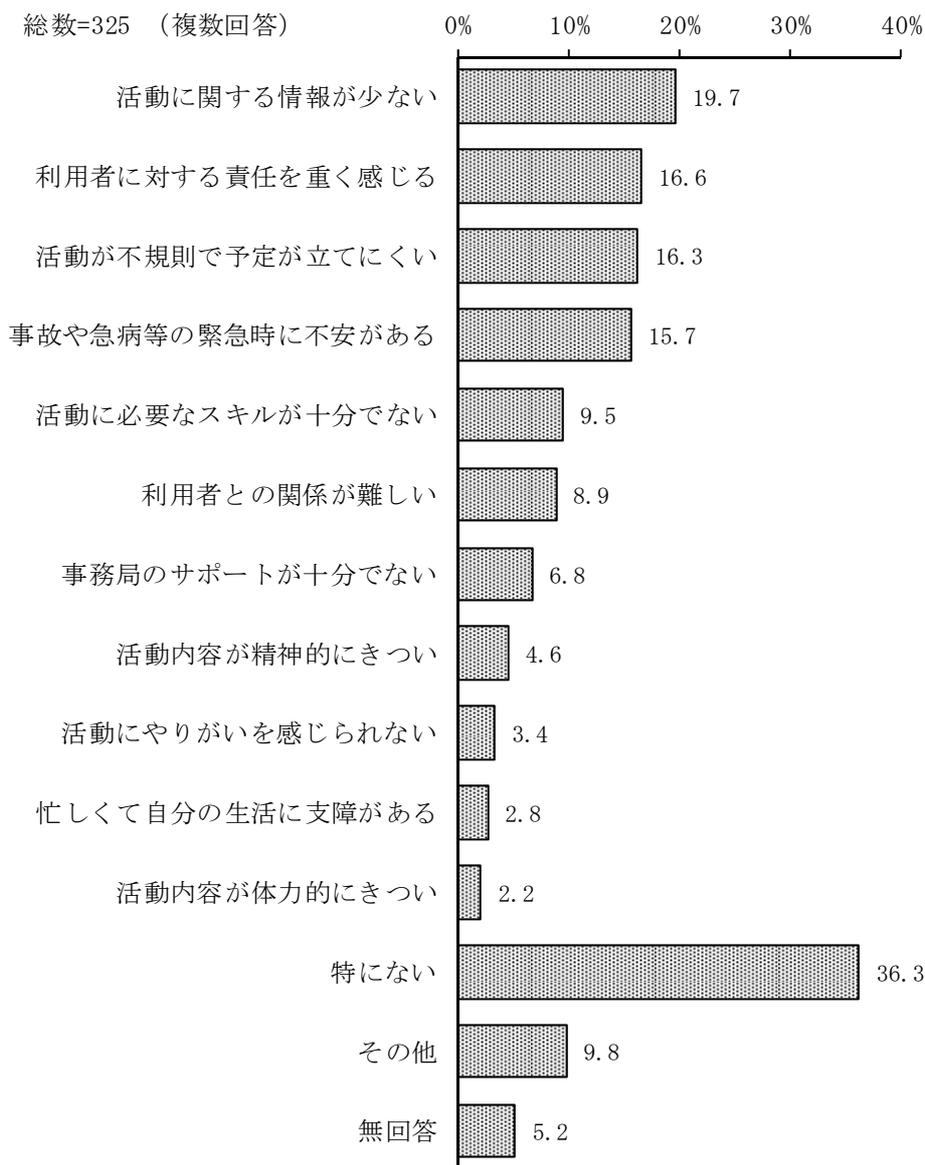


(5) 活動に関して困っていること

Q 8 あなたには、社協事業の活動に関して困っていることはありますか。(〇はいくつでも)

「活動に関する情報が少ない」が19.7%と最も多く、次いで「利用者に対する責任を重く感じる」が16.6%、「活動が不規則で予定を立てにくい」が16.3%、「事故や急病等の緊急時に不安がある」が15.7%となっています。「特にない」という回答は36.3%でした。

Q 8 ① 活動に関して困っていること



協力事業別に見ると、手話通訳者派遣事業では「利用者に対する責任を重く感じる」「活動に必要なスキルが十分でない」「事故や急病等の緊急時に不安がある」の割合が高くなっています。

協力年数別に見ると、1年～3年未満では「活動に関する情報が少ない」が、5年以上では「利用者に対する責任を重く感じる」「事故や急病等の緊急時に不安がある」の割合が高くなっています。

Q8② 活動に関して困っていること【協力事業別・協力年数別】

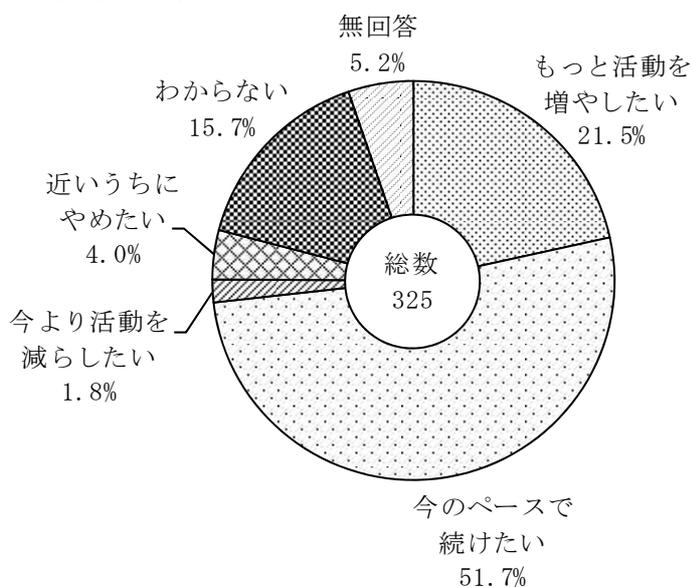
	全体	活動に関する情報が少ない	活動に必要なスキルが十分でない	活動内容が体力的にきつい	活動内容が精神的にきつい	活動にやりがいを感じられない	利用者との関係が難しい	忙しくて自分の生活に支障がある	活動が不規則で予定が立てにくい	活動が不規則で予定を立てにくい	利用者に対する責任を重く感じる	緊急時や急病等のある	事務局のサポートが十分でない	特にない	その他	無回答
全体	325 100.0	64 19.7	31 9.5	7 2.2	15 4.6	11 3.4	29 8.9	9 2.8	53 16.3	54 16.6	51 15.7	22 6.8	118 36.3	32 9.8	17 5.2	
協力している事業	しあわせサービス(協力会員)	157 100.0	39 24.8	17 10.8	6 3.8	9 5.7	8 5.1	18 11.5	2 1.3	14 8.9	18 11.5	27 17.2	13 8.3	66 42.0	9 5.7	5 3.2
	ファミリー・サポート・センター(サポート会員)	129 100.0	19 14.7	2 1.6	1 0.8	1 0.8	3 2.3	6 4.7	5 3.9	29 22.5	18 14.0	15 11.6	7 5.4	43 33.3	19 14.7	11 8.5
	手話通訳者派遣事業	25 100.0	5 20.0	9 36.0	-	4 16.0	-	4 16.0	2 8.0	9 36.0	15 60.0	8 32.0	2 8.0	3 12.0	2 8.0	-
	成年後見センター(生活支援員)	9 100.0	-	1 11.1	-	1 11.1	-	1 11.1	-	-	2 22.2	-	-	5 55.6	1 11.1	-
	無回答	5 100.0	1 20.0	2 40.0	-	-	-	-	-	1 20.0	1 20.0	1 20.0	-	1 20.0	1 20.0	1 20.0
	協力している年数	1年未満	46 100.0	9 19.6	3 6.5	-	-	2 4.3	-	9 19.6	1 2.2	3 6.5	3 6.5	20 43.5	9 19.6	3 6.5
1年～3年未満	63 100.0	23 36.5	11 17.5	1 1.6	1 1.6	1 1.6	5 7.9	3 4.8	11 17.5	12 19.0	9 14.3	9 14.3	16 25.4	7 11.1	2 3.2	
3年～5年未満	87 100.0	9 10.3	7 8.0	2 2.3	5 5.7	5 5.7	7 8.0	1 1.1	10 11.5	12 13.8	10 11.5	-	38 43.7	6 6.9	7 8.0	
5年～10年未満	72 100.0	11 15.3	4 5.6	2 2.8	6 8.3	3 4.2	10 13.9	4 5.6	14 19.4	15 20.8	18 25.0	5 6.9	23 31.9	6 8.3	3 4.2	
10年以上	51 100.0	11 21.6	5 9.8	2 3.9	2 3.9	2 3.9	5 9.8	1 2.0	8 15.7	13 25.5	11 21.6	5 9.8	21 41.2	4 7.8	-	
無回答	6 100.0	1 16.7	1 16.7	-	1 16.7	-	-	-	1 16.7	1 16.7	-	-	-	-	2 33.3	

(6) 今後の活動の意向

Q9 あなたは今後、どのように活動していきたいと思いますか。(〇は一つ)

「今のペースで続けたい」が51.7%と最も多く、次いで「もっと活動を増やしたい」が21.5%、「近いうちにやめたい」が4.0%、「今より活動を減らしたい」が1.8%となっています。

Q9① 今後の活動の意向



年代別にみると、50歳代までは「もっと活動を増やしたい」の割合が3割近くと比較的高くなっています。

Q9② 今後の活動の意向【年代別】

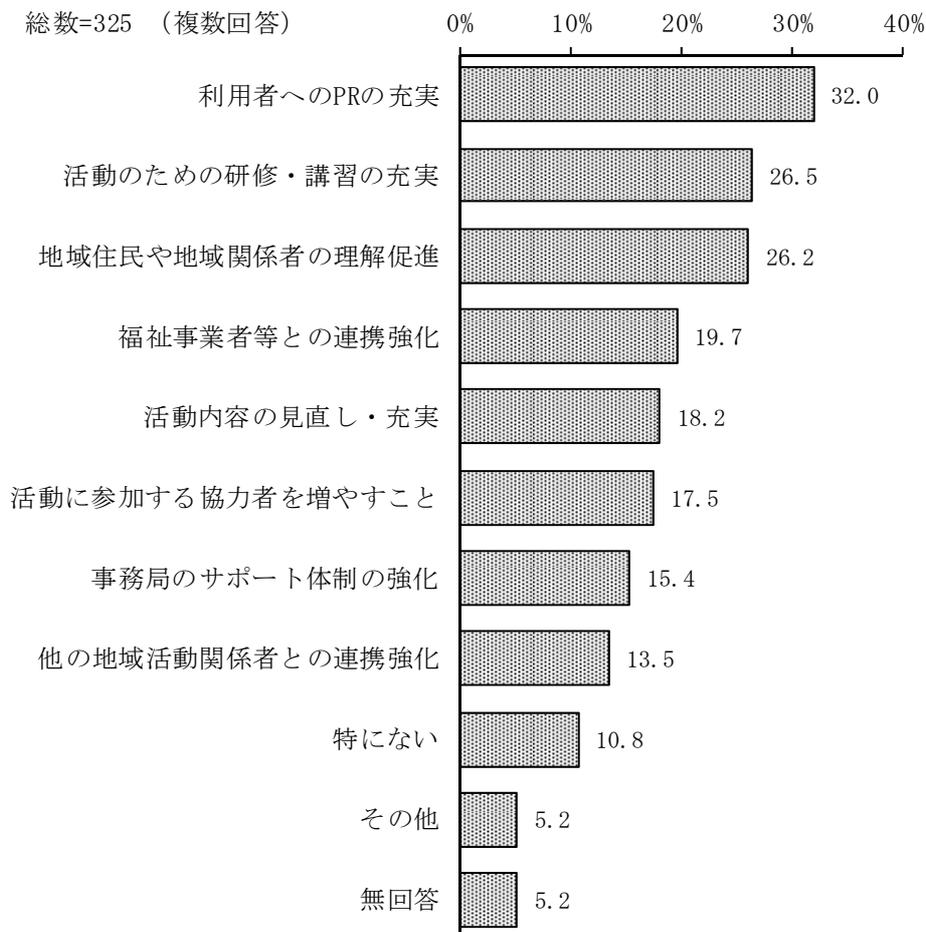
		全体	もっと活動を増やしたい	今のペースで続けたい	今より活動を減らしたい	近いうちにやめたい	わからない	無回答
全体		325 100.0	70 21.5	168 51.7	6 1.8	13 4.0	51 15.7	17 5.2
年齢	40歳未満	7 100.0	2 28.6	1 14.3	- -	- -	3 42.9	1 14.3
	40歳代	39 100.0	11 28.2	15 38.5	1 2.6	- -	10 25.6	2 5.1
	50歳代	76 100.0	20 26.3	36 47.4	1 1.3	2 2.6	14 18.4	3 3.9
	60歳代	115 100.0	19 16.5	66 57.4	3 2.6	5 4.3	16 13.9	6 5.2
	70歳以上	84 100.0	16 19.0	49 58.3	1 1.2	6 7.1	7 8.3	5 6.0
	無回答	4 100.0	2 50.0	1 25.0	- -	- -	1 25.0	- -

(7) より良い活動のために必要なこと

Q10 あなたは、ご協力いただいている社協事業の活動をより良いものにしていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「利用者へのPRの充実」が32.0%と最も多く、次いで「活動のための研修・講習の充実」が26.5%、「地域住民や地域関係者の理解促進」が26.2%、「福祉事業者等との連携強化」が19.7%、「活動内容の見直し・充実」が18.2%となっています。

Q10① より良い活動のために必要なこと



協力事業別に見ると、手話通訳者派遣事業では「活動のための研修・講習の充実」「地域住民や地域関係者の理解促進」「福祉事業者等との連携強化」の割合が高くなっています。

Q10② より良い活動のために必要なこと【協力事業別】

	全体	活動内容の見直し・充実	活動のための研修・講習の充実	活動に参加する協力者を増やすこと	利用者へのPRの充実	地域住民や地域関係者の理解促進	事務局のサポート体制の強化	他の地域活動関係者との連携強化	福祉事業者等との連携強化	特になし	その他	無回答	
全体	325 100.0	59 18.2	86 26.5	57 17.5	104 32.0	85 26.2	50 15.4	44 13.5	64 19.7	35 10.8	17 5.2	17 5.2	
協力している事業	しあわせサービス (協力会員)	157 100.0	25 15.9	44 28.0	22 14.0	49 31.2	42 26.8	19 12.1	27 17.2	37 23.6	19 12.1	6 3.8	5 3.2
	ファミリー・サポート・センター (サポート会員)	129 100.0	26 20.2	18 14.0	29 22.5	44 34.1	24 18.6	20 15.5	11 8.5	10 7.8	14 10.9	9 7.0	11 8.5
	手話通訳者派遣事業	25 100.0	4 16.0	19 76.0	5 20.0	7 28.0	13 52.0	9 36.0	5 20.0	13 52.0	1 4.0	2 8.0	-
	成年後見センター (生活支援員)	9 100.0	2 22.2	2 22.2	1 11.1	3 33.3	4 44.4	-	-	3 33.3	-	-	-
	無回答	5 100.0	2 40.0	3 60.0	-	1 20.0	2 40.0	2 40.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	-	1 20.0

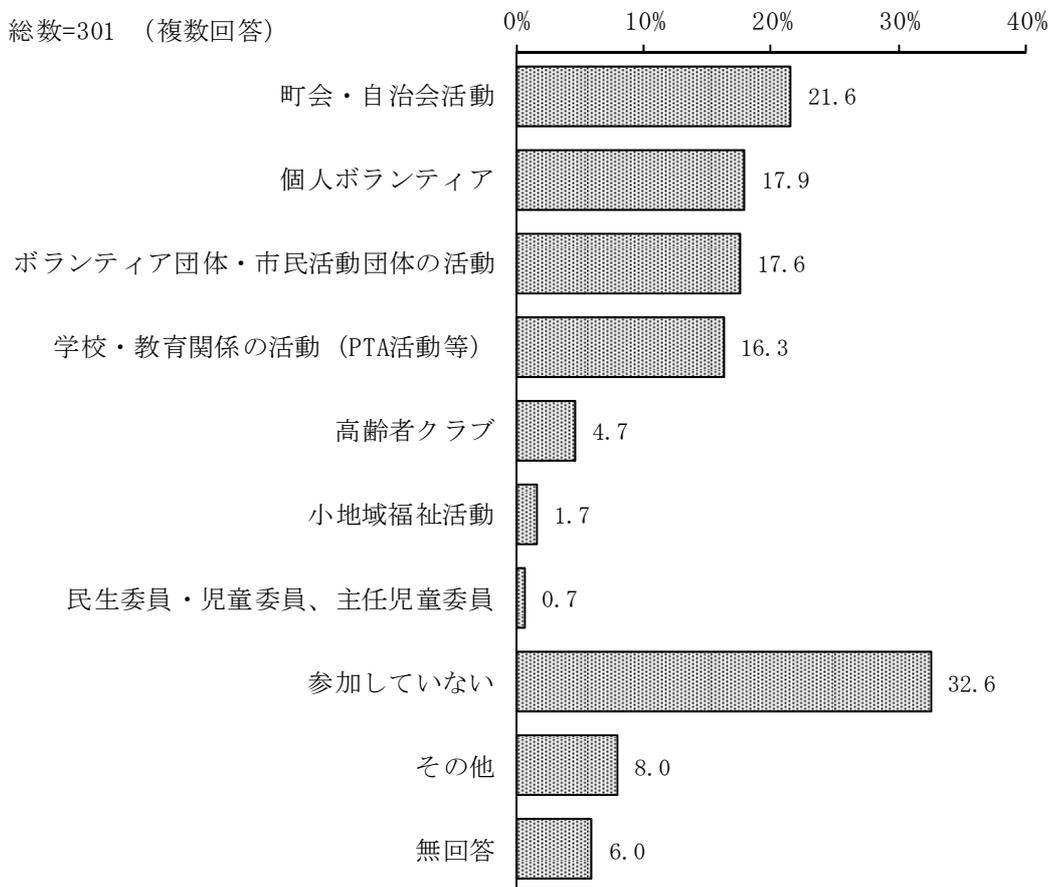
3. その他の地域活動について

(1) 地域活動への参加状況

Q11 あなたは、Q4でお答えいただいた社協の事業以外に、地域の活動に参加していますか。参加している方はその活動をお答えください。(〇はいくつでも)

「町会・自治会活動」が21.6%と最も多く、次いで「個人ボランティア」が17.9%、「ボランティア団体・市民活動団体の活動」が17.6%、「学校・教育関係の活動(PTA活動等)」が16.3%となっています。「参加していない」という回答は32.6%でした。

Q11 地域活動への参加状況

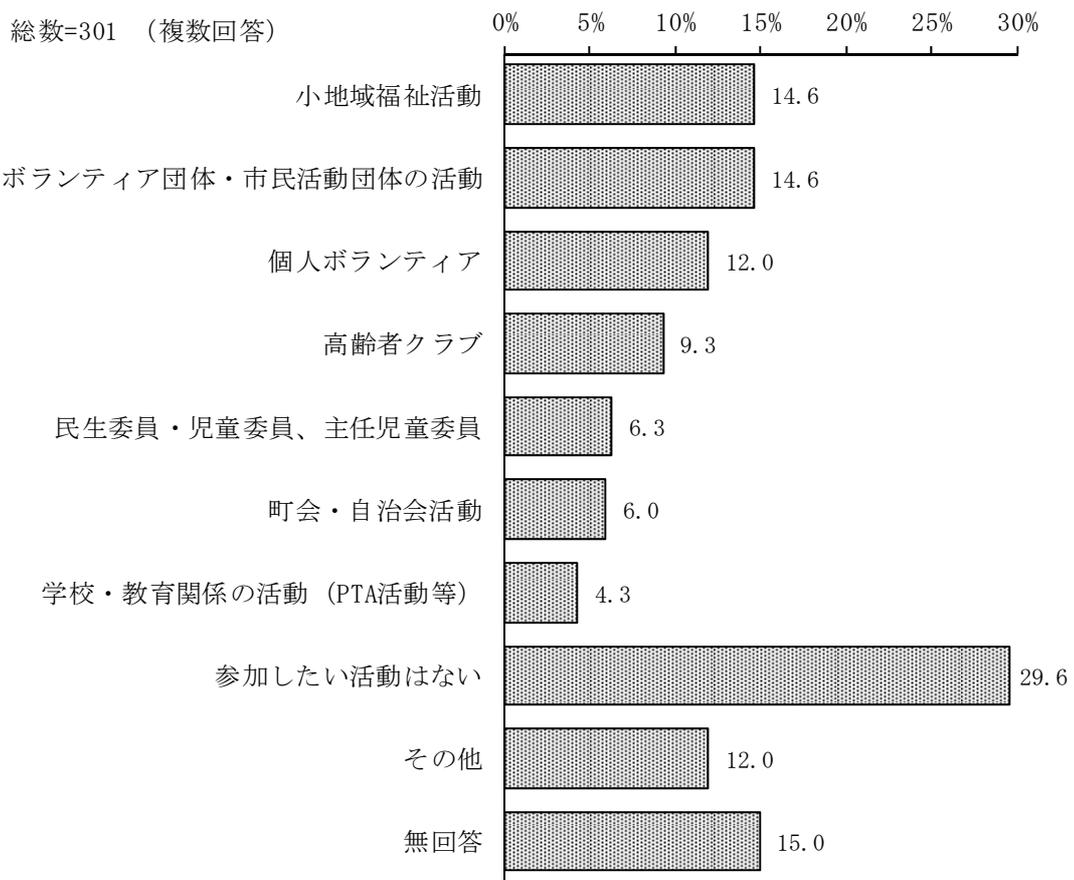


(2) 今後の地域活動への参加意向

Q12 あなたは今後、現在参加しているもの以外の地域活動に新たに参加したいと思いますか。参加したい方はその活動をお答えください。(〇はいくつでも)

「小地域福祉活動」「ボランティア団体・市民活動団体の活動」がそれぞれ 14.6%と最も多く、次いで「個人ボランティア」が 12.0%、「高齢者クラブ」が 9.3%となっています。「参加したい活動はない」という回答は 29.6%でした。

Q12 今後の地域活動への参加意向



4. 社協について

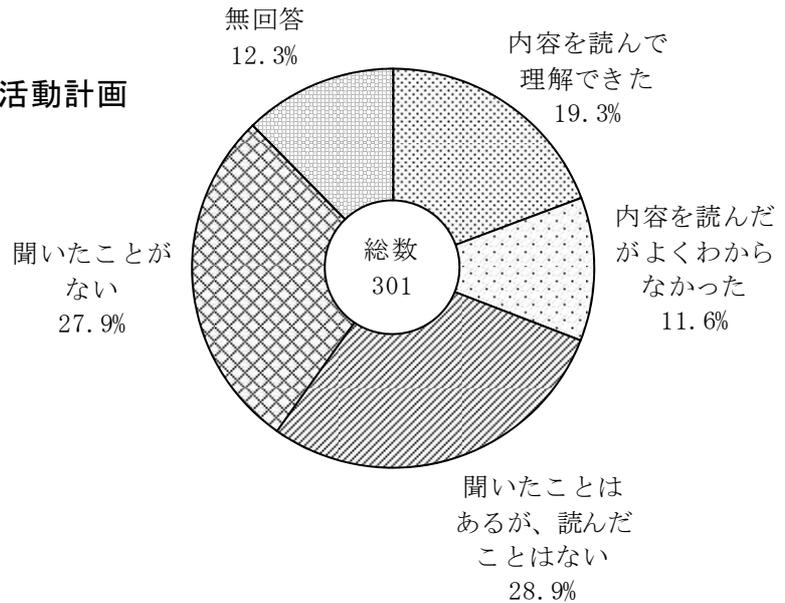
(1) 社協の情報・事業の認知状況

Q13 次の社協の情報や事業について、あてはまるものをお答えください。(それぞれ○は一つ)

①第2次葛飾区地域福祉活動計画（平成24～28年度）

「聞いたことはあるが、読んだことはない」が28.9%と最も多く、次いで「聞いたことがない」が27.9%、「内容を読んで理解できた」が19.3%、「内容を読んだがよくわからなかった」が11.6%となっています。

Q13①-1 第2次葛飾区地域福祉活動計画（平成24～28年度）



年代別にみると、70歳以上では「内容を読んで理解できた」の割合が、40歳代、50歳代では「聞いたことがない」の割合が高くなっています。

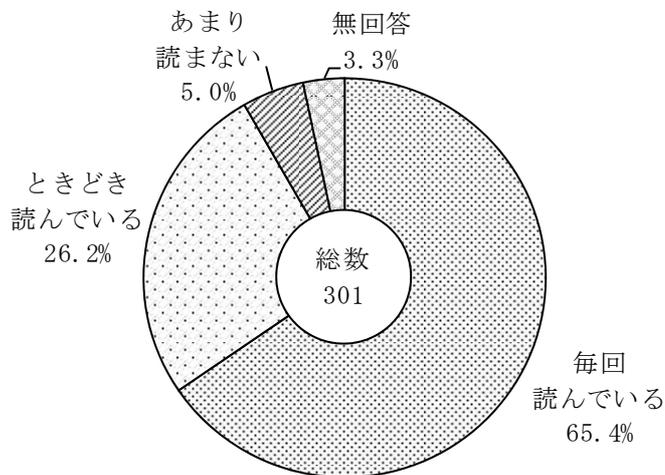
Q13①-2 第2次葛飾区地域福祉活動計画（平成24～28年度）【年代別】

	全体	内容を読んで理解できた	よく内容を 読んだが わからなかった	聞いたことはあるが、 読んだことはない	聞いたことがない	無回答	
							割合
全体	301	58	35	87	84	37	
	100.0	19.3	11.6	28.9	27.9	12.3	
年齢	40歳未満	6	1	-	4	1	
		100.0	16.7	-	66.7	16.7	-
	40歳代	35	2	4	12	16	1
		100.0	5.7	11.4	34.3	45.7	2.9
	50歳代	68	9	12	15	27	5
		100.0	13.2	17.6	22.1	39.7	7.4
60歳代	109	17	8	31	31	22	
	100.0	15.6	7.3	28.4	28.4	20.2	
70歳以上	79	29	9	25	7	9	
	100.0	36.7	11.4	31.6	8.9	11.4	
無回答	4	-	2	-	2	-	
	100.0	-	50.0	-	50.0	-	

②社協だより

「毎回読んでいる」が65.4%と最も多く、次いで「ときどき読んでいる」が26.2%、「あまり読まない」が5.0%となっています。

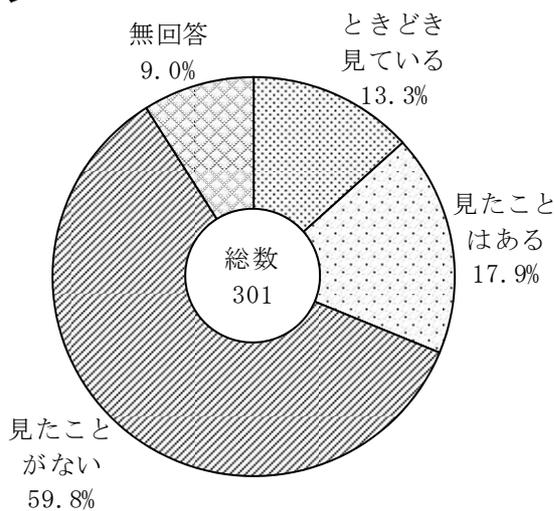
Q13② 社協だより



③社協ホームページ

「見たことがない」が59.8%と最も多く、次いで「見たことはある」が17.9%、「ときどき見ている」が13.3%となっています。

Q13③-1 社協ホームページ



男女別に見ると、男性では「ときどき見ている」の割合が約3割と女性より高くなっています。女性では「見たことがない」の割合が約6割と男性より高くなっています。

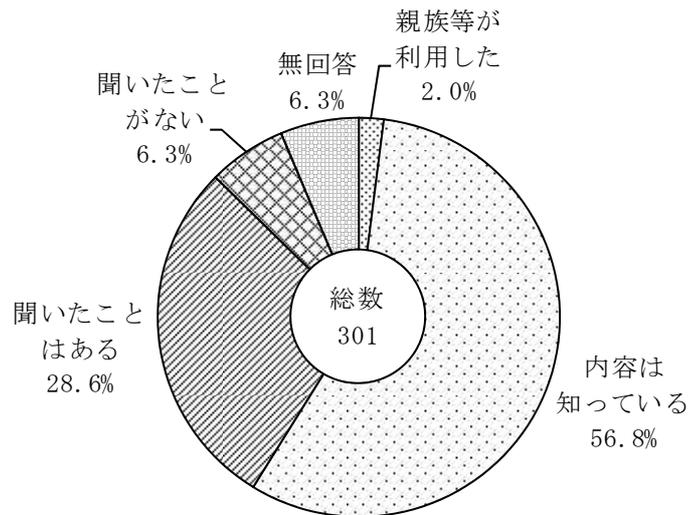
Q13③-2 社協ホームページ【男女別】

		全体	ときどき見ている	見たことはある	見たことがない	無回答
全体		301 100.0	40 13.3	54 17.9	180 59.8	27 9.0
性別	男性	23 100.0	7 30.4	5 21.7	10 43.5	1 4.3
	女性	276 100.0	32 11.6	49 17.8	170 61.6	25 9.1
	無回答	2 100.0	1 50.0	-	-	1 50.0

④成年後見制度

「内容は知っている」が56.8%と最も多く、次いで「聞いたことはある」が28.6%、「聞いたことがない」が6.3%、「親族等が利用した」が2.0%となっています。

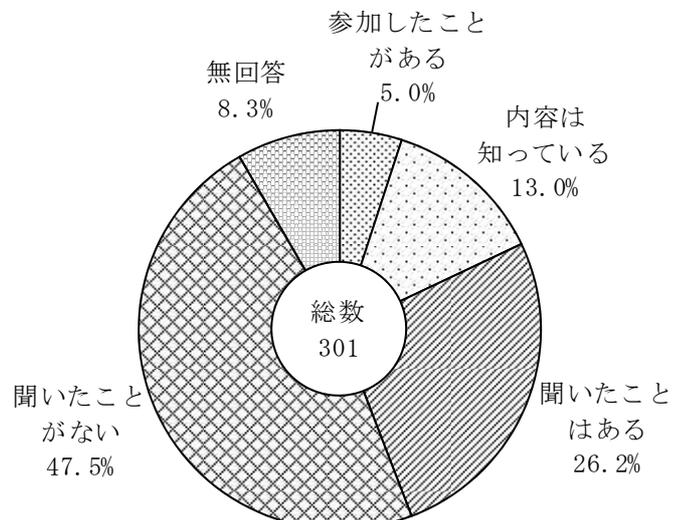
Q13④ 成年後見制度



⑤小地域福祉活動

「聞いたことがない」が47.5%と最も多く、次いで「聞いたことはある」が26.2%、「内容は知っている」が13.0%、「参加したことがある」が5.0%となっています。

Q13⑤ 小地域福祉活動

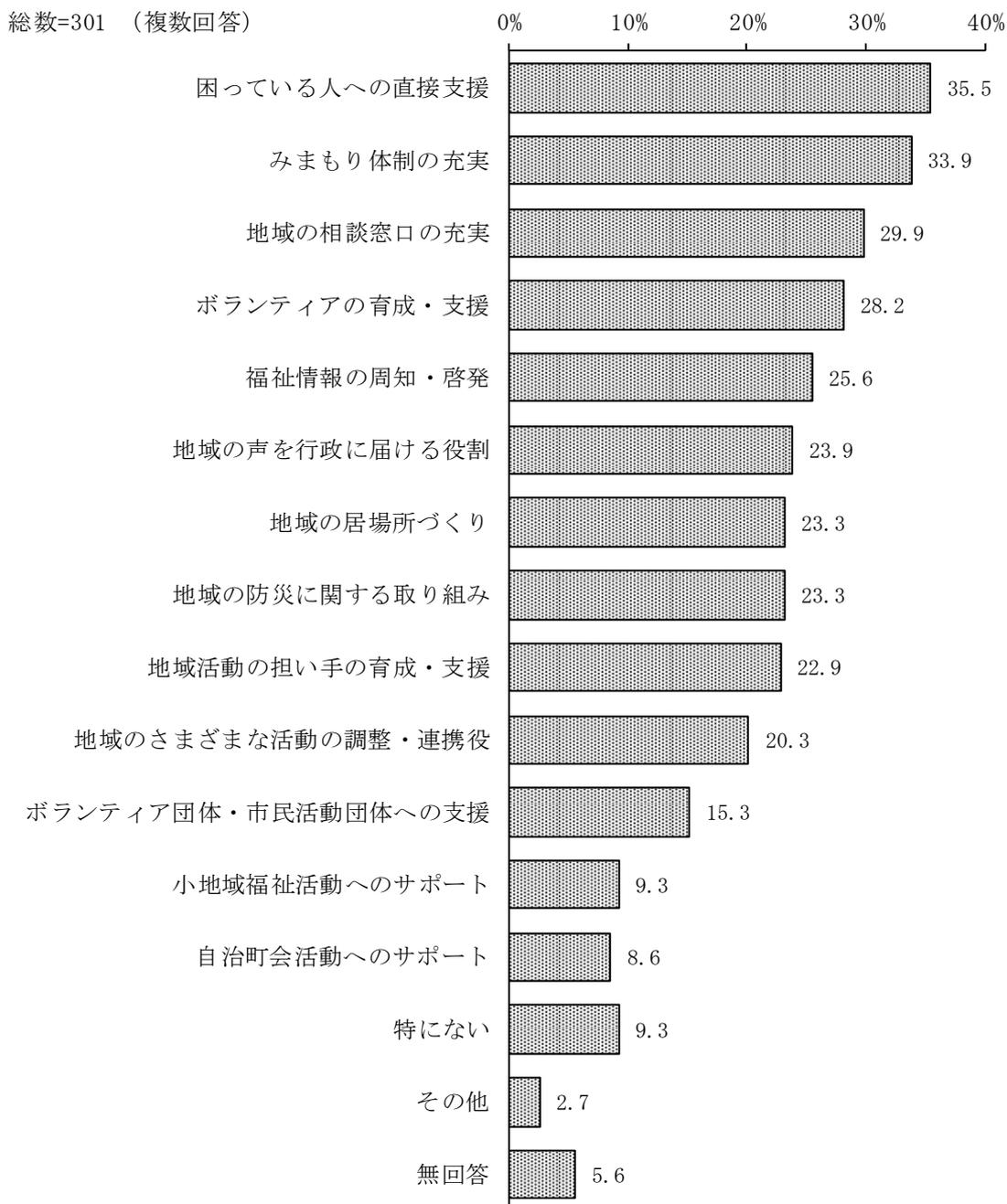


(2) 社協に期待すること

Q14 あなたは今後、社協にどのようなことを期待しますか。(〇はいくつでも)

「困っている人への直接支援」が35.5%と最も多く、次いで「みまもり体制の充実」が33.9%、「地域の相談窓口の充実」が29.9%、「ボランティアの育成・支援」が28.2%、「福祉情報の周知・啓発」が25.6%となっています。

Q14① 社協に期待すること



協力事業別に見ると、しあわせサービス（協力会員）、ファミリー・サポート・センター（サポート会員）では「困っている人への直接支援」「みまもり体制の充実」の割合が、手話通訳者派遣事業では「福祉情報の周知・啓発」「ボランティア団体・市民活動団体への支援」「地域活動の担い手の育成・支援」の割合が高くなっています。

Q14② 社協に期待すること【協力事業別】

	全体	みまもり体制の充実	地域の居場所づくり	地域の相談窓口の充実	福祉情報の周知・啓発	自治町会活動へのサポート	小地域福祉活動へのサポート	地域活動の担い手の育成・支援	ボランティアの育成・支援	市民活動団体への支援	ボランティア団体・市民活動団体への支援	地域のさまざまな活動の調整・連携役	困っている人への直接支援	地域の声を行政に届ける役割	地域の防災に関する取り組み	特になし	その他	無回答	
全体	301 100.0	102 33.9	70 23.3	90 29.9	77 25.6	26 8.6	28 9.3	69 22.9	85 28.2	46 15.3	61 20.3	107 35.5	72 23.9	70 23.3	28 9.3	8 2.7	17 5.6		
協力している事業	しあわせサービス（協力会員）	157 100.0	61 38.9	43 27.4	45 28.7	39 24.8	11 7.0	17 10.8	33 21.0	46 29.3	19 12.1	27 17.2	61 38.9	35 22.3	34 21.7	13 8.3	6 3.8	8 5.1	
	ファミリー・サポート・センター（サポート会員）	129 100.0	49 38.0	34 26.4	36 27.9	24 18.6	13 10.1	10 7.8	27 20.9	34 26.4	15 11.6	26 20.2	52 40.3	22 17.1	32 24.8	15 11.6	3 2.3	8 6.2	
	手話通訳者派遣事業	25 100.0	4 16.0	2 8.0	9 36.0	14 56.0	2 8.0	1 4.0	11 44.0	9 36.0	12 48.0	10 40.0	4 16.0	14 56.0	8 32.0	2 8.0	-	-	4.0
	成年後見センター（生活支援員）	9 100.0	1 11.1	-	4 44.4	3 33.3	-	-	-	3 33.3	2 22.2	2 22.2	2 22.2	2 33.3	3 -	-	-	-	-
	無回答	5 100.0	1 20.0	-	2 40.0	1 20.0	2 40.0	1 20.0	2 40.0	1 20.0	2 40.0	2 40.0	-	1 20.0	2 40.0	2 40.0	-	1 20.0	1 20.0

5. 自由意見

Q15 ご協力いただいている社協の事業に関する事など、社協や地域についてご意見などがありましたら、ご自由にお書き下さい。(記述式)

68 件の回答がありました。協力事業別では、「しあわせサービス（協力会員）」が 30 件、「ファミリー・サポート・センター（サポート会員）」が 29 件、「手話通訳者派遣事業」が 5 件、「成年後見センター（生活支援員）」が 3 件となっています。

回答内容別では、「活動の制度や仕組み」に関する回答が 26 件で最も多く、次いで「活動内容」が 25 件、「活動や社協の情報・PR」が 10 件、「地域の現状や地域福祉活動」に関する意見が 8 件となっています。

Q15 自由意見

	活動の制度 や仕組み	活動内容	活動や社協 の情報・PR	地域の現状や 地域福祉活動	その他
しあわせサービス（協力会員）	9	14	6	5	4
ファミリー・サポート・センター（サポート会員）	11	11	5	3	7
手話通訳者派遣事業	3	0	0	0	2
成年後見センター（生活支援員）	2	0	1	0	0
協力事業無回答	1	1	0	0	2
合計	26	25	10	8	14

※ 2 事業にご協力いただいている方、協力事業無回答の方がいるため、協力事業ごとの件数の和は回答内容別の合計と一致しません。

※※ 複数の項目にまたがる回答があるため、各項目の件数の合計は意見数を上回ります。

◆ 主な意見（紙幅の関係で内容を要約・省略している場合があります）

意見	性別・年齢	協力事業	地区
活動に対する制限があることに疑問を感じました。あれをやってはいけない、これをやってはいけないと制限するのでは、何のために「しあわせサービス」と命名しているのか矛盾を感じる場合があります。	女性 70 歳代	しあわせサービス	青戸
担当が決まって活動を始めると、問題がない限り、ほとんど担当者との接触はない。もっと定期的に双方と顔を合わせ、ちゃんと機能しているか、改善点や困りごとがないか、確認した方がいいと思う（利用者、協力会員両方に）。もう少しアフターケアをしてほしい。	女性 50 歳代	しあわせサービス	新小岩北
就労者がしあわせサービスに関わる場合、時間的な制約が足かせになります。例えば平日でも安全確認（15 分位）程度であれば、関わる事が出来るかもしれません。	男性 50 歳代	しあわせサービス	お花茶屋
葛飾広報を見ていない人が多く、社協の活動を知らない人がいると私は感じています。	男性 70 歳代	しあわせサービス	金町

意見	性別・年齢	協力事業	地区
どんな些細な事でも困っている方の身になって、助け合える手段を考え、行動に移したいと思っても、なかなかどうしたらよいかわからない。地域で野良猫を保護し管理したいなと思っていますが、賛同してもらえなかったり、今問題になっている貧困の子ども達の食事を支援したいと思っても、個人では難しい。こんな身近な問題も吸い上げてほしいと思います。	女性 60歳代	しあわせサービス	東金町
社会福祉協議会の活動がもう少し地域の中に浸透していくために、地域ごとに行事を開催したりして、どんなことをしているのかなど必要性を知らせていく事が大切かと思う。地域ごとのまとまりや、講習、活動、話し合いが必要。	女性 60歳代	しあわせサービス ファミリー・ サポート・センター	水元
ファミリーサポートの利用料が高いといつも思います。2～3時間預かって1,000～2,000円くらいになると、利用者も考えてしまうのでは。安くすればサポートのなり手がいなくなると思うし、利用料を行政が少し負担してくれたらと思う時があります。	女性 60歳代	ファミリー・ サポート・センター	西水元
活動に対する協力者、利用者の参加が増えたらいいなあと思います。そのために安心安全をアピールして周知に務める方法、活動している方の生の声を伝えていく機会を作ることかなと思いました。	女性 60歳代	ファミリー・ サポート・センター	柴又
ファミリーサポート会員に登録しておりますが、足りない足りないと言っている割にはなんの依頼もなく、どのようにされているのか実体を知りたいです。わざわざ時間を割いて講習を受けて無駄だったように思っています。	女性 50歳代	ファミリー・ サポート・センター	柴又
しあわせサービスを父に利用させていただき、ファミリーサポートのお手伝いを知り、今度は子どもをサポートさせていただきました。福祉は民間では出来ない事が多いものです。社協の大切さは身を持って知らされています。出来る限り無理のないようにお手伝いをしたいと思います。	女性 60歳代	ファミリー・ サポート・センター	柴又
行政機関や学校などの法人からの依頼による斡旋通訳が、労働に見合っていない安価な手話通訳者謝礼支払基準に準拠して行われている。まずは聴覚障害者の個人団体からの依頼の通訳以外に関して、斡旋依頼の謝礼基準を改善してほしい。	男性 50歳代	手話通訳者 派遣事業	西水元
手話通訳者の身分保障をして頂きたい。このままでは生活のために他の仕事をしなければならない。通訳者を目指す人が減っていくと思います。	女性 年齢無回答	手話通訳者 派遣事業	無回答
地域の違いによって、社協の活動内容も違うようです。区役所の部門と社協との活動内容の違いや、逆に連携をとる活動など、もう少し明確にして、葛飾社協の特色を明確にすると、活動内容や範囲もわかりやすく、支援協力も自信を持って行えるように感じます。	女性 50歳代	成年後見センター	東立石
生活支援員の研修に何度か参加させていただいております。そこで他の社協からの参加者と意見交換をすると、葛飾社協の利用料が高いことがいつも気になります。利用料を安くすればもっと活用されるようになるのではないかと感じたりします。	女性 40歳代	成年後見センター	新小岩北

Ⅲ. 社協会員事業者調査

※ 社協会員事業者調査では、有効回収数や回答数が少なかったため、棒グラフ等では回答のなかった選択肢など一部の項目を省略している場合があります。

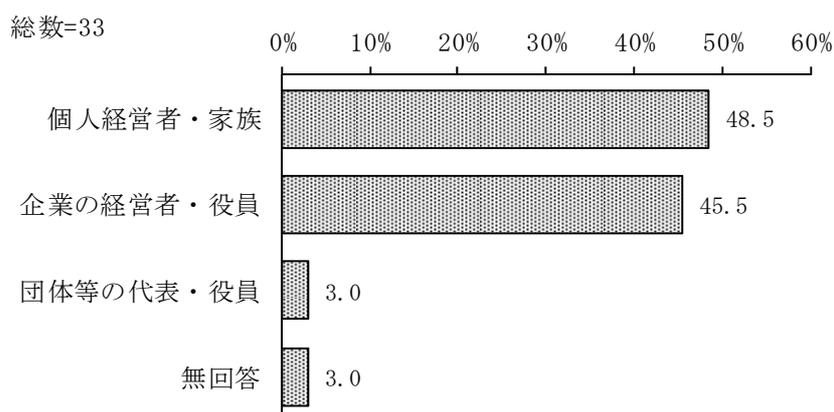
1. 事業所について

(1) 調査票の回答者

Q 1 この調査票をご記入いただいている方をお聞きします。(〇は一つ)

「個人経営者・家族」が48.5%と最も多く、次いで「企業の経営者・役員」が45.5%、「団体等の代表・役員」が3.0%となっています。

Q 1 調査票の回答者

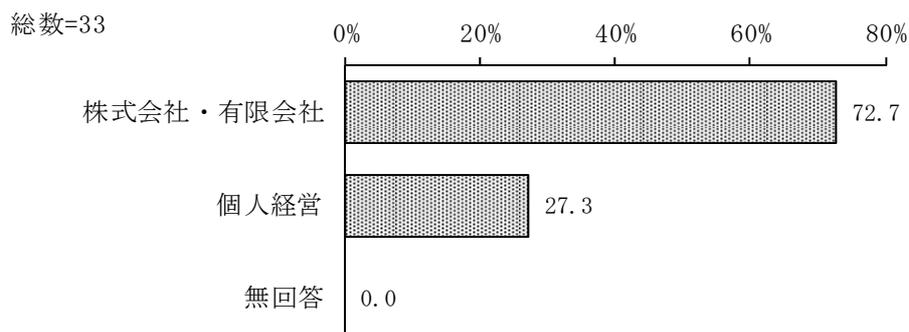


(2) 事業所の経営形態

Q 2 あなたの事業所の経営形態をお聞きします。(〇は一つ)

「株式会社・有限会社」が72.7%、「個人経営」が27.3%となっています。

Q 2 事業所の経営形態

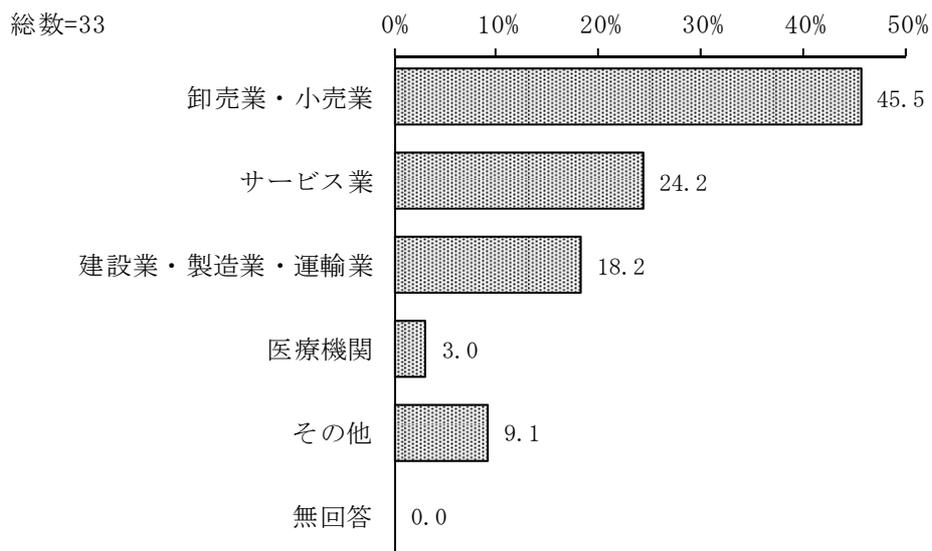


(3) 事業所の業種

Q3 あなたの事業所の業種をお聞きます。(〇は一つ)

「卸売業・小売業」が45.5%と最も多く、次いで「サービス業」が24.2%、「建設業・製造業・運輸業」が18.2%、「医療機関」が3.0%となっています。

Q3 事業所の業種



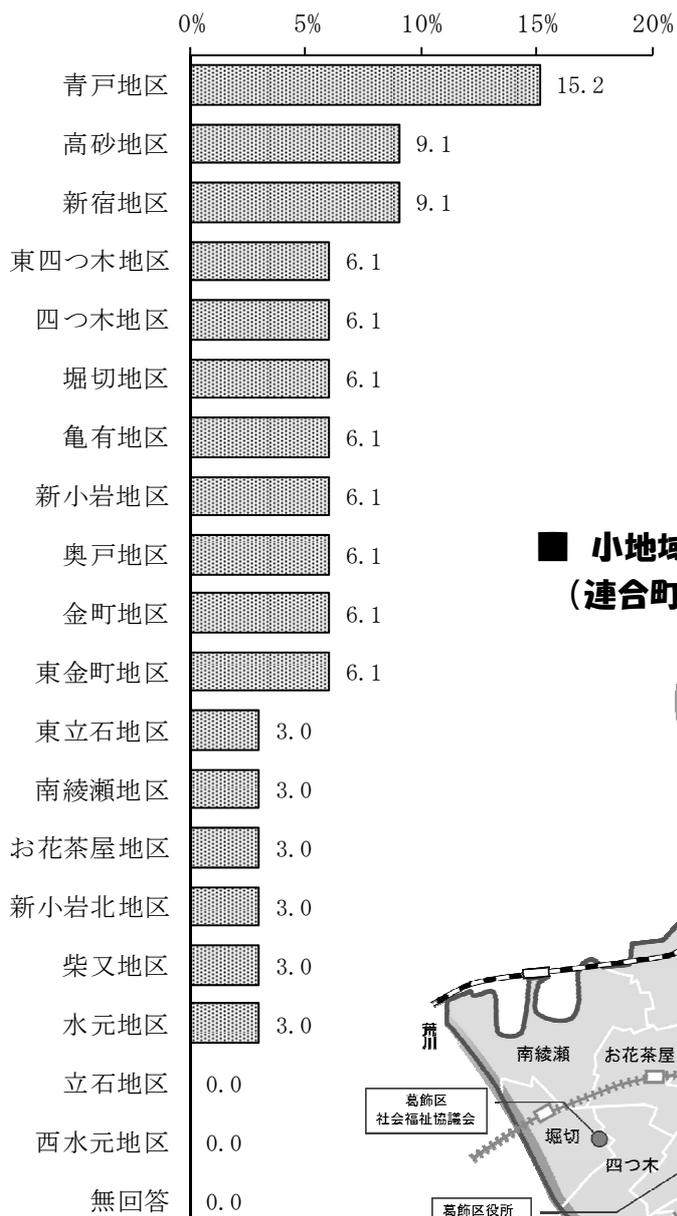
(4) 事業所の所在地

Q 4 あなたの事業所のある地区をお聞きます。(○は一つ)

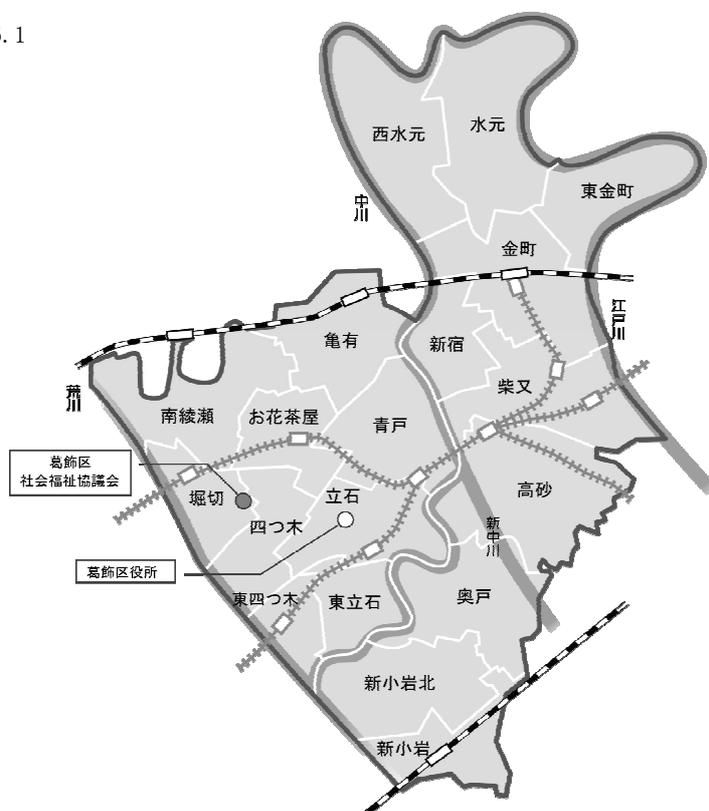
「青戸地区」が15.2%と最も多く、次いで「高砂地区」「新宿地区」がそれぞれ9.1%となっています。

Q 4 事業所の所在地

総数=33



■ 小地域福祉活動の地区 (連合町会単位 19 地区)



(5) 事業所の職員数

Q 5 あなたの事業所の職員数をお聞きします。

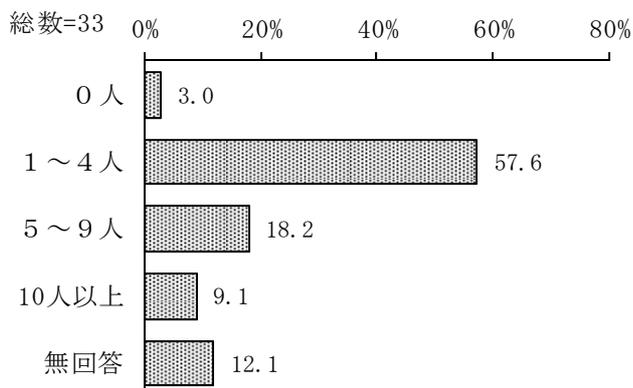
※ 法人等事業者全体ではなく、封筒の宛名ラベルに書かれた事業所の職員数をお書き下さい。

常用職員については、「1～4人」が57.6%と最も多く、次いで「5～9人」が18.2%、「10人以上」が9.1%となっています。

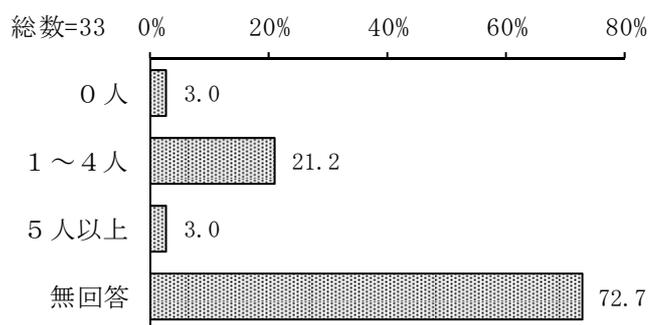
その他の職員については、「1～4人」が21.2%、「5人以上」が3.0%となっています。

Q 5 事業所の職員数

【常用職員】



【その他の職員】



常用職員（雇用期間1年以上かつ週労働時間30時間以上の方、正規・非正規は不問）

その他の職員（雇用期間1年未満または週労働時間30時間未満の方）

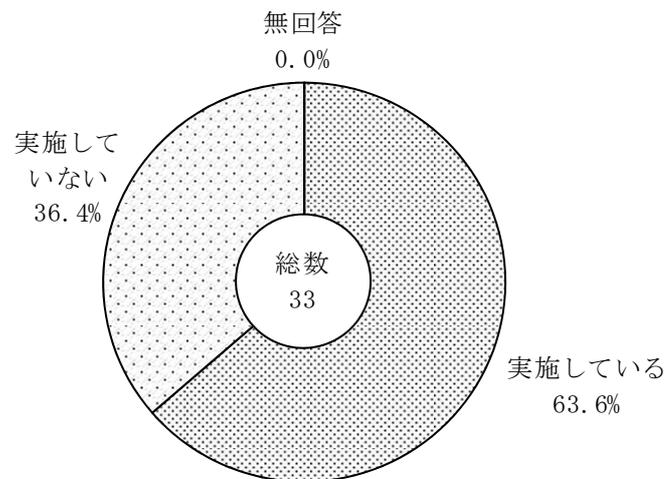
2. 事業所の地域貢献活動について

(1) 地域貢献活動の実施状況

Q6 あなたの事業所では、地域貢献活動を実施していますか。(行政や他の団体等との連携・協力による活動も含みます)。(〇は一つ)

「実施している」が63.6%、「実施していない」が36.4%と、「実施している」のほうが多くなっています。

Q6 地域貢献活動の実施状況

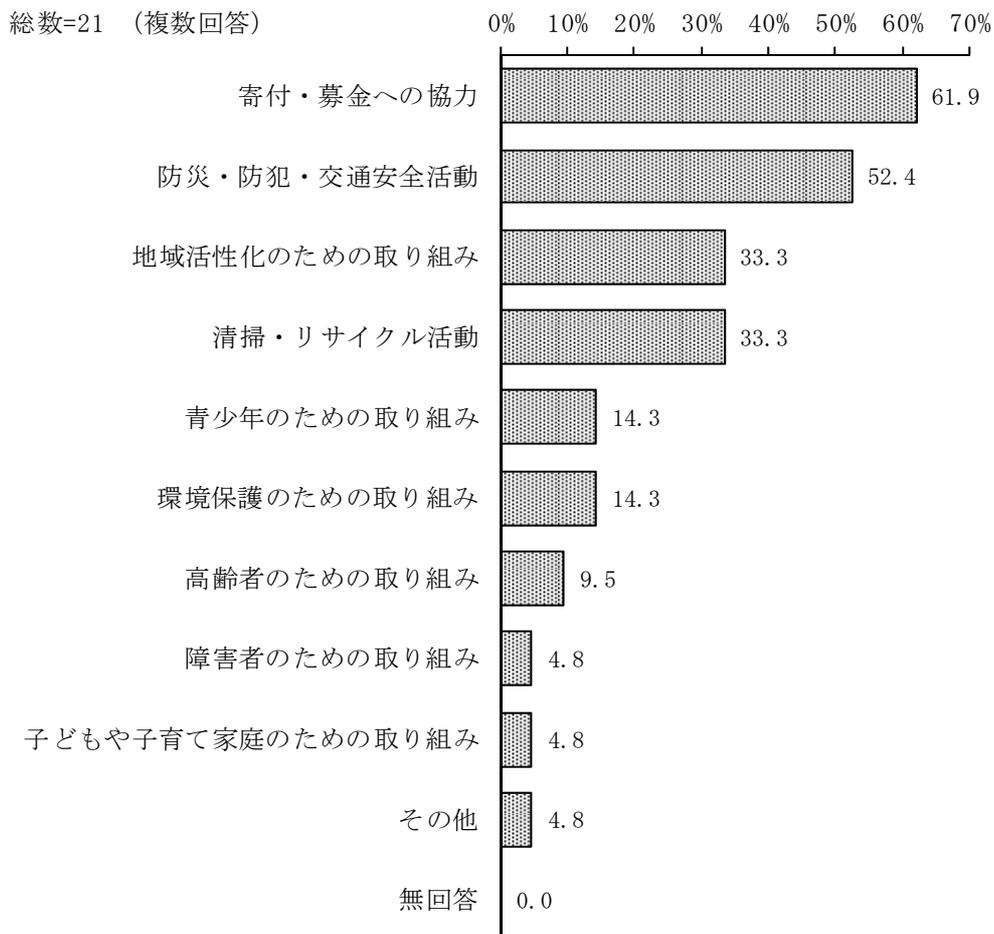


(2) 実施している地域貢献活動の内容

Q7 Q6で「1 実施している」と答えた方にお聞きします。あなたの事業所で実施している地域貢献活動はどのような取り組みです。(〇はいくつでも)

「寄付・募金への協力」が61.9%と最も多く、次いで「防災・防犯・交通安全活動」が52.4%、「地域活性化のための取り組み」「清掃・リサイクル活動」がそれぞれ33.3%、「青少年のための取り組み」「環境保護のための取り組み」がそれぞれ14.3%となっています。

Q7 実施している地域貢献活動の内容

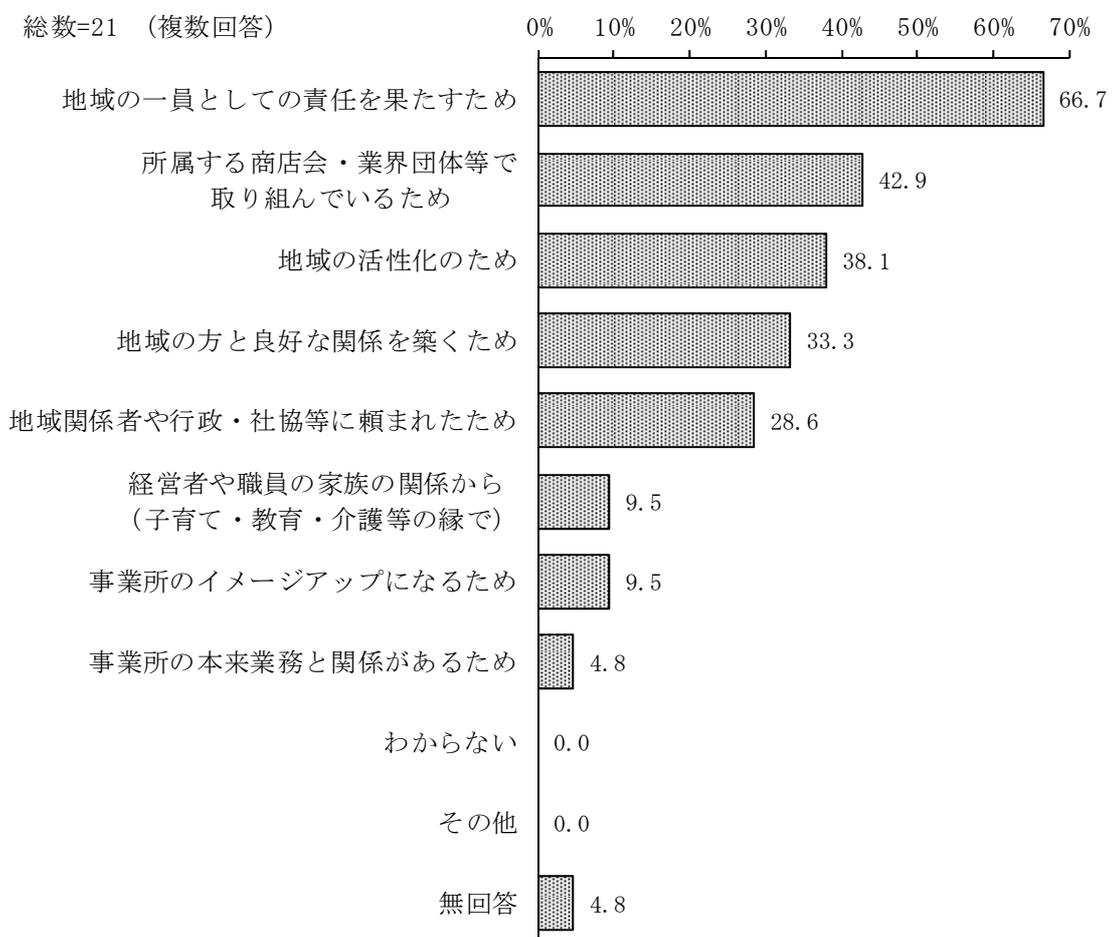


(3) 地域貢献活動を実施している理由

Q8 Q6で「1 実施している」と答えた方にお聞きします。地域貢献活動を実施している理由は何ですか。(〇はいくつでも)

「地域の一員としての責任を果たすため」が66.7%と最も多く、次いで「所属する商店会・業界団体等で取り組んでいるため」が42.9%、「地域の活性化のため」が38.1%、「地域の方と良好な関係を築くため」が33.3%、「地域関係者や行政・社協等に頼まれたため」が28.6%となっています。

Q8 地域貢献活動を実施している理由

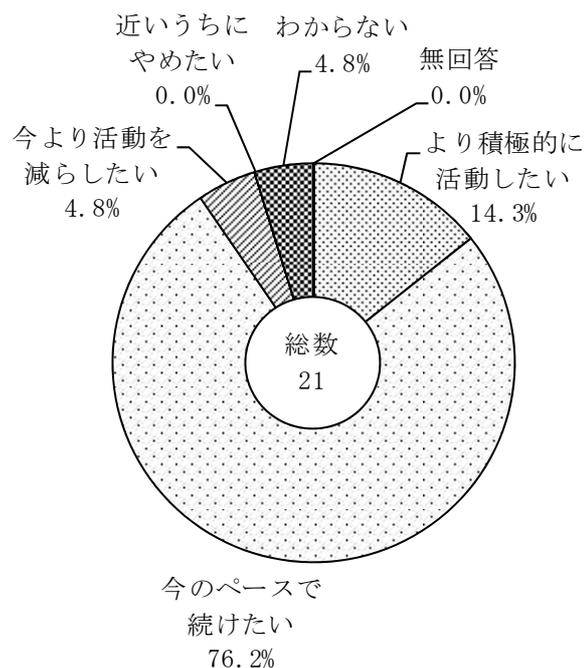


(4) 今後の取り組みの意向

Q9 Q6で「1 実施している」と答えた方にお聞きします。 地域貢献活動を今後どのように実施していきたいと思いませんか。(〇は一つ)

「今のペースで続けたい」が76.2%と最も多く、次いで「より積極的に活動したい」が14.3%、「今より活動を減らしたい」が4.8%となっています。

Q9 今後の取り組みの意向

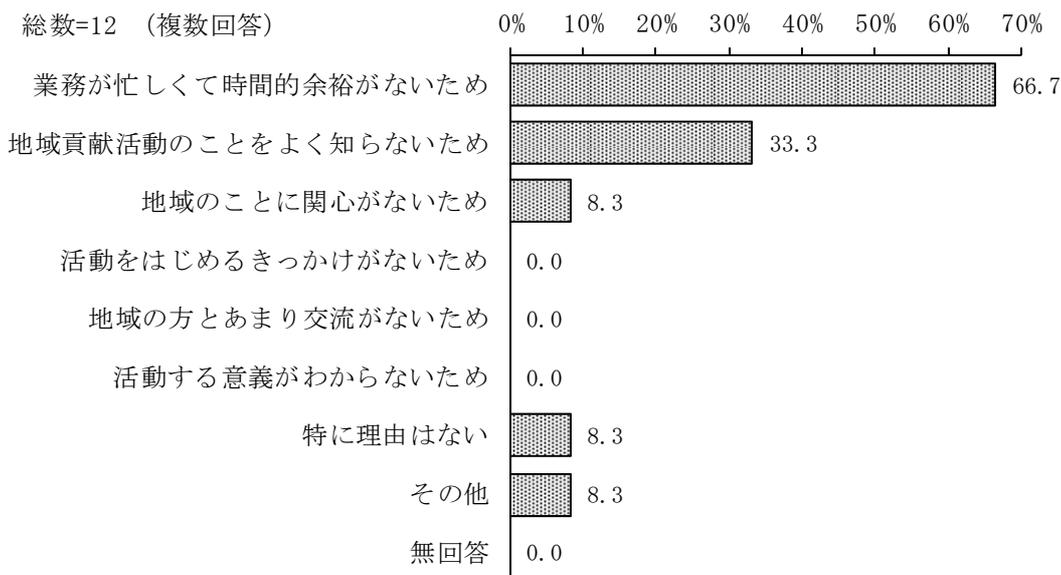


(5) 地域貢献活動を実施していない理由

Q10 Q6で「2 実施していない」と答えた方にお聞きします。地域貢献活動を実施していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

「業務が忙しくて時間的余裕がないため」が66.7%と最も多く、次いで「地域貢献活動のことをよく知らないため」が33.3%、「地域のことに興味がないため」が8.3%となっています。

Q10 地域貢献活動を実施していない理由

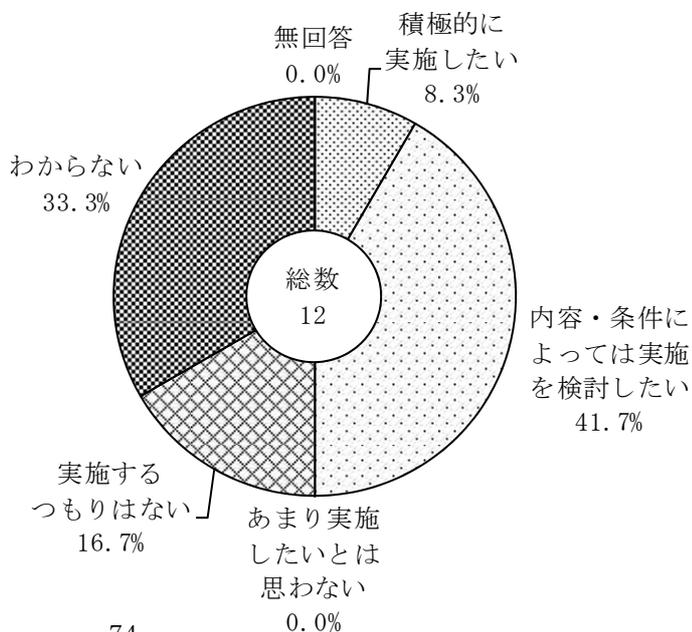


(6) 今後の実施の意向

Q11 Q6で「2 実施していない」と答えた方にお聞きします。今後機会があれば地域貢献活動を実施したいと思いますか。(〇は一つ)

「内容・条件によっては実施を検討したい」が41.7%と最も多く、次いで「実施するつもりはない」が16.7%、「積極的に実施したい」が8.3%となっています。

Q11 今後の実施の意向

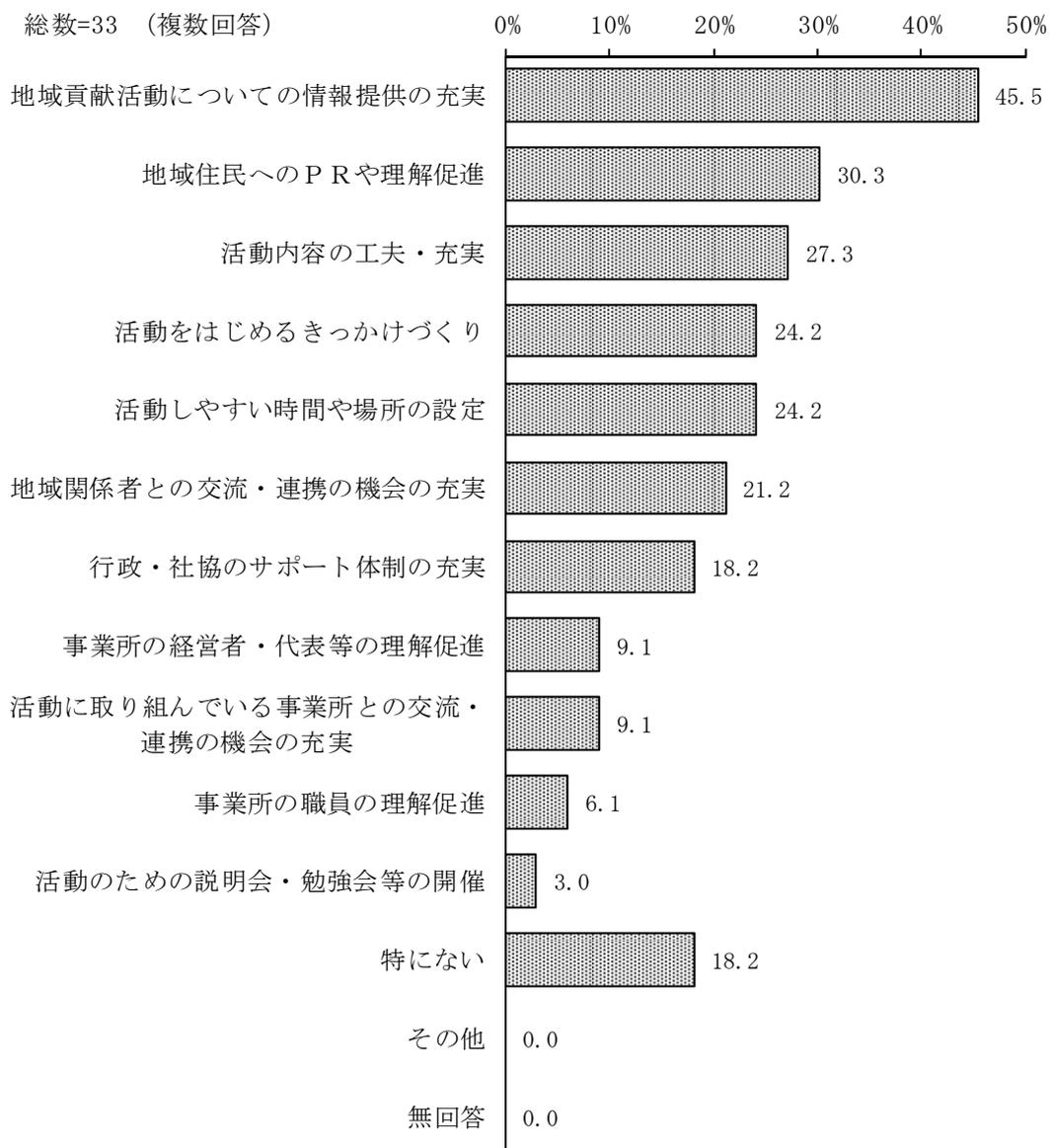


(7) より良い活動のために必要なこと

Q12 ここからは全ての方にお聞きします。 今後葛飾区でより良い地域貢献活動を展開していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「地域貢献活動についての情報提供の充実」が45.5%と最も多く、次いで「地域住民へのPRや理解促進」が30.3%、「活動内容の工夫・充実」が27.3%、「活動をはじめるきっかけづくり」「活動しやすい時間や場所の設定」がそれぞれ24.2%となっています。

Q12 より良い活動のために必要なこと

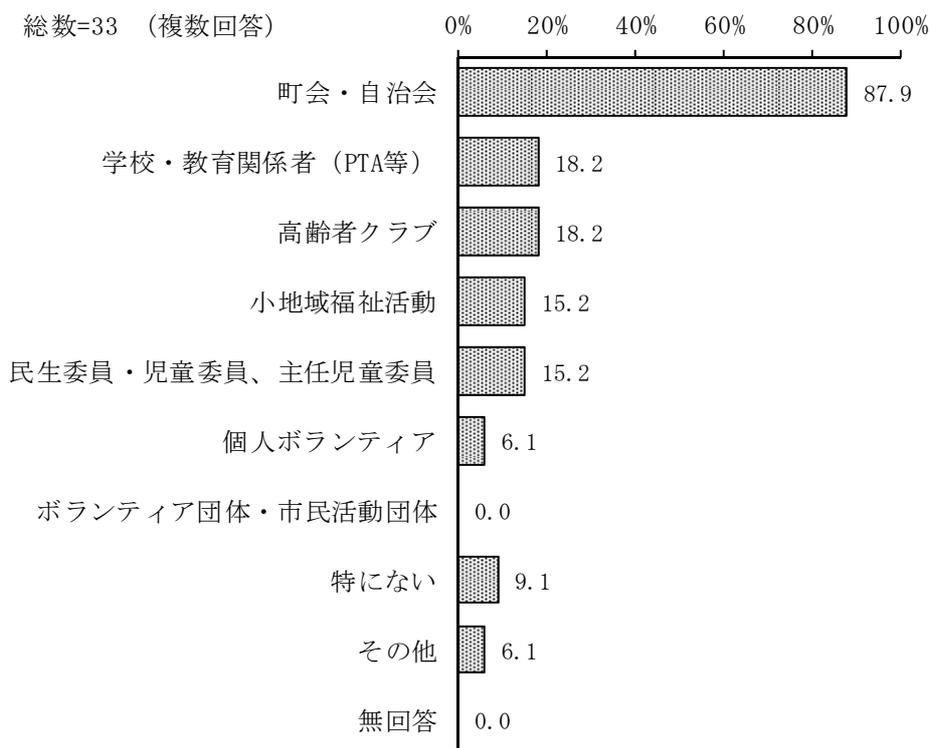


(8) 地域関係者・関係団体との交流

Q13 あなたの事業所では、地域関係者や関係団体との関わりや交流はありますか。ある場合は、関わりのある関係者・関係団体をお答えください。(〇はいくつでも)

「町会・自治会」が87.9%と最も多く、次いで「学校・教育関係者 (PTA等)」「高齢者クラブ」がそれぞれ18.2%、「小地域福祉活動」「民生委員・児童委員、主任児童委員」がそれぞれ15.2%となっています。

Q13 地域関係者・関係団体との交流



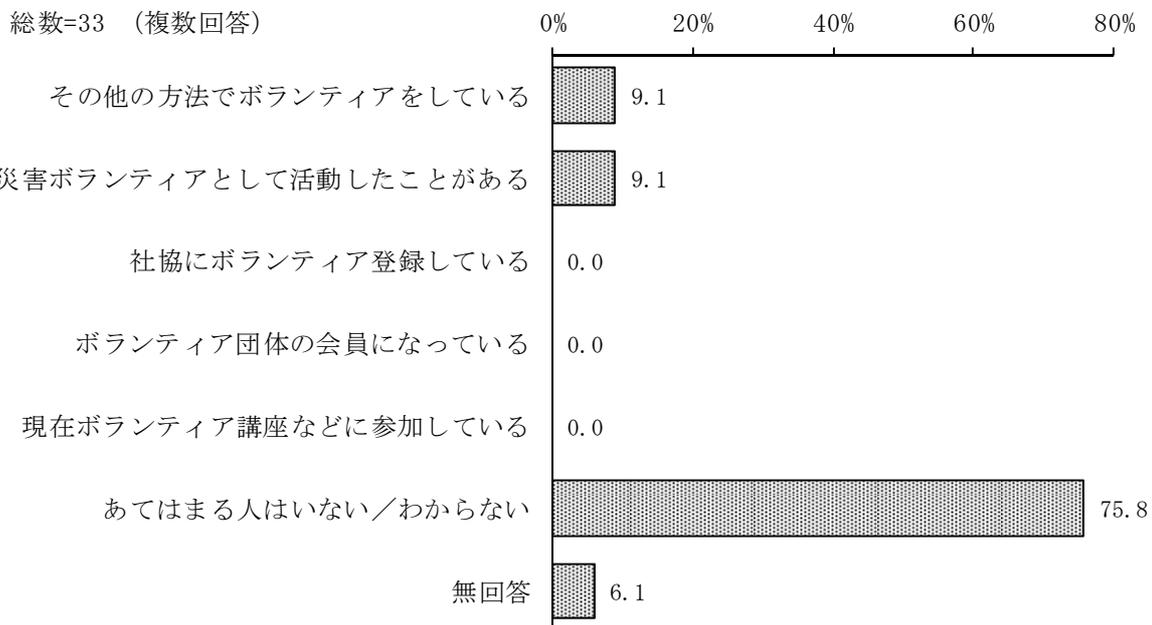
3. 職員のボランティア活動について

(1) 職員のボランティア活動への参加状況

Q14 あなたの事業所の職員の方に、ボランティアに関して次のようなことにあてはまる方はいますか。わかる範囲でお答えください。(〇はいくつでも)

「その他の方法でボランティアをしている」「災害ボランティアとして活動したことがある」がそれぞれ9.1%となっています。「あてはまる人はいない／わからない」は75.8%で、それ以外の選択肢には回答がありませんでした。

Q14 職員のボランティア活動への参加状況

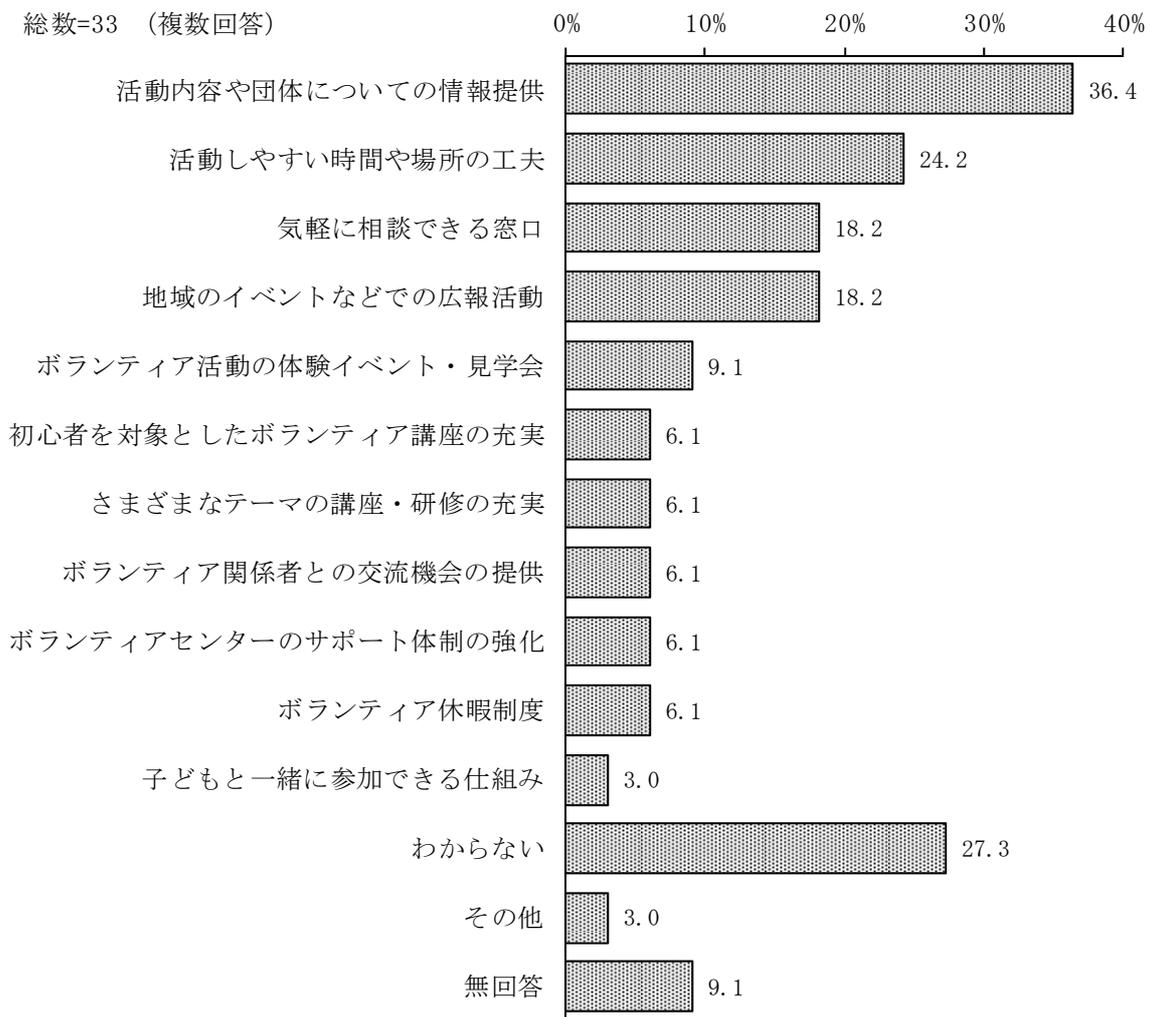


(2) ボランティア活動への参加促進のために必要なこと

Q15 どのようなことがあれば、あなたの事業所の職員の方がボランティア活動に参加しやすくなると思いますか。(〇はいくつでも)

「活動内容や団体についての情報提供」が36.4%と最も多く、次いで「活動しやすい時間や場所の工夫」が24.2%、「気軽に相談できる窓口」「地域のイベントなどでの広報活動」がそれぞれ18.2%となっています。

Q15 ボランティア活動への参加促進のために必要なこと



4. 自由意見

Q16 地域貢献活動や社協の事業に関することなど、社協や地域についてご意見などがありましたら、ご自由にお書き下さい。(記述式)

回答は1件で、店舗の相続に関する困りごとについての内容でした。

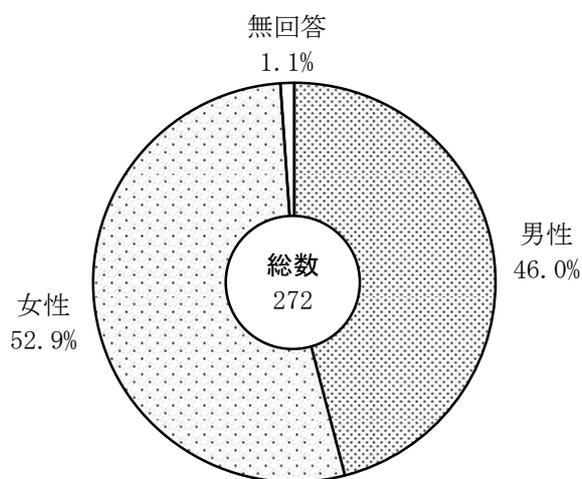
IV. 高校生調査

(1) 性別

あなたの性別をお聞きします。(〇は一つ)

「女性」が52.9%、「男性」が46.0%と、「女性」のほうが多くなっています。

性別



1. ボランティア活動への意識や経験について

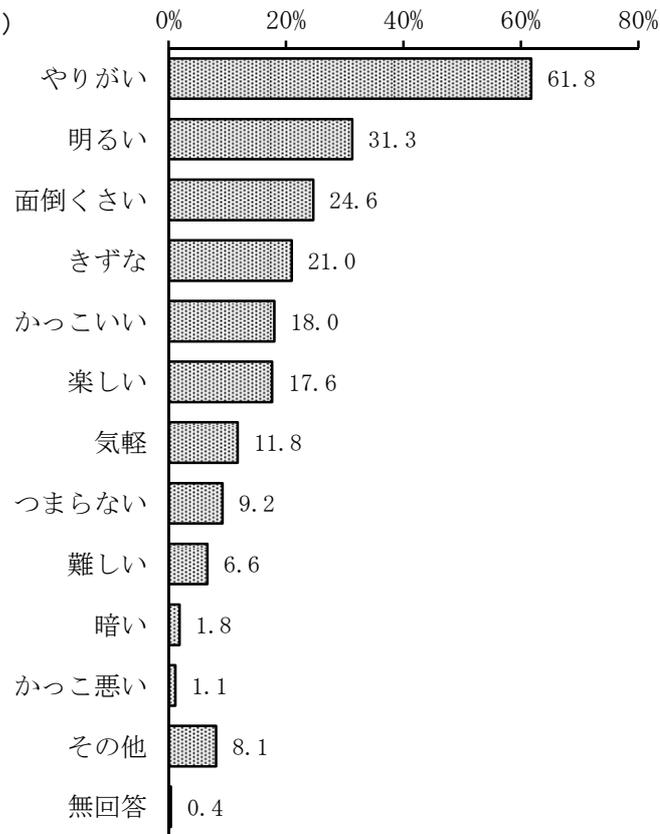
(1) ボランティアに対するイメージ

Q1 あなたが、ボランティア活動に対して抱くイメージをお聞きします。(〇はいくつでも)

「やりがい」が61.8%と最も多く、次いで「明るい」が31.3%、「面倒くさい」が24.6%、「きずな」が21.0%となっています。

Q1 ボランティアに対するイメージ

総数=272 (複数回答)

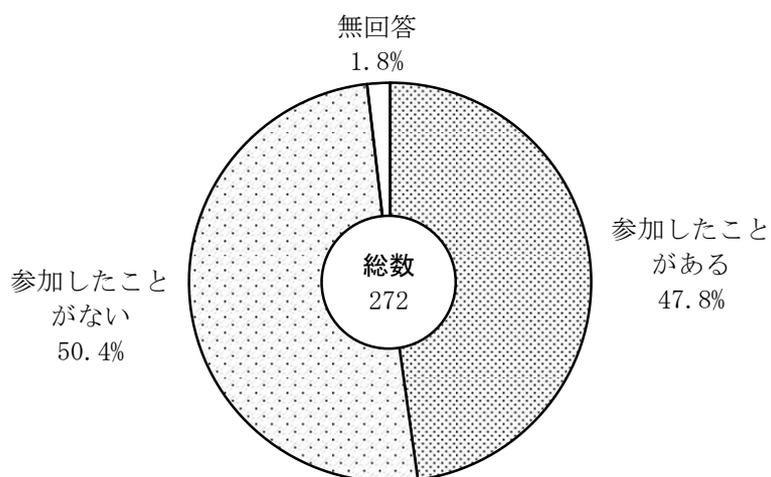


(2) 学校以外でのボランティア活動の経験

Q2 あなたは、これまで学校での出前講座や職場体験、学校周辺での環境美化活動など以外で、自ら進んでボランティア活動に参加したことがありますか。(○は一つ)

「参加したことがない」は50.4%、「参加したことがある」は47.8%と、「参加したことがない」のほうがやや多くなっています。

Q2 学校以外でのボランティア活動の経験

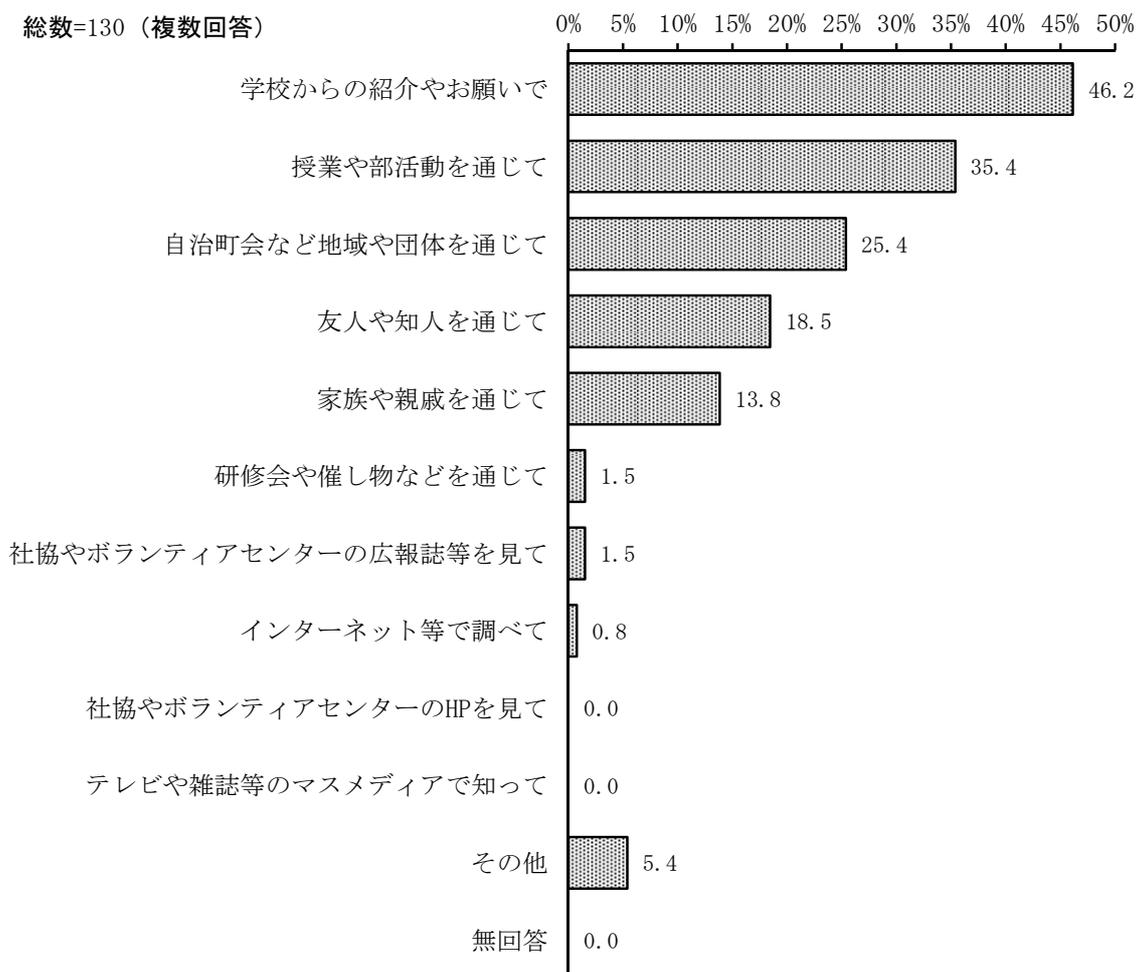


(3) 学校以外でのボランティア活動のきっかけ

Q3 Q2で「1 参加したことがある」と答えた方にお聞きします。あなたが、自主的にボランティア活動に参加した直接のきっかけは何ですか。(〇はいくつでも)

「学校からの紹介やお願いで」が46.2%と最も多く、次いで「授業や部活動を通じて」が35.4%、「自治町会など地域や団体を通じて」が25.4%、「友人や知人を通じて」が18.5%となっています。

Q3 学校以外でのボランティア活動のきっかけ

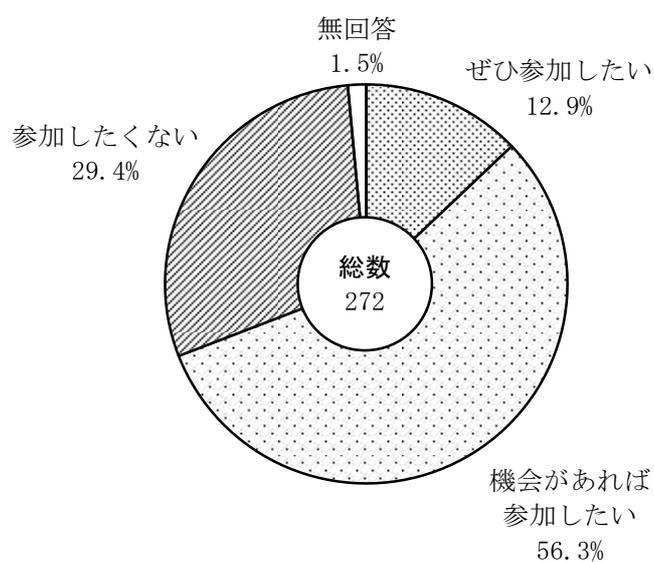


(4) ボランティア活動への参加意向

Q 4 あなたは今後、ボランティア活動に参加したいと思いますか。(○は一つ)

「機会があれば参加したい」が56.3%と最も多く、次いで「参加したくない」が29.4%、「ぜひ参加したい」が12.9%となっています。「ぜひ参加したい」「機会があれば参加したい」を合わせると、7割近くが「参加したい」と回答しています。

Q 4 ボランティア活動への参加意向

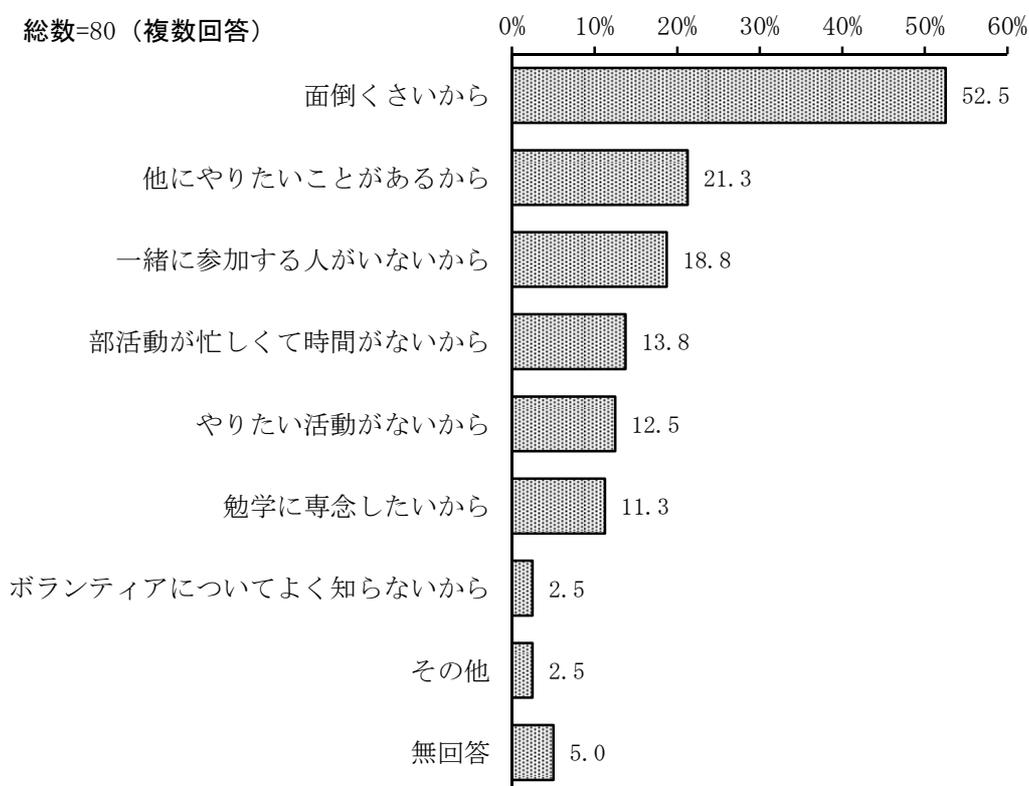


(5) ボランティア活動に参加したくない理由

Q 5 Q 4で「3 参加したくない」と答えた方にお聞きします。あなたが、ボランティア活動に参加したくないと思う理由は何ですか。(〇はいくつでも)

「面倒くさいから」が52.5%と最も多く、次いで「他にやりたいことがあるから」が21.3%、「一緒に参加する人がいないから」が18.8%、「部活動が忙しくて時間がないから」が13.8%となっています。

Q 5 ボランティア活動に参加したくない理由

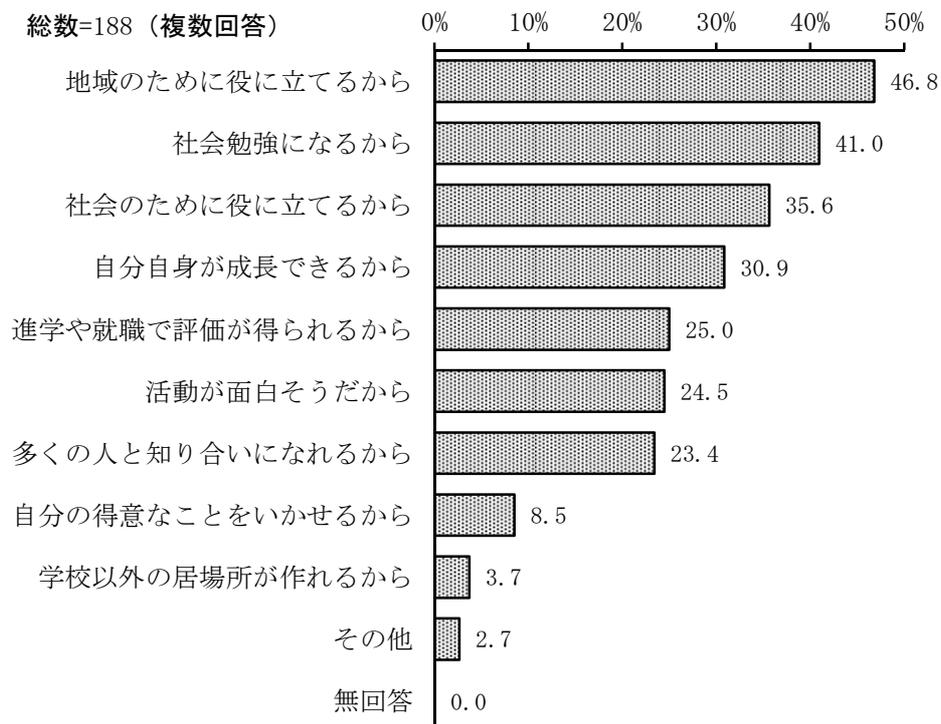


(6) ボランティア活動に参加したい理由

Q6 Q4で「参加したい(1,2)」と答えた方にお聞きします。あなたが、ボランティア活動に参加したいと思う理由は何ですか。(〇はいくつでも)

「地域のために役に立てるから」が46.8%と最も多く、次いで「社会勉強になるから」が41.0%、「社会のために役に立てるから」が35.6%、「自分自身が成長できるから」が30.9%となっています。

Q6 ボランティア活動に参加したい理由



2. ボランティア活動に対する意向について

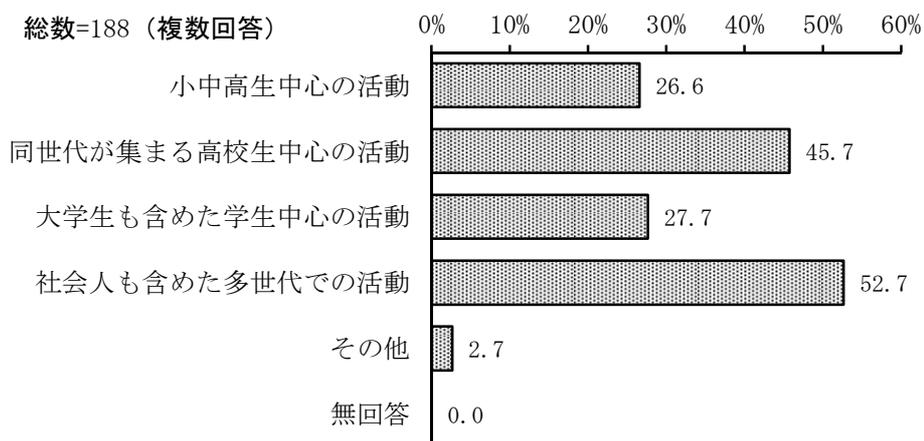
この章の設問（Q7～Q10）は、**Q4で「参加したい（1,2）」と答えた方**にお聞きしました。

（1）いっしょにボランティア活動に参加したい年代

Q7 あなたは、どの年代の方といっしょにボランティア活動に参加したいですか。
（〇はいくつでも）

「社会人も含めた多世代での活動」が52.7%と最も多く、次いで「同世代が集まる高校生中心の活動」が45.7%、「大学生も含めた学生中心の活動」が27.7%、「小中高生中心の活動」が26.6%となっています。

Q7 いっしょにボランティア活動に参加したい年代

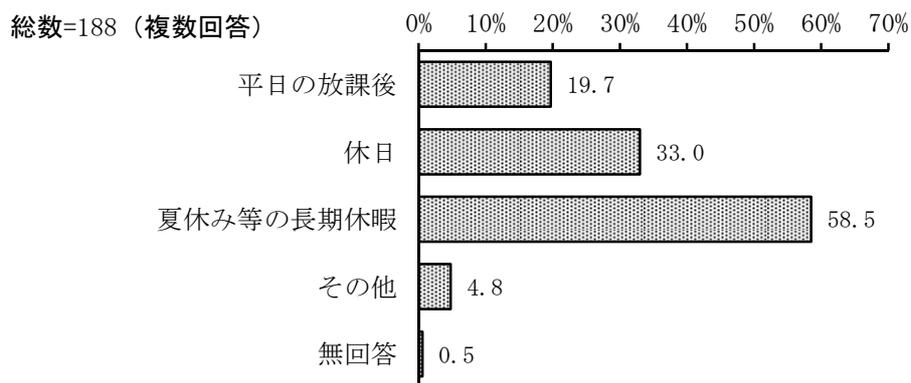


(2) ボランティア活動に参加する希望日時

Q 8 あなたが、ボランティア活動に参加するときに希望する日時はいつですか。
(〇はいくつでも)

「夏休み等の長期休暇」が58.5%と最も多く、次いで「休日」が33.0%、「平日の放課後」が19.7%となっています。

Q 8 ボランティア活動に参加する希望日時

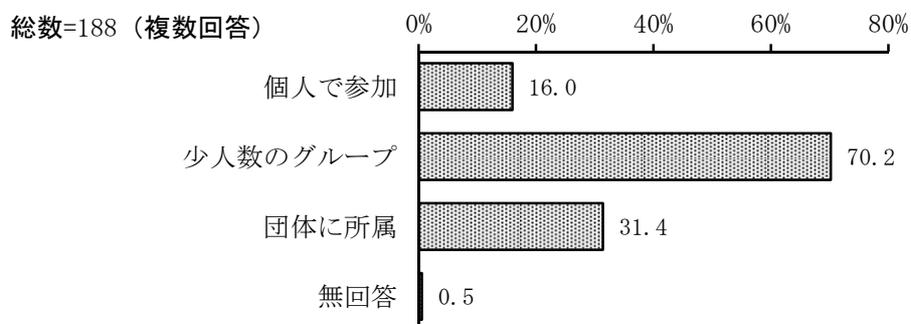


(3) ボランティア活動参加時の希望スタイル

Q 9 あなたは、どのようなスタイルでボランティア活動に参加したいですか。
(〇はいくつでも)

「少人数のグループ」が70.2%と最も多く、次いで「団体に所属」が31.4%、「個人で参加」が16.0%となっています。

Q 9 ボランティア活動参加時の希望スタイル

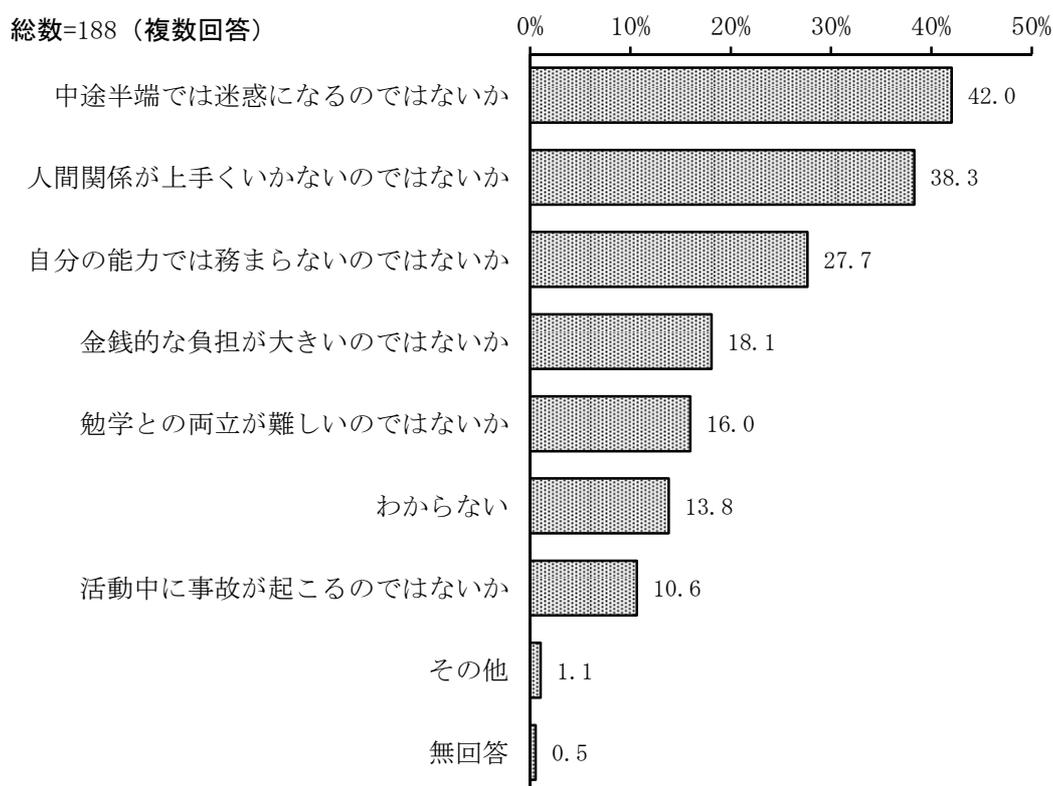


(4) ボランティア活動を始めるときに心配なこと

Q10 あなたが、ボランティア活動を始めようとするときに、心配なことは何ですか。
(〇はいくつでも)

「中途半端では迷惑になるのではないか」が42.0%と最も多く、次いで「人間関係が上手くいかないのではないか」が38.3%、「自分の能力では務まらないのではないか」が27.7%、「金銭的な負担が大きいのではないか」が18.1%となっています。

Q10 ボランティア活動を始めるときに心配なこと



3. ボランティアセンターについて

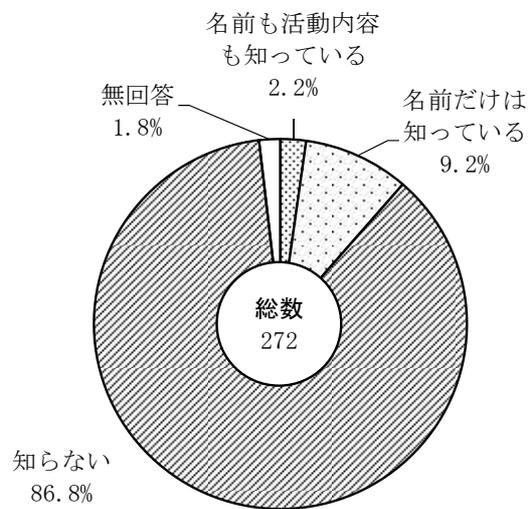
ここからは、すべての方にお聞きしました。

(1) かつしかボランティアセンターの認知度

Q11 あなたは、かつしかボランティアセンターを知っていますか。(〇は一つ)

かつしかボランティアセンターについて「知らない」が86.8%と最も多く、次いで「名前だけは知っている」が9.2%。「名前も活動内容も知っている」が2.2%となっています。

Q11 かつしかボランティアセンターの認知度

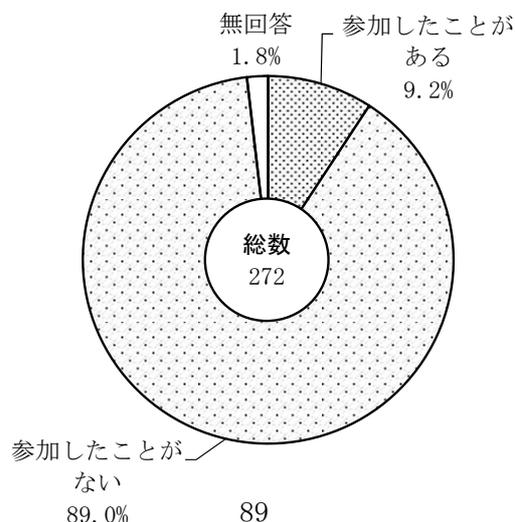


(2) 学校以外でのボランティア講座の参加経験

Q12 あなたは、これまで学校以外で開催されるボランティア講座などに参加したことがありますか。(〇は一つ)

「参加したことがない」が89.0%、「参加したことがある」が9.2%となっています。

Q12 学校以外でのボランティア講座の参加経験

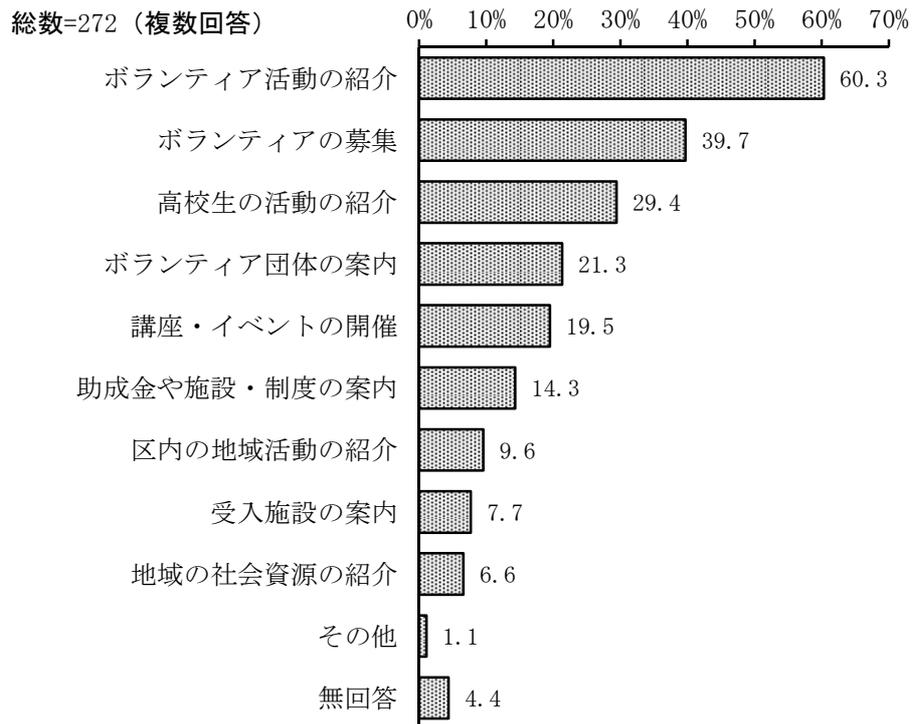


(3) 必要だと思うボランティア活動の情報

Q13 あなたが、必要だと思うボランティア活動の情報はなんですか。(〇はいくつでも)

「ボランティア活動の紹介」が60.3%と最も多く、次いで「ボランティアの募集」が39.7%、「高校生の活動の紹介」が29.4%、「ボランティア団体の案内」が21.3%となっています。

Q13 必要だと思うボランティア活動の情報

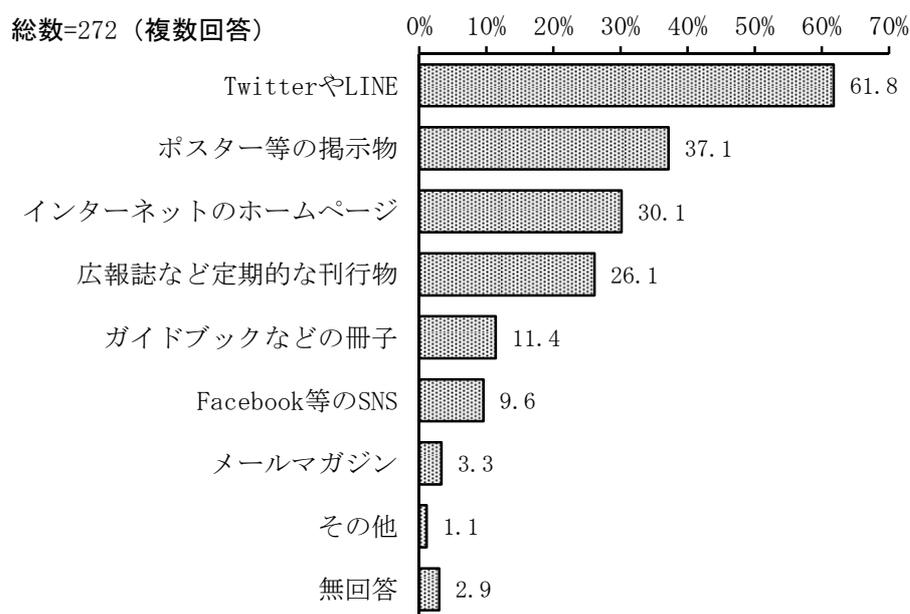


(4) 利用しやすいボランティア活動の情報

Q14 あなたは、ボランティア活動の情報について、どのような方法で発信されていたら利用しやすいと思いますか。(〇はいくつでも)

「Twitter や LINE」が 61.8% と最も多く、次いで「ポスター等の掲示物」が 37.1%、「インターネットのホームページ」が 30.1%、「広報誌など定期的な刊行物」が 26.1% となっています。

Q14 利用しやすいボランティア活動の情報

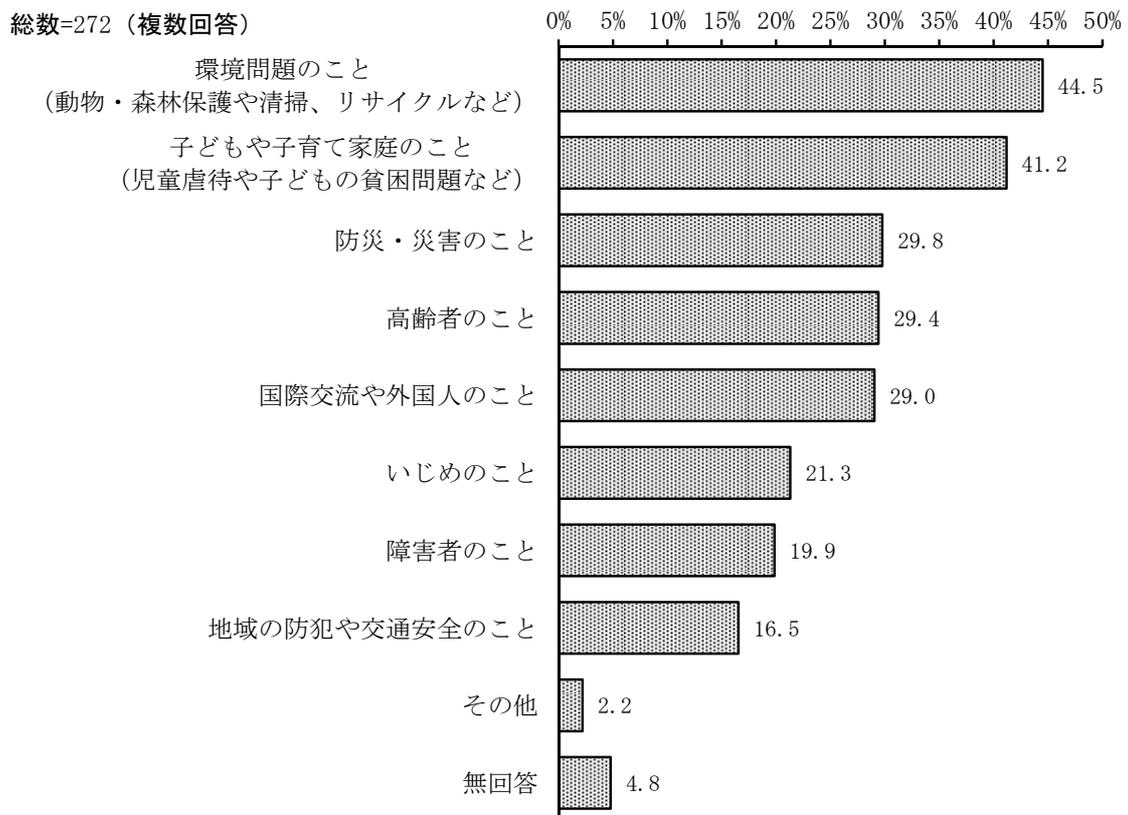


(5) 関心のあるボランティア活動

Q15 あなたの身のまわりでの関心事や、関心のあるボランティア活動はどのような内容ですか。(〇はいくつでも)

「環境問題のこと（動物・森林保護や清掃、リサイクルなど）」が44.5%と最も多く、次いで「子どもや子育て家庭のこと（児童虐待や子どもの貧困問題など）」が41.2%、「防災・災害のこと」が29.8%、「高齢者のこと」が29.4%となっています。

Q15 関心のあるボランティア活動



4. 自由意見

Q16 ボランティア活動や、かつしかボランティアセンターに関する事など、ご意見などがありましたら、ご自由にお書き下さい。(記述式)

8件の回答がありました。「ボランティア活動の情報発信について」「ボランティア活動について」に関する回答がそれぞれ3件、「その他」の回答が2件となっています。

項目	件数
ボランティア活動の情報発信について	3
ボランティア活動について	3
その他	2

◆ 主な意見（紙幅の関係で内容を要約・省略している場合があります）

意見
どのような活動をしているか分からないので、広報活動をもっとして知名度を上げた方がいい。
一度は参加してみたいけれど、よくわからないので、もっと宣伝したりして欲しい。
私の住んでいる地域ではボランティアの人がマナーを守れていないので、きちんとマナー、ルールを守った上でやるべきだと思う。(道いっぱいに広がってゴミ拾いをするなど)。
機会があればやりたい。

V. 個人ボランティア調査

1. ご本人について

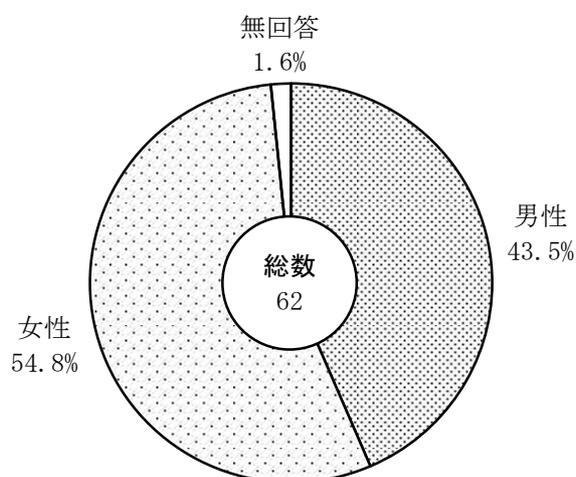
(1) 性別・年齢

Q 1 あなたご自身についてお聞きします。平成 28 年 4 月 1 日現在でご記入ください。

①性別

「女性」が 54.8%と、「男性」が 43.5%と、「女性」のほうがやや多くなっています。

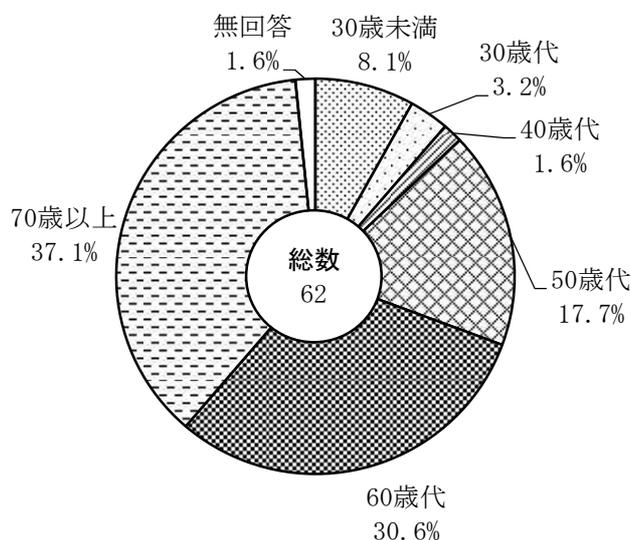
Q 1 ① 性別



②年齢

「70 歳以上」が 37.1%と最も多く、次いで「60 歳代」が 30.6%、「50 歳代」が 17.7%、「30 歳未満」が 8.1%となっています。65 歳以上の方では 58.1%と半数を超えています。

Q 1 ② 年齢

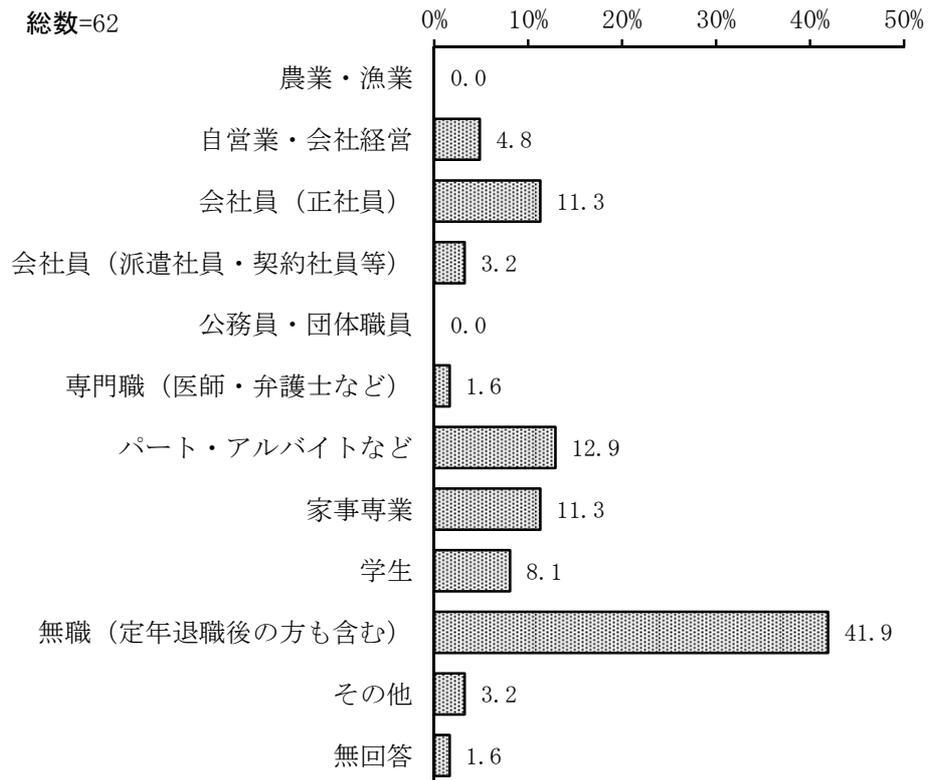


(2) 職業

Q2 あなたの職業をお聞きします。(主なもの一つに○)

「無職(定年退職後の方も含む)」が41.9%と最も多く、次いで「パート・アルバイトなど」が12.9%、「会社員(正社員)」「家事専業」がそれぞれ11.3%となっています。

Q2 職業



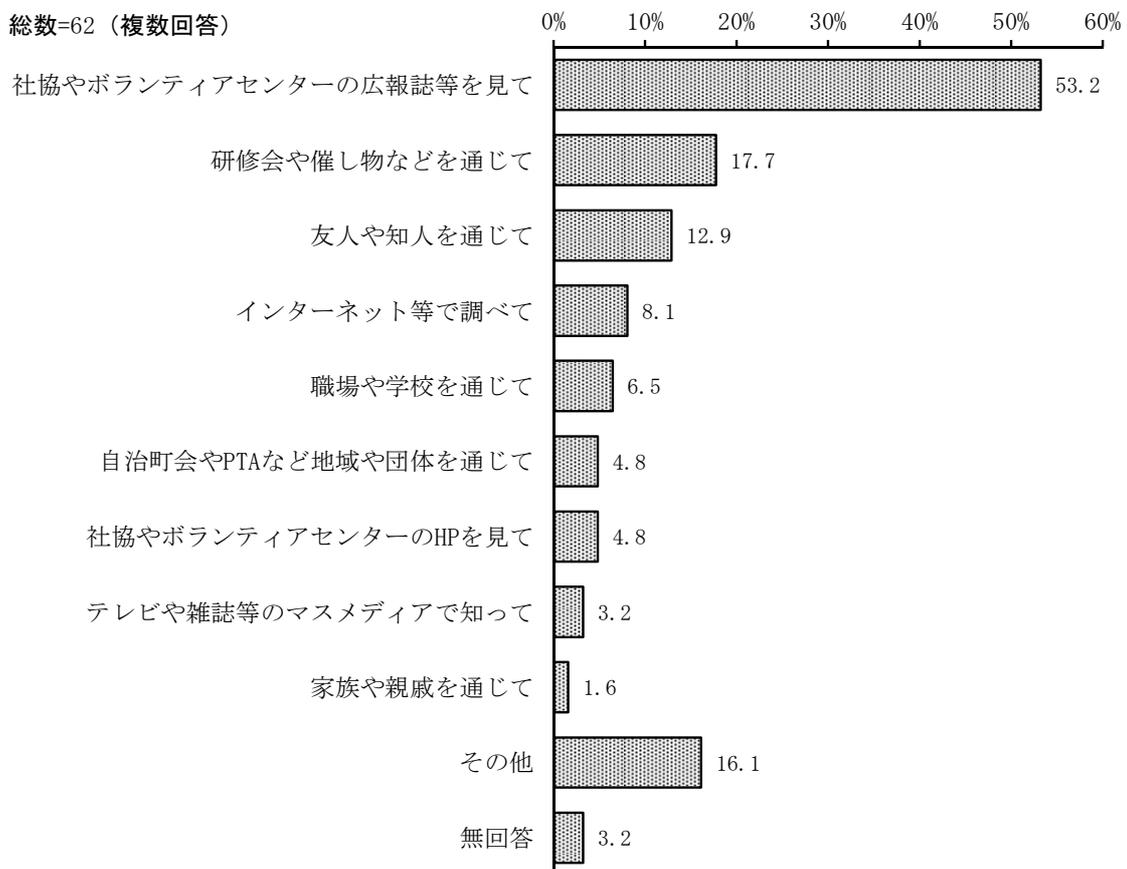
2. ボランティア活動について

(1) ボランティア活動への参加のきっかけ

Q3 あなたが、ボランティア活動に参加した直接のきっかけは何ですか。(〇はいくつでも)

「社協やボランティアセンターの広報誌等を見て」が53.2%と最も多く、次いで「研修会や催し物などを通じて」が17.7%、「友人や知人を通じて」が12.9%、「インターネット等で調べて」が8.1%となっています。

Q3 ボランティア活動への参加のきっかけ

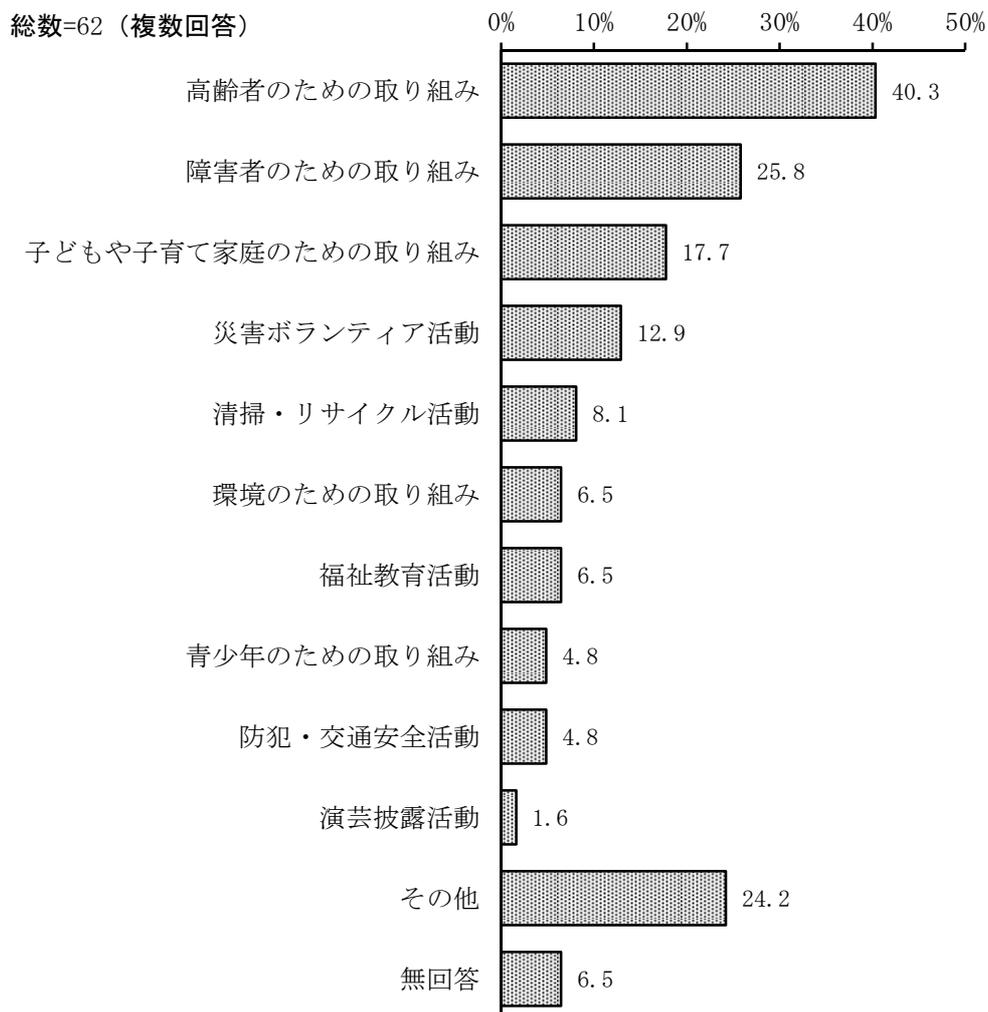


(2) ボランティア活動の分野

Q 4 あなたの行っているボランティア活動はどのような内容ですか。(〇はいくつでも)

「高齢者のための取り組み」が40.3%と最も多く、次いで「障害者のための取り組み」が25.8%、「子どもや子育て家庭のための取り組み」が17.7%、「災害ボランティア活動」が12.9%となっています。「その他」という回答は24.2%で、内容は庭仕事やスポーツ活動など多岐にわたっています。

Q 4 ボランティア活動の分野

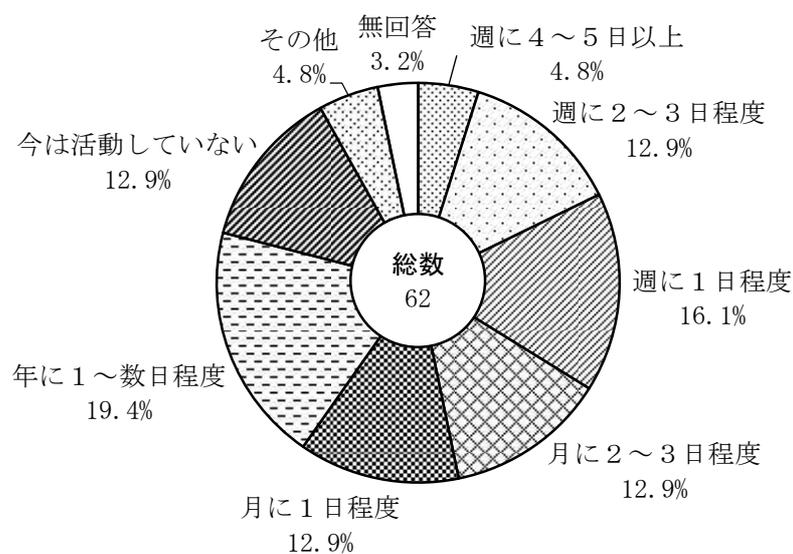


(3) ボランティア活動の頻度

Q5 あなたは、どのくらいの頻度でボランティア活動に参加していますか。ボランティア活動に関する打ち合せや研修なども含めた、すべての時間をお答えください（○は一つ）

「年に1～数日程度」が19.4%と最も多く、次いで「週に1日程度」が16.1%、「週に2～3日程度」「月に2～3日程度」「月に1日程度」「今は活動していない」がそれぞれ12.9%となっています。

Q5 ボランティア活動の頻度

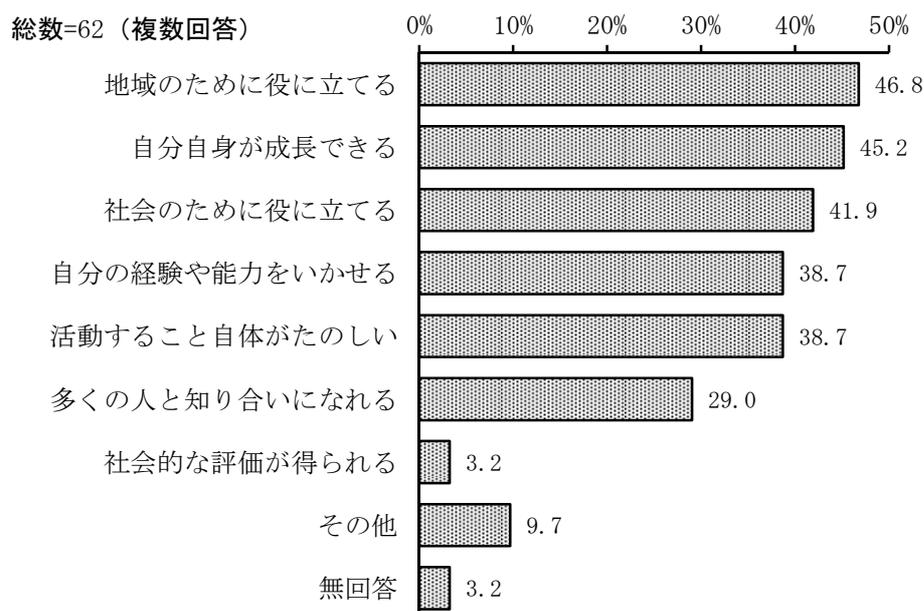


(4) ボランティア活動に参加する目的

Q 6 あなたが、ボランティア活動に参加する主な目的はなんですか。(〇はいくつでも)

「地域のために役に立てる」が46.8%と最も多く、次いで「自分自身が成長できる」が45.2%、「社会のために役に立てる」が41.9%、「自分の経験や能力をいかせる」「活動すること自体がたのしい」がそれぞれ38.7%となっています。

Q 6 ボランティア活動に参加する目的

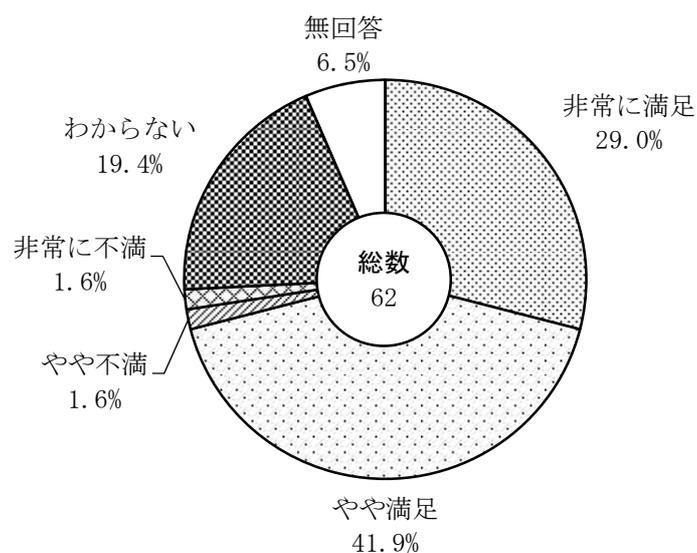


(5) ボランティア活動の満足度

Q7 あなたは、ボランティア活動に参加してどのように感じていますか。(○は一つ)

「やや満足」が41.9%と最も多く、次いで「非常に満足」が29.0%、「やや不満」「非常に不満」がそれぞれ1.6%となっています。「わからない」という回答は19.4%でした。「非常に満足」と「やや満足」をあわせた回答は、7割以上となっています。

Q7 ボランティア活動の満足度

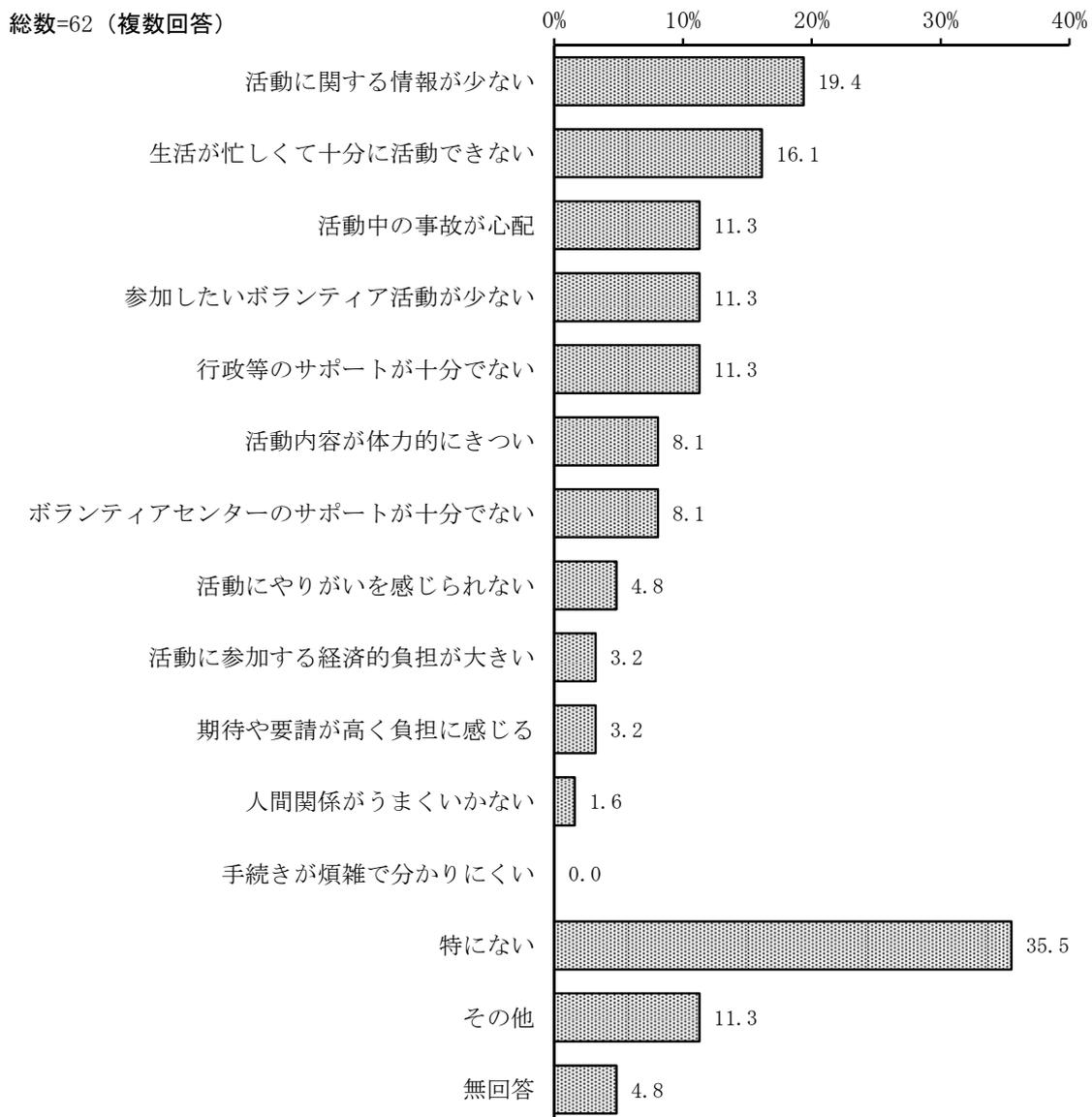


(6) ボランティア活動で困っていること

Q8 あなたには、ボランティア活動に関して困っていることはありますか。(〇はいくつでも)

「活動に関する情報が少ない」が19.4%と最も多く、次いで「生活が忙しくて十分に活動できない」が16.1%、「活動中の事故が心配」「参加したいボランティア活動が少ない」「行政等のサポートが十分でない」がそれぞれ11.3%となっています。「特にない」という回答は35.5%でした。

Q8 ボランティア活動で困っていること

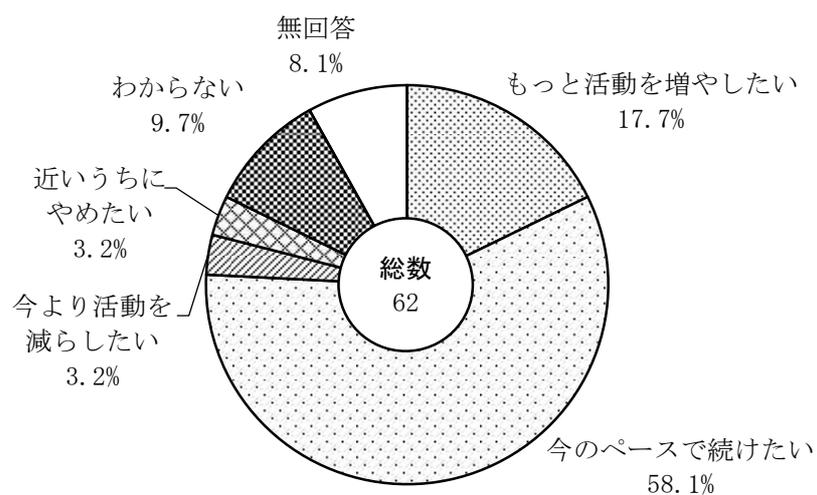


(7) 今後の活動の意向

Q 9 あなたは今後、ボランティア活動をどのようにしていきたいと思いますか。(〇は一つ)

「今のペースで続けたい」が58.1%と最も多く、次いで「もっと活動を増やしたい」が17.7%、「今より活動を減らしたい」「近いうちにやめたい」がそれぞれ3.2%となっています。「わからない」という回答は9.7%でした。

Q 9 今後の活動の意向

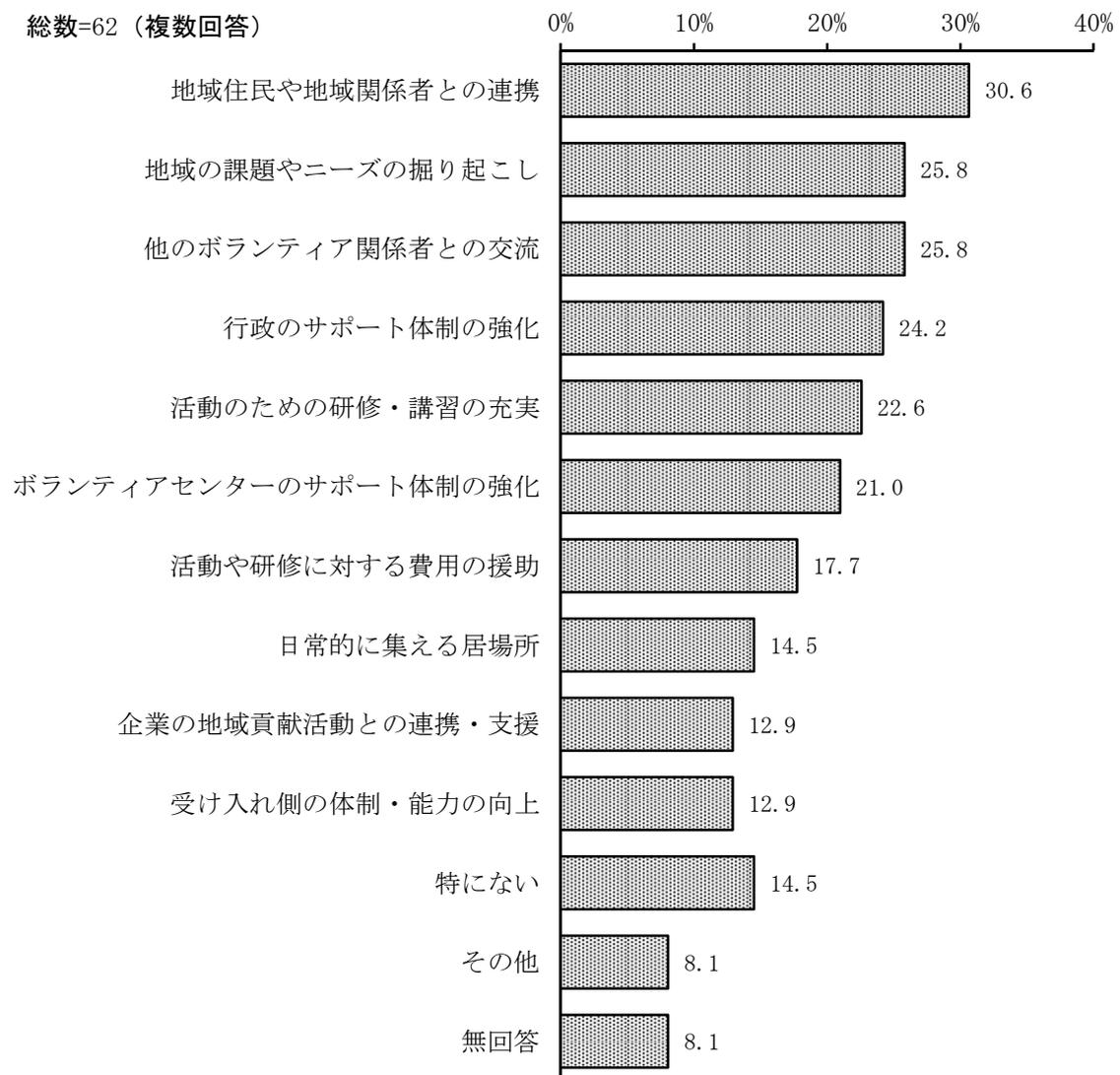


(8) より良い活動のために必要なこと

Q10 あなたは、ボランティア活動をより良いものにしていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「地域住民や地域関係者との連携」が30.6%と最も多く、次いで「地域の課題やニーズの掘り起こし」「他のボランティア関係者との交流」がそれぞれ25.8%、「行政のサポート体制の強化」が24.2%となっています。

Q10 より良い活動のために必要なこと

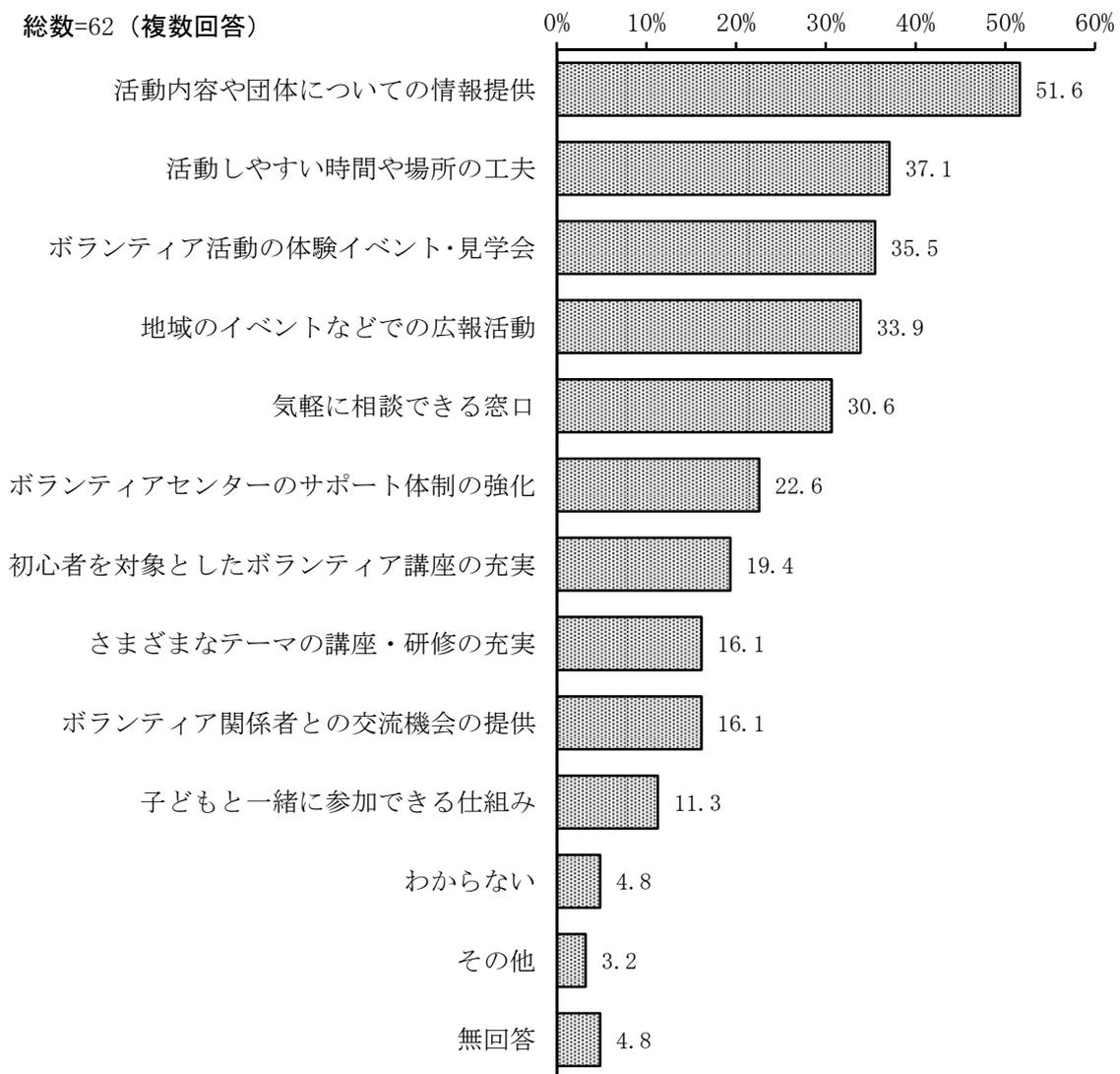


(9) ボランティア活動への参加者を増やすために必要なこと

Q11 あなたは、ボランティア活動を始める人を増やすためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「活動内容や団体についての情報提供」が51.6%と最も多く、次いで「活動しやすい時間や場所の工夫」が37.1%、「ボランティア活動の体験イベント・見学会」が35.5%、「地域のイベントなどでの広報活動」が33.9%となっています。

Q11 ボランティア活動への参加者を増やすために必要なこと



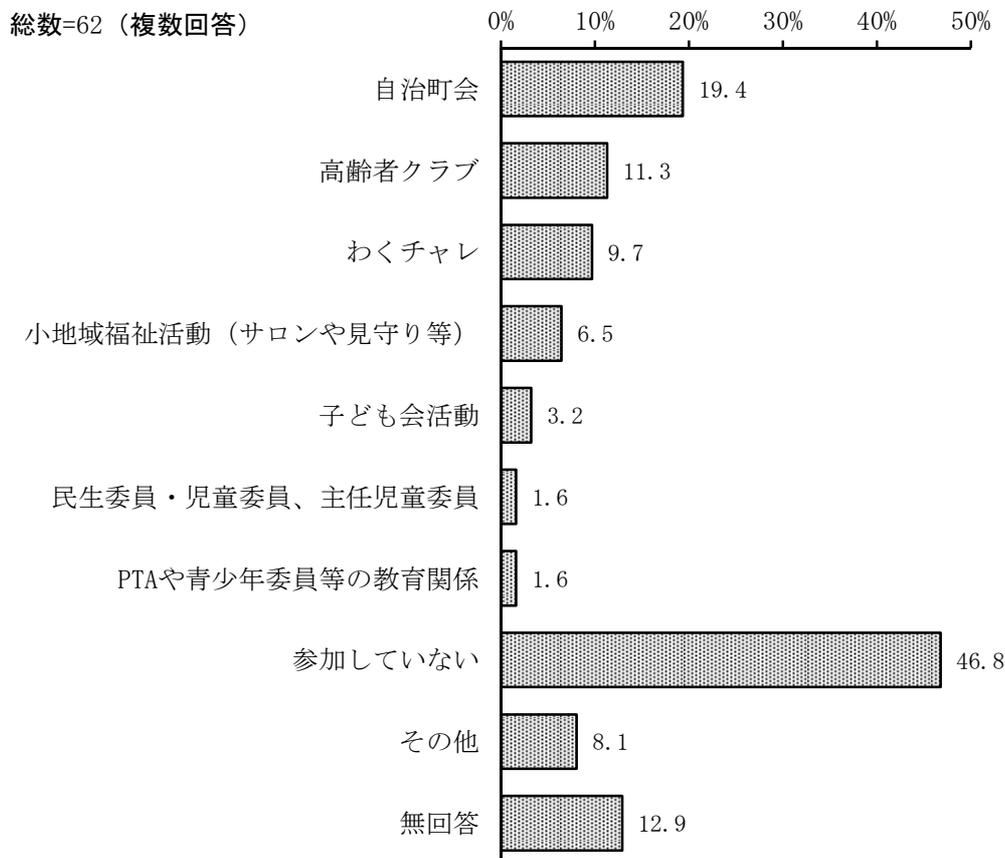
3. その他の地域活動について

(1) 地域活動への参加状況

Q12 あなたは、ボランティア活動以外に、地域活動に参加していますか。参加している方はその活動をお答えください。(〇はいくつでも)

「自治町会」が19.4%と最も多く、次いで「高齢者クラブ」が11.3%、「わくチャレ」が9.7%、「小地域福祉活動（サロンや見守り等）」が6.5%となっています。「参加していない」という回答は46.8%でした。

Q12 地域活動への参加状況

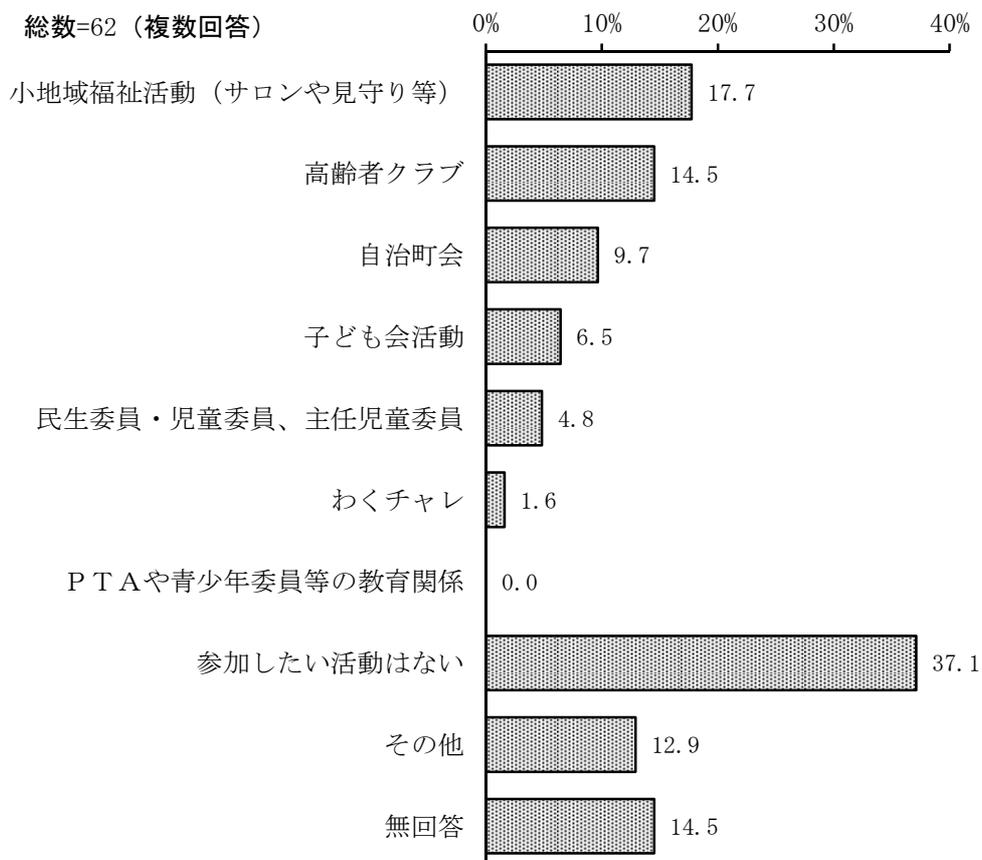


(2) 今後の地域活動への参加意向

Q13 あなたは今後、現在参加しているもの以外の地域活動に新たに参加したいと思いますか。参加したい方はその活動をお答えください。(〇はいくつでも)

「小地域福祉活動（サロンや見守り等）」が 17.7%と最も多く、次いで「高齢者クラブ」が 14.5%、「自治町会」が 9.7%、「子ども会活動」が 6.5%となっています。「参加したい活動はない」という回答は 37.1%でした。

Q13 今後の地域活動への参加意向



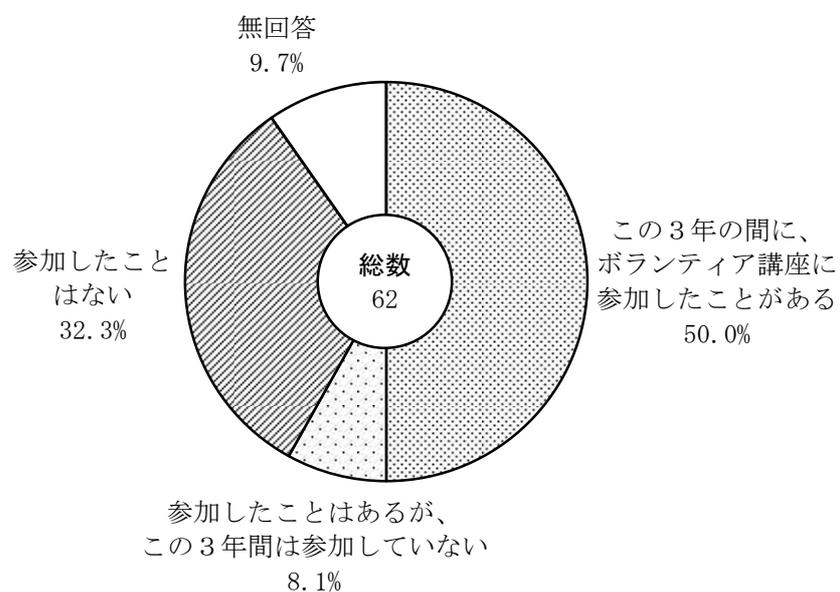
4. ボランティアセンターについて

(1) ボランティア講座への参加経験

Q14 あなたは、この3年間でボランティア講座に参加したことがありますか。(〇は一つ)

「この3年の間に、ボランティア講座に参加したことがある」が50.0%と最も多く、次いで「参加したことはない」が32.3%、「参加したことはあるが、この3年間は参加していない」が8.1%となっています。

Q14 ボランティア講座への参加経験



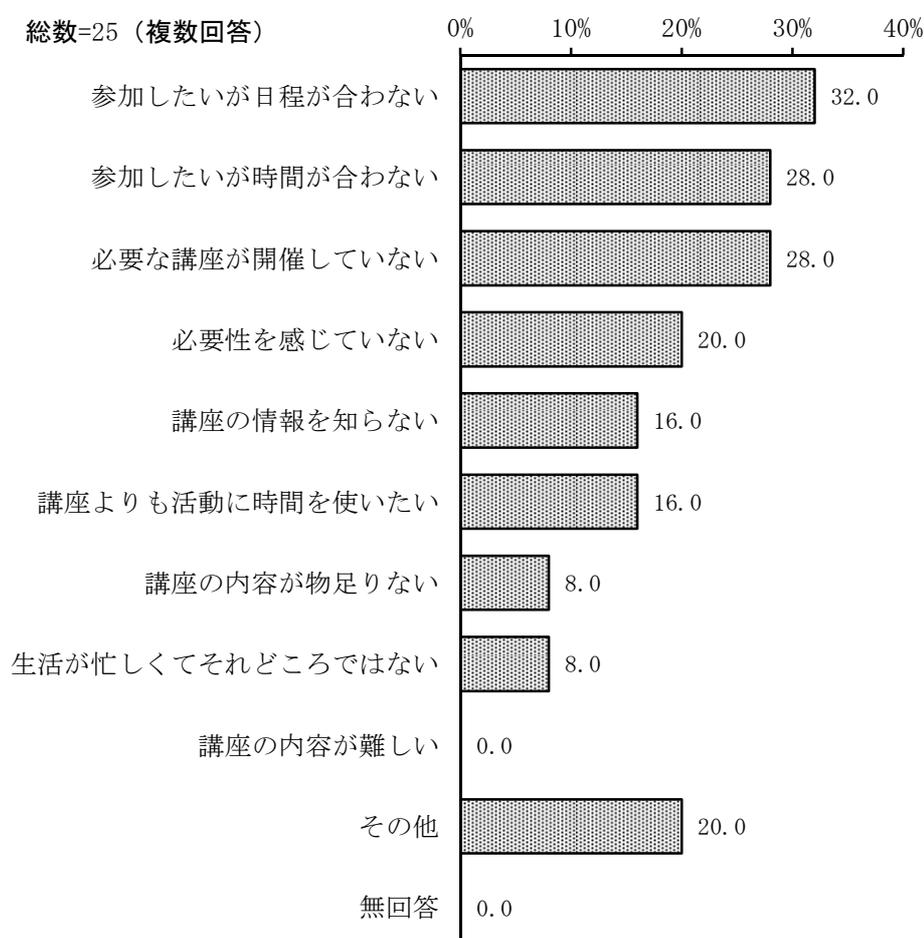
(2) ボランティア講座に参加していない理由

Q15 この3年間でボランティア講座に参加していない方にお聞きします。

あなたが、ボランティア講座に参加していない理由はなんですか（〇はいくつでも）

「参加したいが日程が合わない」が32.0%で最も多く、次いで「参加したいが時間が合わない」「必要な講座が開催していない」がそれぞれ28.0%、「必要性を感じていない」が20.0%となっています。「その他」という回答は20.0%で、「現在活動していない」「ボランティアをはじめたばかりでよくわからない」などの回答がありました。

Q15 ボランティア講座に参加していない理由



(3) 開催してほしいボランティア講座

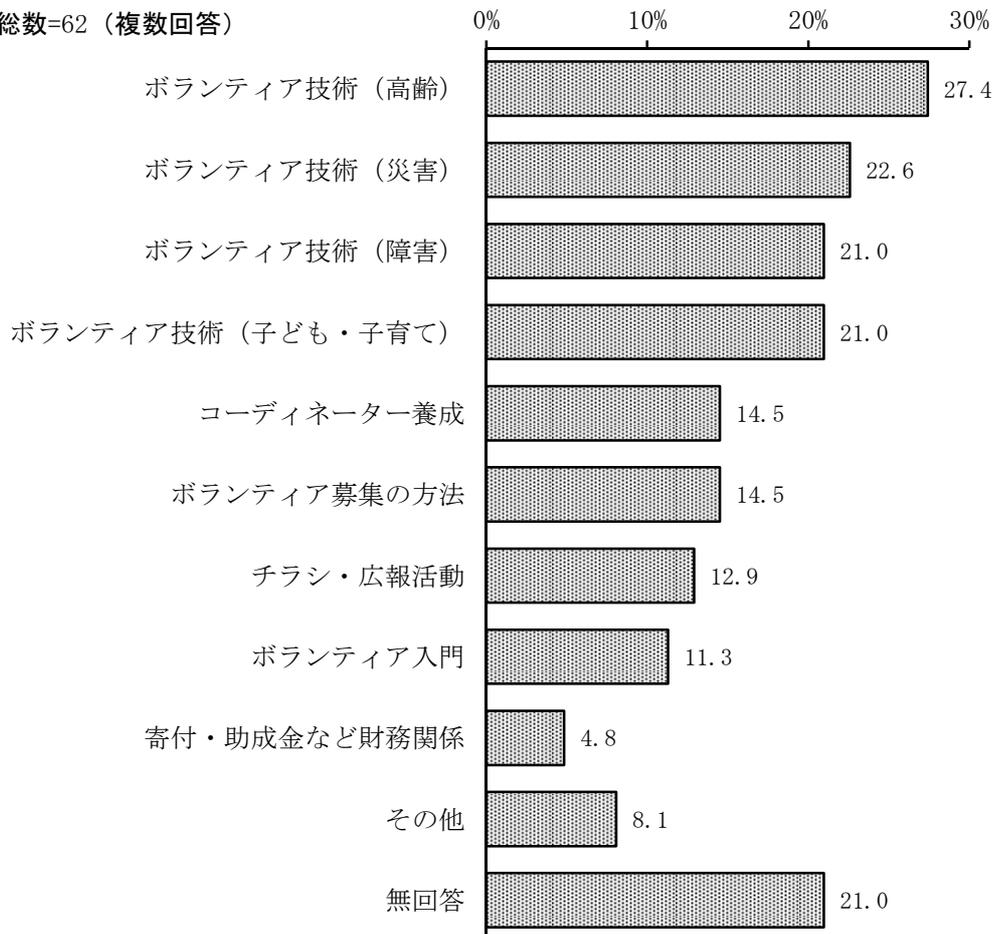
Q16 あなたが今後、開催してほしいボランティア講座の内容はなんですか。(〇はいくつでも)

「ボランティア技術（高齢）」が27.4%と最も多く、次いで「ボランティア技術（災害）」が22.6%、「ボランティア技術（障害）」「ボランティア技術（子ども・子育て）」がそれぞれ21.0%となっています。

Q16 開催してほしいボランティア講座

Q16. 今後開催してほしいボランティア講座

総数=62（複数回答）

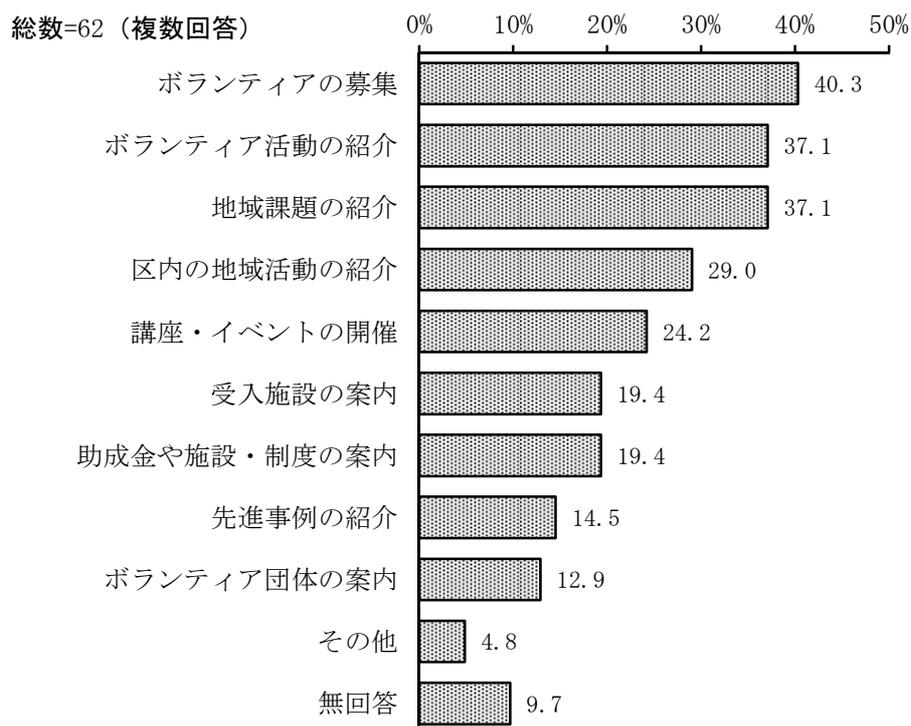


(4) 必要だと思うボランティア活動の情報

Q17 あなたが、必要だと思うボランティア活動の情報はなんですか。(〇はいくつでも)

「ボランティアの募集」が 40.3%と最も多く、次いで「ボランティア活動の紹介」「地域課題の紹介」がそれぞれ 37.1%、「区内の地域活動の紹介」が 29.0%となっています。

Q17 必要だと思うボランティア活動の情報

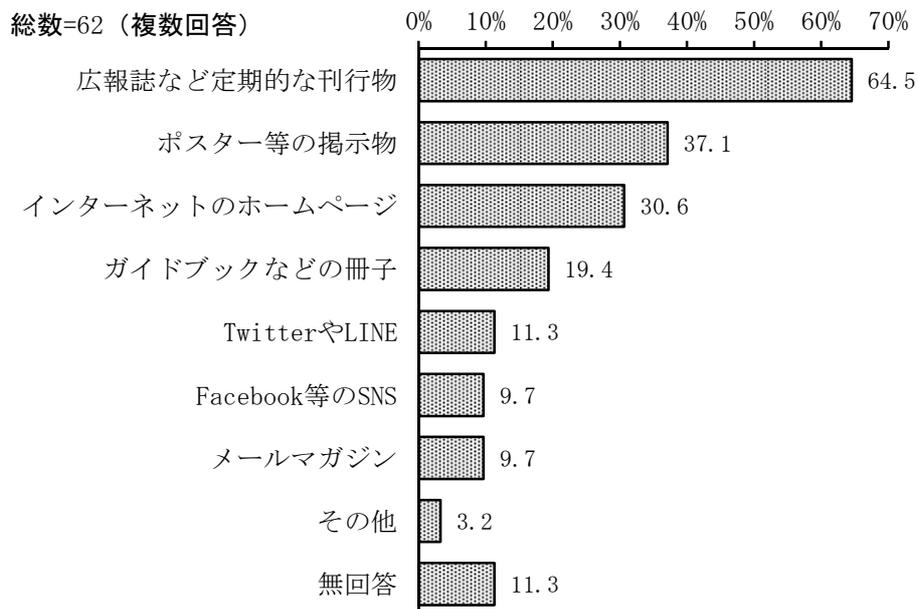


(5) 利用しやすいボランティア活動の情報の発信方法

Q18 あなたは、ボランティア活動の情報について、どのような方法で発信されていたら利用しやすいと思いますか。(〇はいくつでも)

「広報誌など定期的な刊行物」が64.5%と最も多く、次いで「ポスター等の掲示物」が37.1%、「インターネットのホームページ」が30.6%、「ガイドブックなどの冊子」が19.4%となっています。

Q18 利用しやすいボランティア活動の情報の発信方法



5. 自由意見

Q19 ボランティア活動や、かつしかボランティアセンターに関する事など、ご意見などがありましたら、ご自由にお書き下さい。(記述式)

22 件の回答がありました。「ボランティアセンターについて」に関する回答が 7 件、「ボランティア活動での困りごと」に関する回答が 6 件、「ボランティア活動の情報提供」に関する回答が 4 件、「その他」の回答が 5 件となっています。

項 目	件数
ボランティアセンターについて	7
ボランティア活動での困りごと	6
ボランティア活動の情報提供	4
その他	5

◆ 主な意見（紙幅の関係で内容を要約・省略している場合があります）

意 見	性別・年齢
ボランティアセンターが遠いため、1 つではなく、小規模でも良いのもっと気軽に利用できるようにしてほしい。	女性・30 代
ボランティア支援を身近に感じるような取り組みを工夫して欲しい。	男性・60 代
生活支援ボランティアの依頼の回答期限や、誰が誰に連絡するのかがはっきりしていない。	男性・50 代
支援を受ける人と支援する人の活動日の調整が大変。	男性・60 代
子どもを対象としたボランティア活動を行っていますが、場所の確保と子どもたちを集める方法が問題となっている。	男性・70 代
会員が不足しているため、より多くの人に興味を持って参加できる方法を考えて、会員を確保していきたい。	女性・60 代
ボランティアセンター（ウェルピア葛飾）活動を知っている人は少ない。どう PR していくかが課題。	女性・70 代
自分の住んでいる地域にどのようなボランティア活動があるのかの一覧表があるとよい。	男性・60 代

VI. ボランティア団体調査

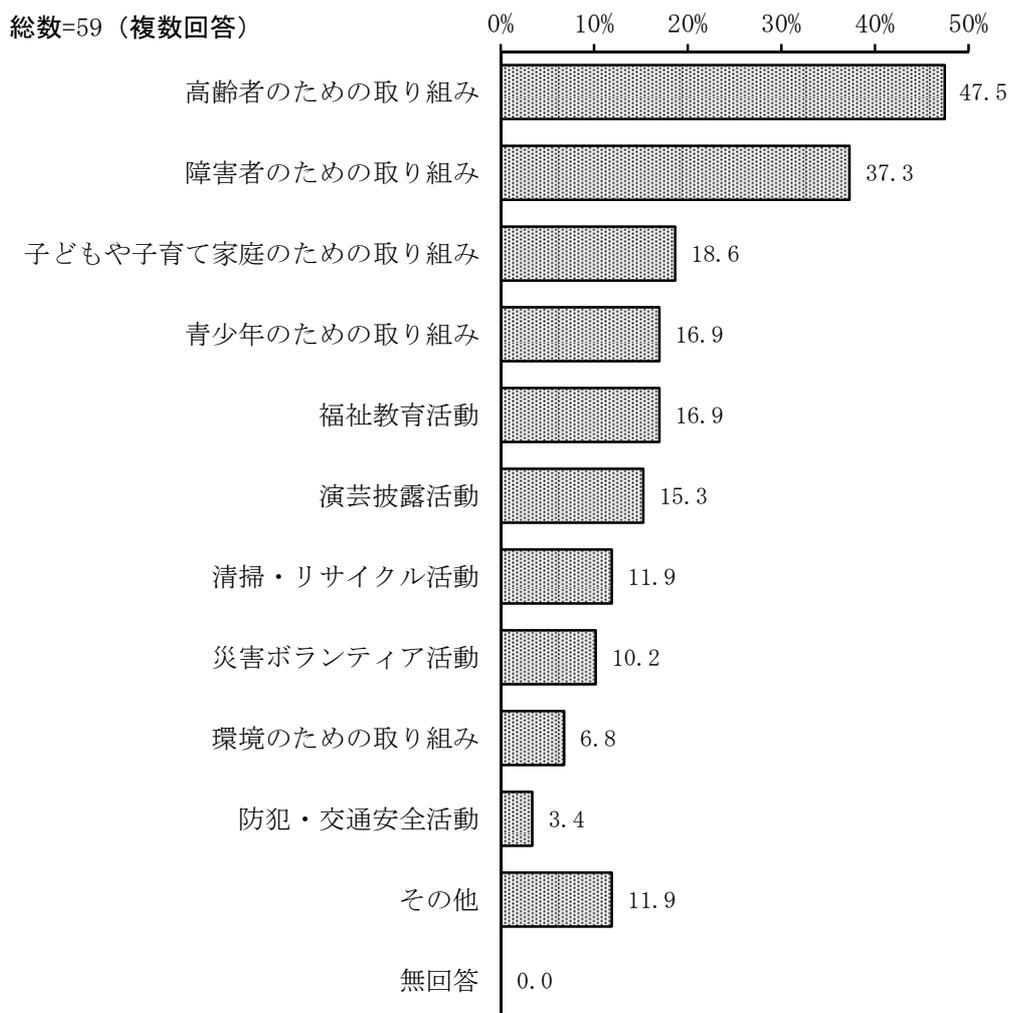
1. 貴団体について

(1) ボランティア活動の分野

Q 2 貴団体の行っているボランティア活動はどのような内容ですか。(〇はいくつでも)

「高齢者のための取り組み」が 47.5%と最も多く、次いで「障害者のための取り組み」が 37.3%、「子どもや子育て家庭のための取り組み」が 18.6%、「青少年のための取り組み」が 16.9%となっています。

Q 2 ボランティア活動の分野

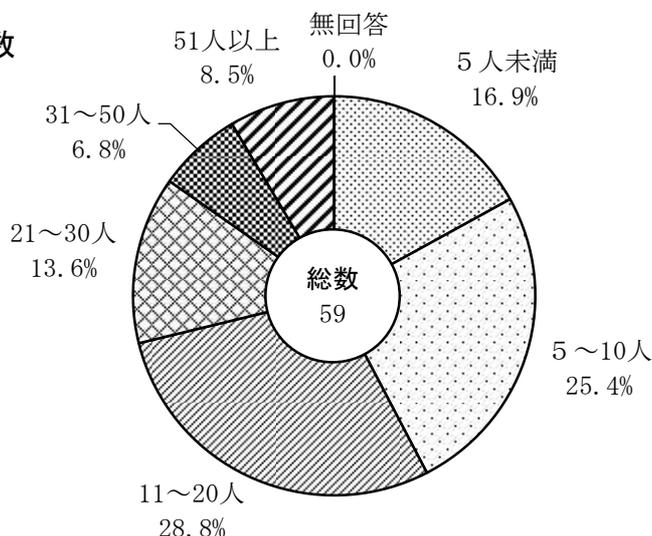


(2) メンバーの人数

Q 3 貴団体のボランティア活動に参加しているメンバーは何人ですか。(〇は一つ)

「11～20人」が28.8%と最も多く、次いで「5～10人」が25.4%、「5人未満」が16.9%、「21～30人」が13.6%となっています。

Q 3 メンバーの人数



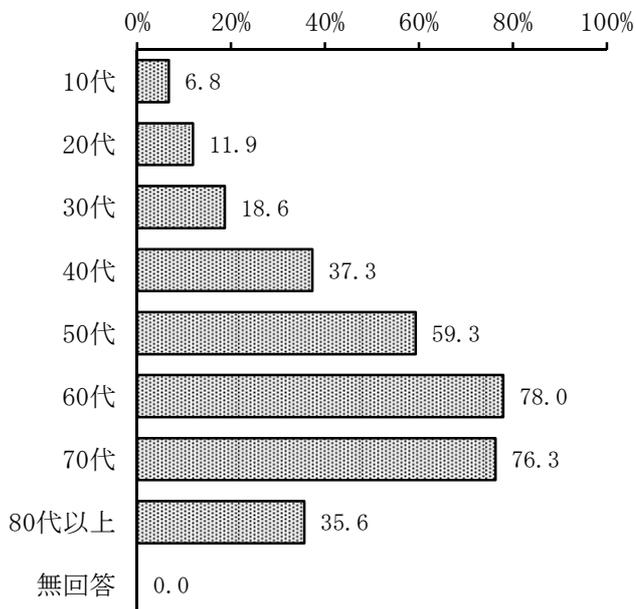
(3) メンバーの年齢層

Q 4 貴団体のメンバーの年齢層をお聞きします。ボランティア活動に参加しているメンバー全員の年齢層をお答えください。(〇はいくつでも)

「60代」が78.0%と最も多く、次いで「70代」が76.3%、「50代」が59.3%、「40代」が37.3%となっています。

Q 4 メンバーの年齢層

総数=59 (複数回答)



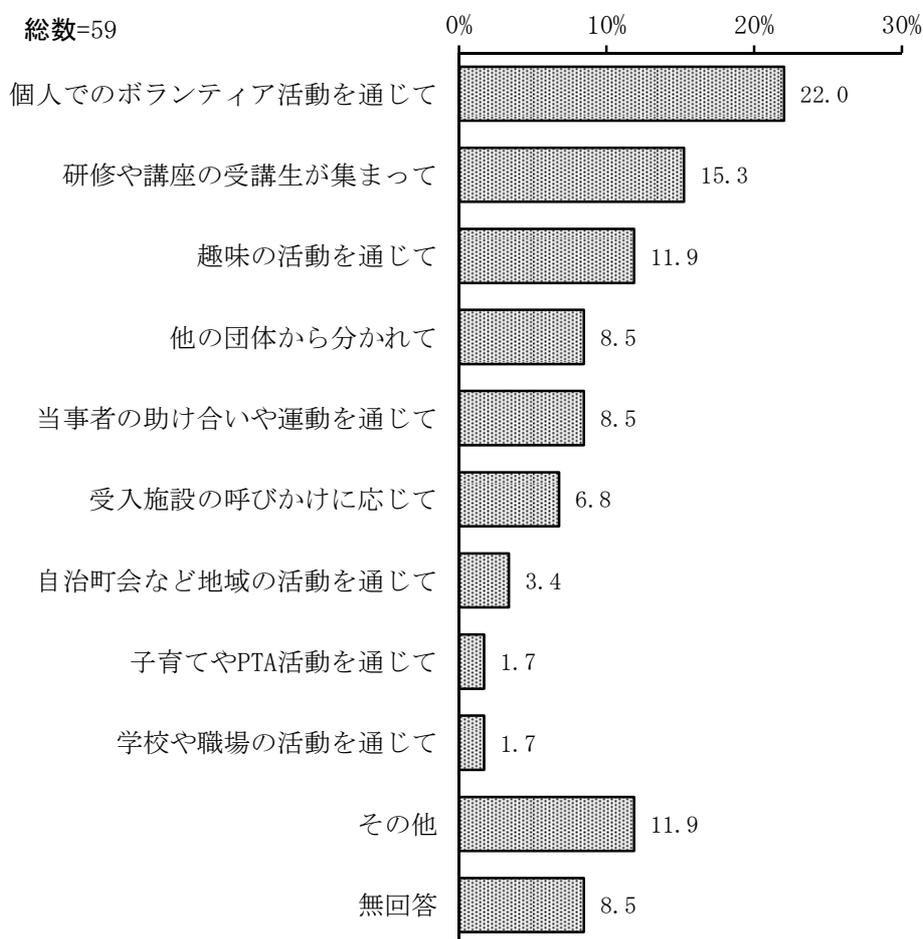
2. ボランティア活動について

(1) 団体設立のきっかけ

Q 5 貴団体が、設立したきっかけは何ですか。(〇は一つ)

「個人でのボランティア活動を通じて」が22.0%と最も多く、次いで「研修や講座の受講生が集まって」が15.3%、「趣味の活動を通じて」が11.9%、「他の団体から分かれて」「当事者の助け合いや運動を通じて」がそれぞれ8.5%となっています。「その他」という回答は11.9%でした。

Q 5 団体設立のきっかけ

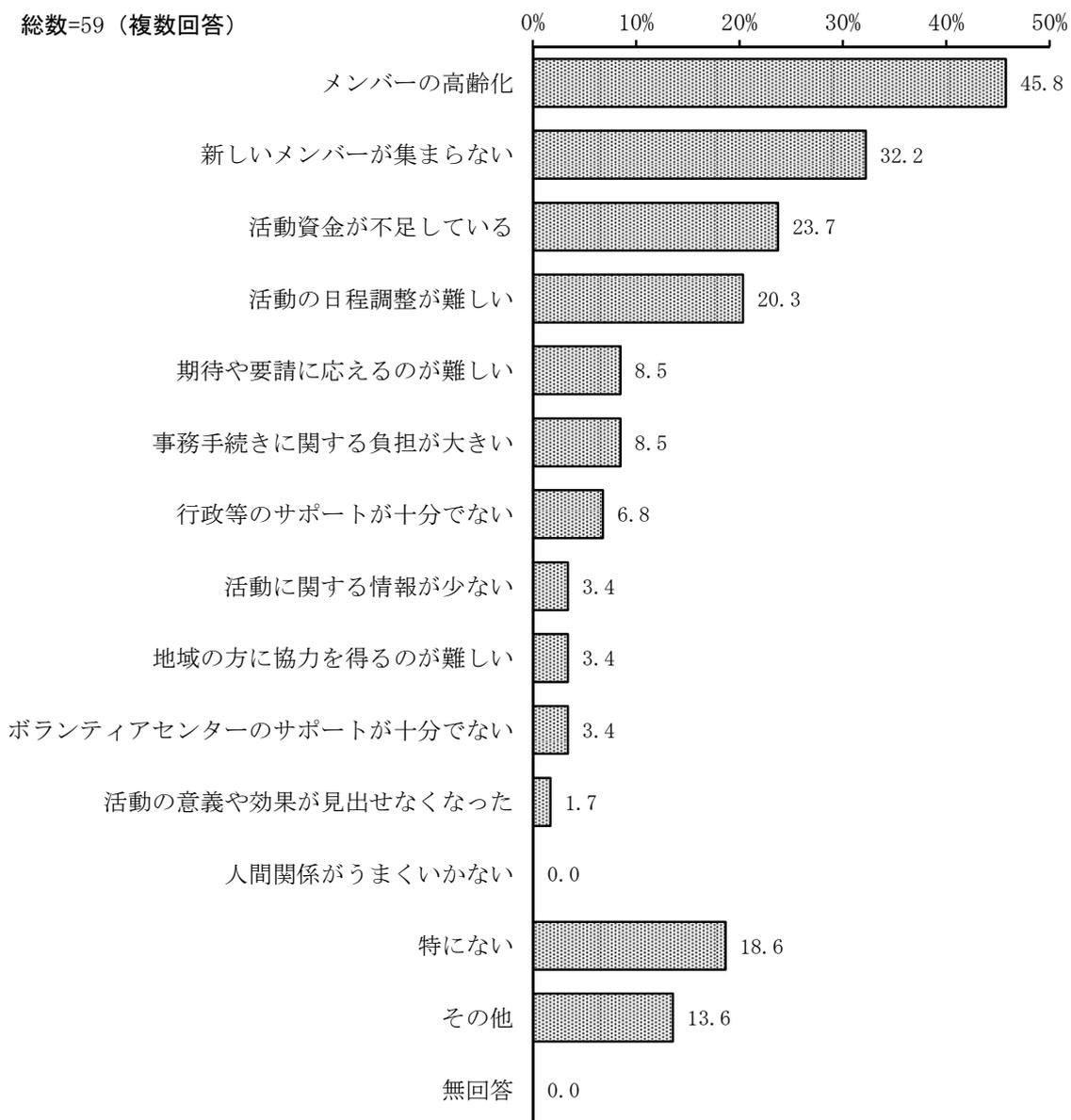


(2) ボランティア活動で困っていること

Q6 貴団体には、ボランティア活動に関して困っていることはありますか。(〇はいくつでも)

「メンバーの高齢化」が45.8%と最も多く、次いで「新しいメンバーが集まらない」が32.2%、「活動資金が不足している」が23.7%、「活動の日程調整が難しい」が20.3%となっています。

Q6 ボランティア活動で困っていること

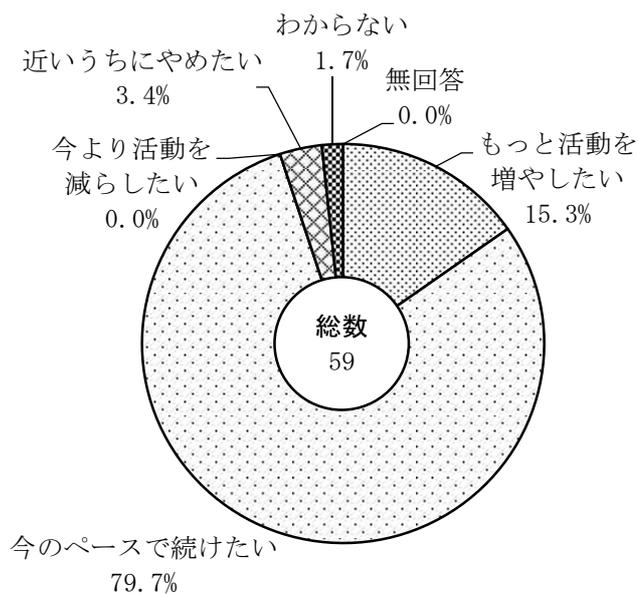


(3) 今後の活動の意向

Q 7 貴団体は今後、ボランティア活動をどのようにしていきたいと思いますか。(〇は一つ)

「今のペースで続けたい」が79.7%と最も多く、次いで「もっと活動を増やしたい」が15.3%、「近いうちにやめたい」が3.4%となっています。

Q 7 今後の活動の意向

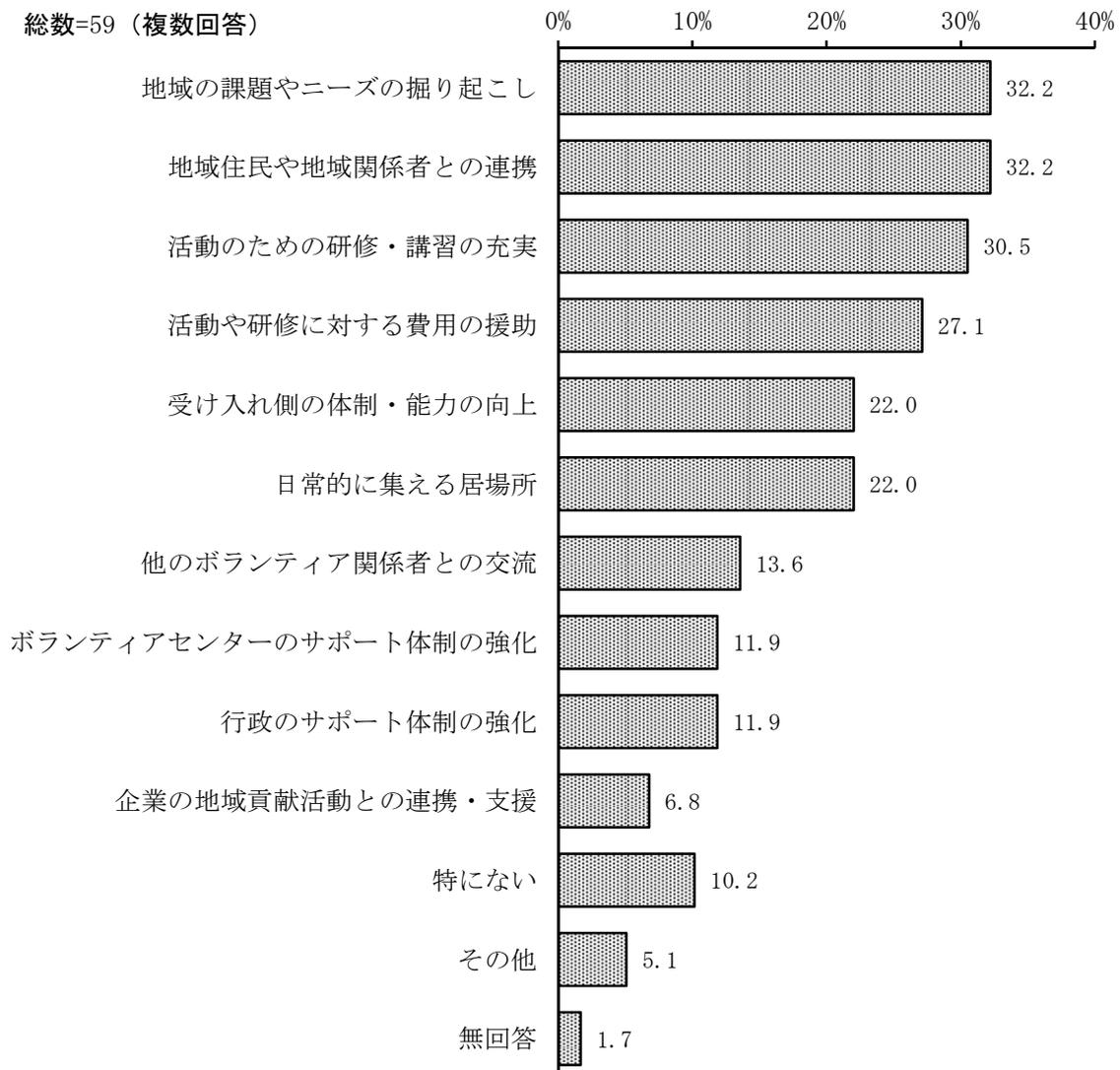


(4) より良い活動のために必要なこと

Q8 あなたは、ボランティア活動をより良いものにしていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「地域の課題やニーズの掘り起こし」「地域住民や地域関係者との連携」がそれぞれ 32.2%と最も多く、次いで「活動のための研修・講習の充実」が 30.5%、「活動や研修に対する費用の援助」が 27.1%となっています。

Q8 より良い活動のために必要なこと



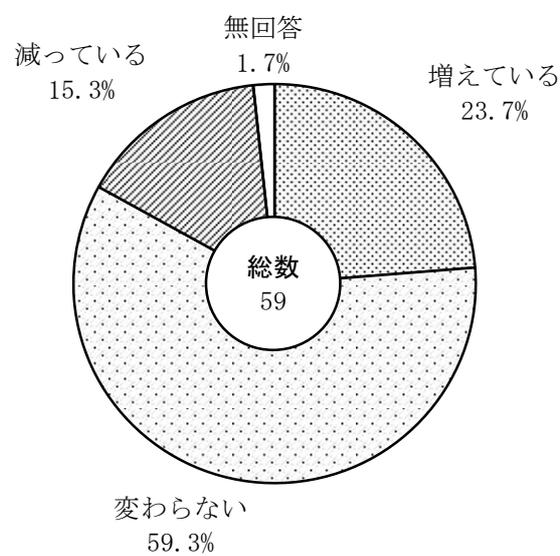
3. ボランティアメンバーの募集について

(1) 3年間でのメンバーの増減

Q9 貴団体で、ボランティア活動に参加しているメンバーの人数について、この3年間での増減をお聞きします。(〇は一つ)

「変わらない」が59.3%と最も多く、次いで「増えている」が23.7%、「減っている」が15.3%となっています。

Q9 3年間でのメンバーの増減

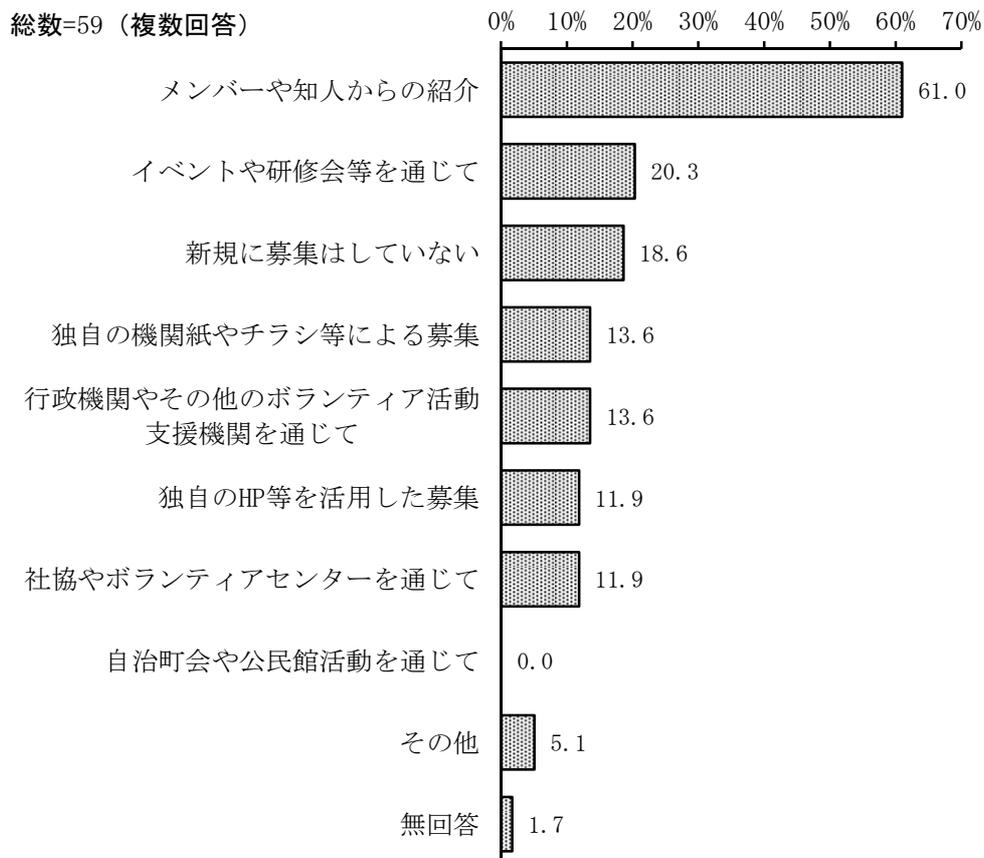


(2) おこなっているメンバー募集の取り組み

Q10 貴団体では、ボランティア活動に参加するメンバーの募集についてどのような取り組みをおこなっていますか。(〇はいくつでも)

「メンバーや知人からの紹介」が61.0%と最も多く、次いで「イベントや研修会等を通じて」が20.3%、「新規に募集はしていない」が18.6%、「独自の機関紙やチラシ等による募集」「行政機関やその他のボランティア活動支援機関を通じて」がそれぞれ13.6%となっています。

Q10 おこなっているメンバー募集の取り組み

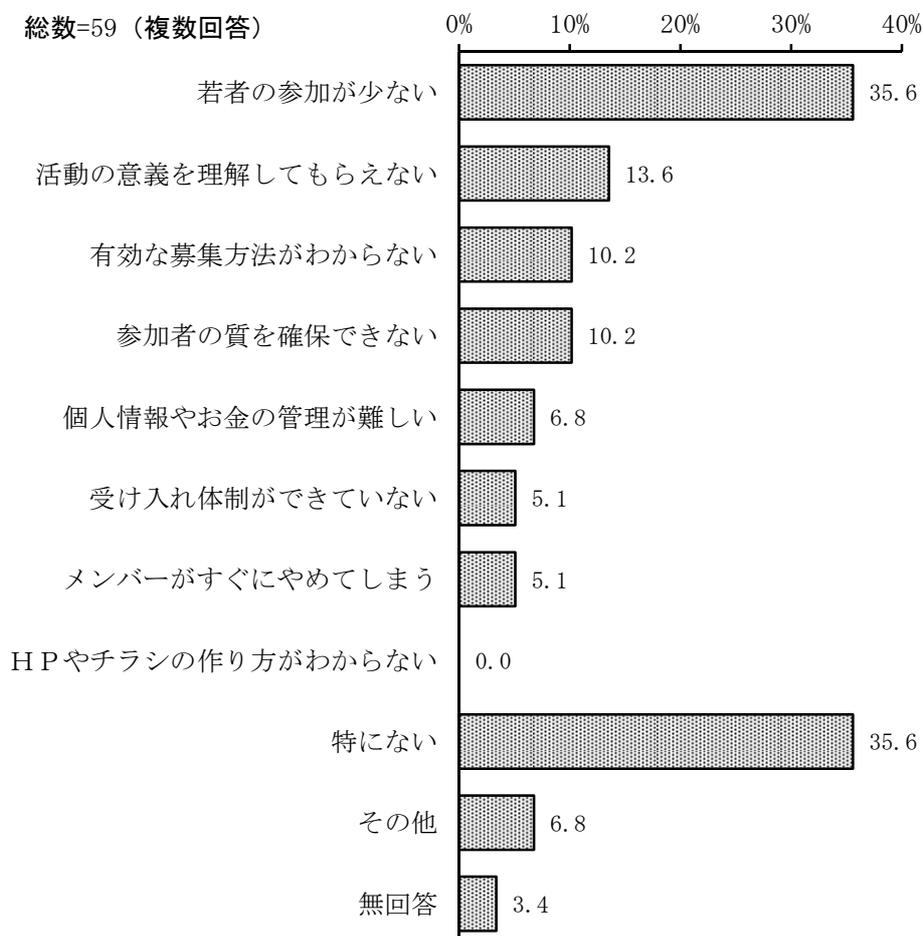


(3) メンバー募集で困っていること

Q11 貴団体が、ボランティア活動に参加するメンバーの募集に関して困っていることはありますか。(〇はいくつでも)

「若者の参加が少ない」が35.6%と最も多く、次いで「活動の意義を理解してもらえない」が13.6%、「有効な募集方法がわからない」「参加者の質を確保できない」がそれぞれ10.2%となっています。「特にない」という回答は35.6%でした。

Q11 メンバー募集で困っていること



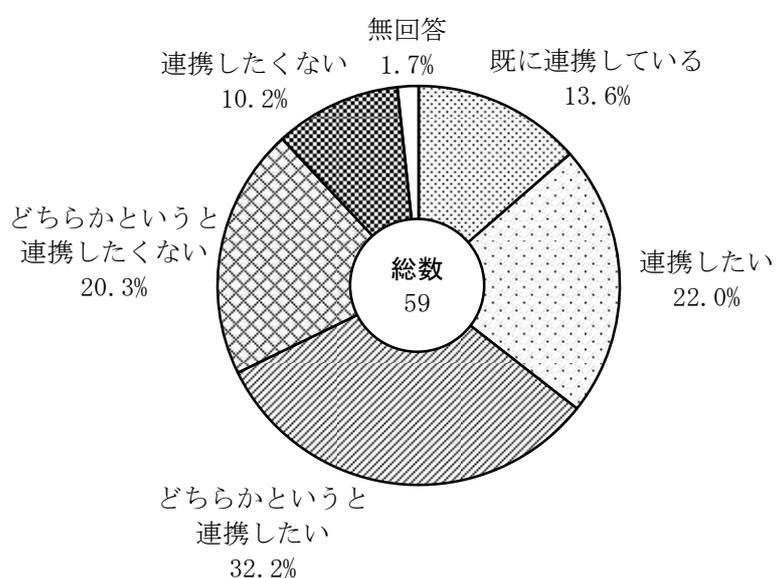
4. 地域活動について

(1) 地域団体との連携意向

Q12 貴団体は、ボランティア活動において、地域団体（自治町会等）との連携に取り組みたいと思いますか。（〇は一つ）

「どちらかという連携したい」が32.2%と最も多く、次いで「連携したい」が22.0%、「どちらかという連携したくない」が20.3%、「既に連携している」が13.6%となっています。

Q12 地域団体との連携意向

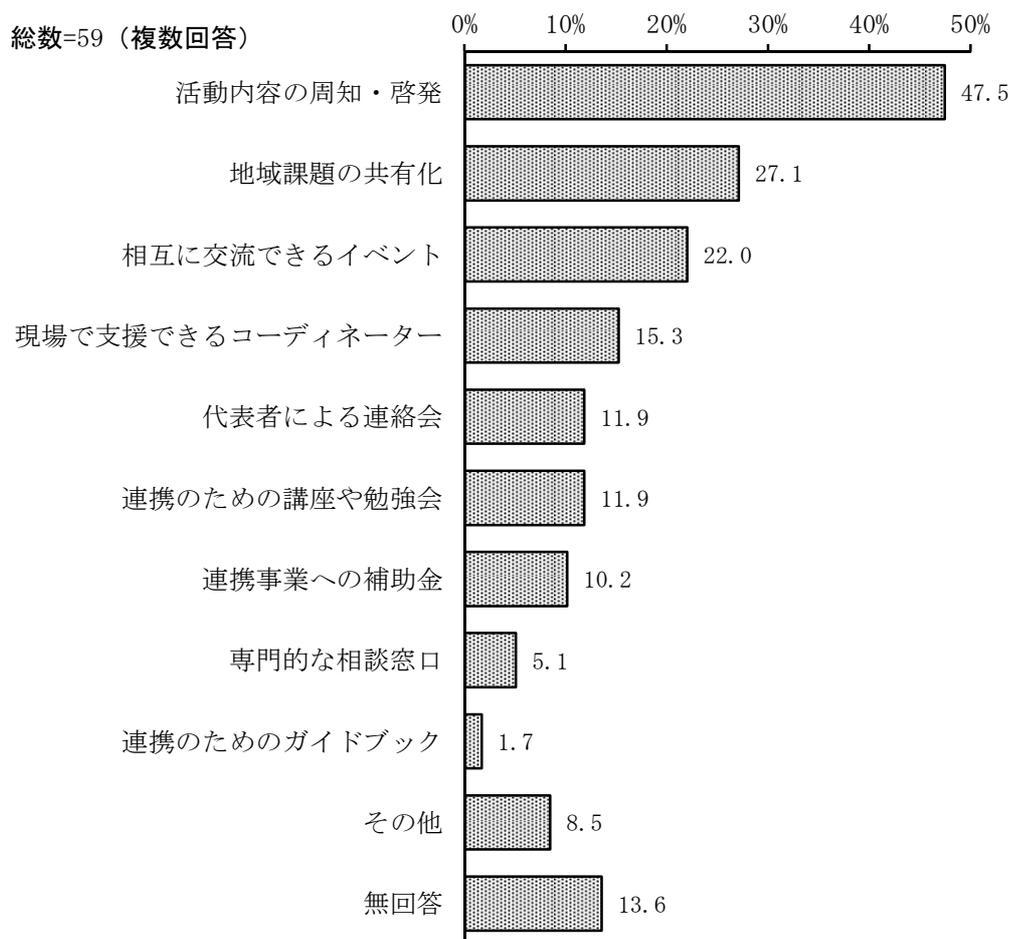


(2) 地域団体と連携する上で必要な取り組み

Q13 貴団体が、ボランティア活動において、地域団体（自治町会等）と連携する上でどのような取り組みが必要だと思いますか。（○はいくつでも）

「活動内容の周知・啓発」が47.5%と最も多く、次いで「地域課題の共有化」が27.1%、「相互に交流できるイベント」が22.0%、「現場で支援できるコーディネーター」が15.3%となっています。

Q13 地域団体と連携する上で必要な取り組み



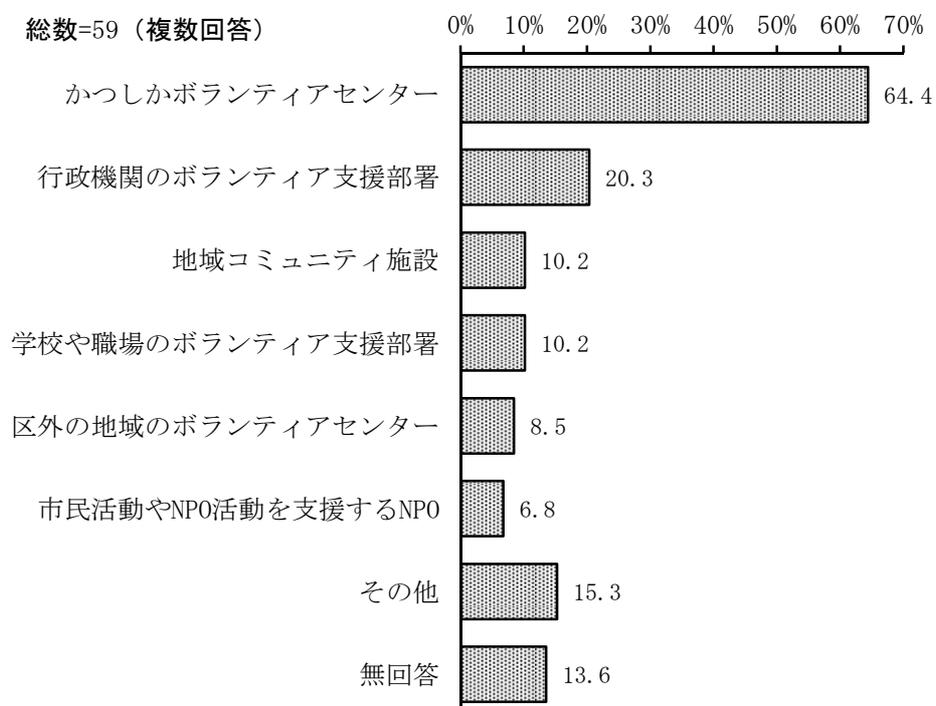
5. ボランティアセンターについて

(1) 支援やサービスを受けている機関

Q14 貴団体がボランティア活動をするにあたり、どのような機関の支援やサービスを受けていますか。(〇はいくつでも)

「かつしかボランティアセンター」が64.4%と最も多く、次いで「行政機関のボランティア支援部署」が20.3%、「地域コミュニティ施設」「学校や職場のボランティア支援部署」がそれぞれ10.2%となっています。

Q14 支援やサービスを受けている機関

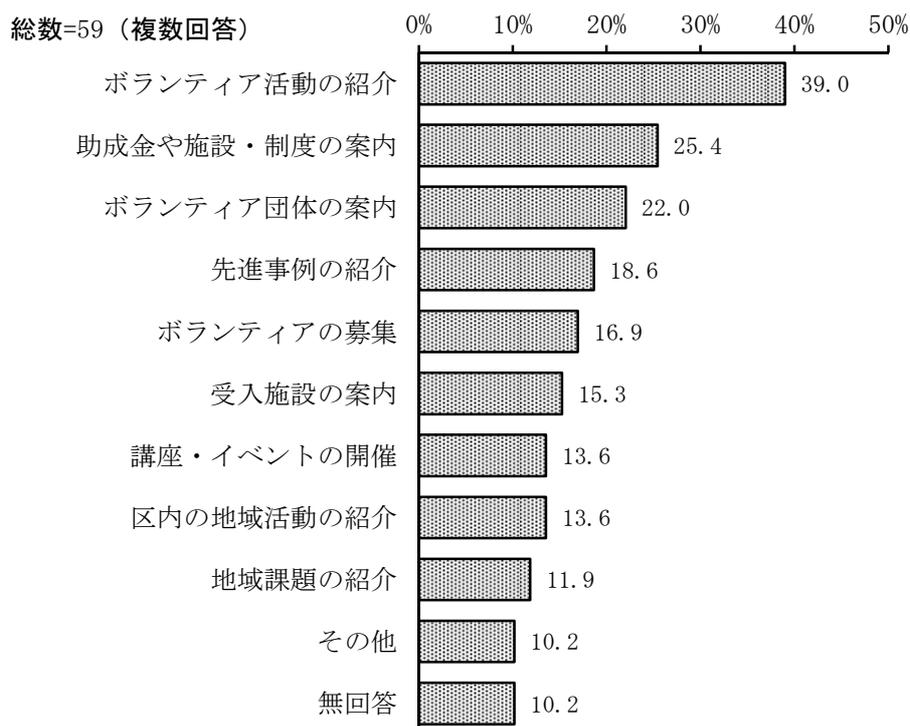


(2) 必要だと思うボランティア活動の情報

Q15 貴団体が、必要だと思うボランティア活動の情報はなんですか。(〇はいくつでも)

「ボランティア活動の紹介」が39.0%と最も多く、次いで「助成金や施設・制度の案内」が25.4%、「ボランティア団体の案内」が22.0%、「先進事例の紹介」が18.6%となっています。

Q15 必要だと思うボランティア活動の情報

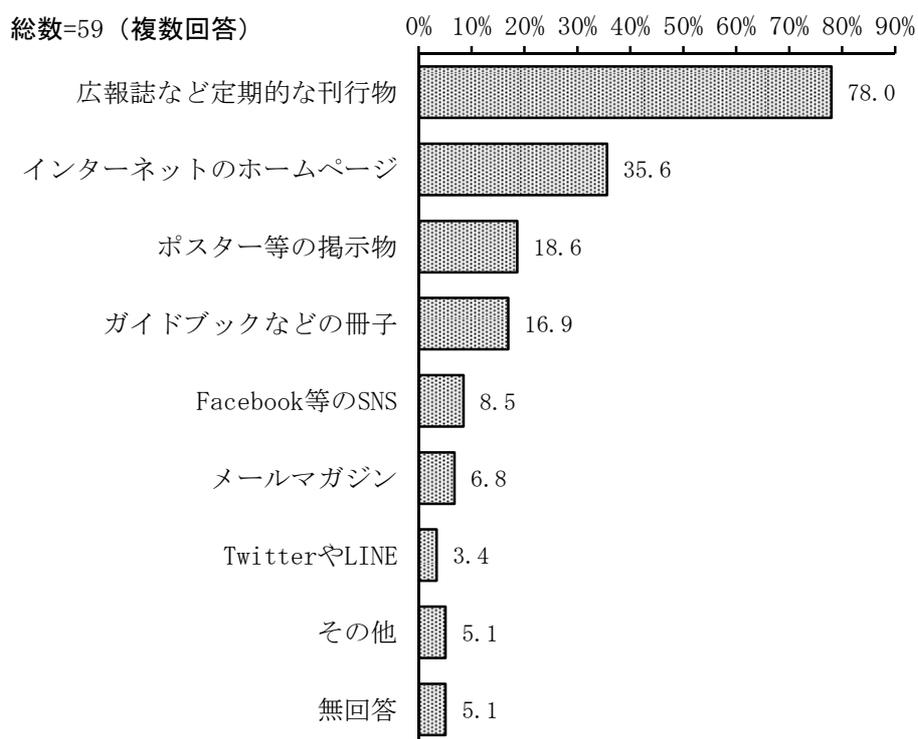


(3) 利用しやすいボランティア活動の情報の発信方法

Q16 貴団体は、ボランティア活動の情報について、どのような方法で発信されていたら利用しやすいと思いますか。(〇はいくつでも)

「広報誌など定期的な刊行物」が78.0%と最も多く、次いで「インターネットのホームページ」が35.6%、「ポスター等の掲示物」が18.6%、「ガイドブックなどの冊子」が16.9%となっています。

Q16 利用しやすいボランティア活動の情報の発信方法



6. 自由意見

Q17 ボランティア活動や、かつしかボランティアセンターに関する事など、ご意見などがありましたら、ご自由にお書き下さい。(記述式)

20件の回答がありました。「ボランティアセンターの支援(広報・紹介)」に関する回答が6件、「ボランティアセンターの支援(相談・助成)」に関する回答が5件、「ボランティア活動での課題」に関する回答が4件、「その他」の回答が5件となっています。

項目	件数
ボランティアセンターの支援(広報・紹介)	6
ボランティアセンターの支援(相談・助成)	5
ボランティア活動での課題	4
その他	5

◆ 主な意見(紙幅の関係で内容を要約・省略している場合があります)

意見
どんな人やどんな団体が、どのような活動をして、どのような評価を受けているのか、活動者の実体がまるでわからないため、利用者にわかるよう公表してほしい。
イベントや講座募集は多いけれど、結果報告があまり公表されていない。
ボランティアセンターからの紹介ということで活動が広がり、有意義に感じている。
ボランティアをしたり、されたり、お互いの活動にとってボランティアセンターはとても重要であり、これからも大切なパイプ役として願います。
交通費や印刷費等、活動にはお金がかかるため、補助があると活動が認められたと感じ励みとなる。
なにか問題があった時にボランティアセンターで相談を受けてくれるとよい。
地域の音楽好きな方が集まる場所で、ボランティア演奏が数多くできるようになれば、さらにやりがいを感じることができる。
ボランティア活動は町会の下請けではなく、義理でやると辞める人が多くなる。自分が楽しみながら参加したい。
30年近く続いている団体のため会員の高齢化が課題。若い人は仕事を持ちながらのボランティア活動のため、先頭に立って引っ張っていく人はごく僅かしかない。

第 3 章

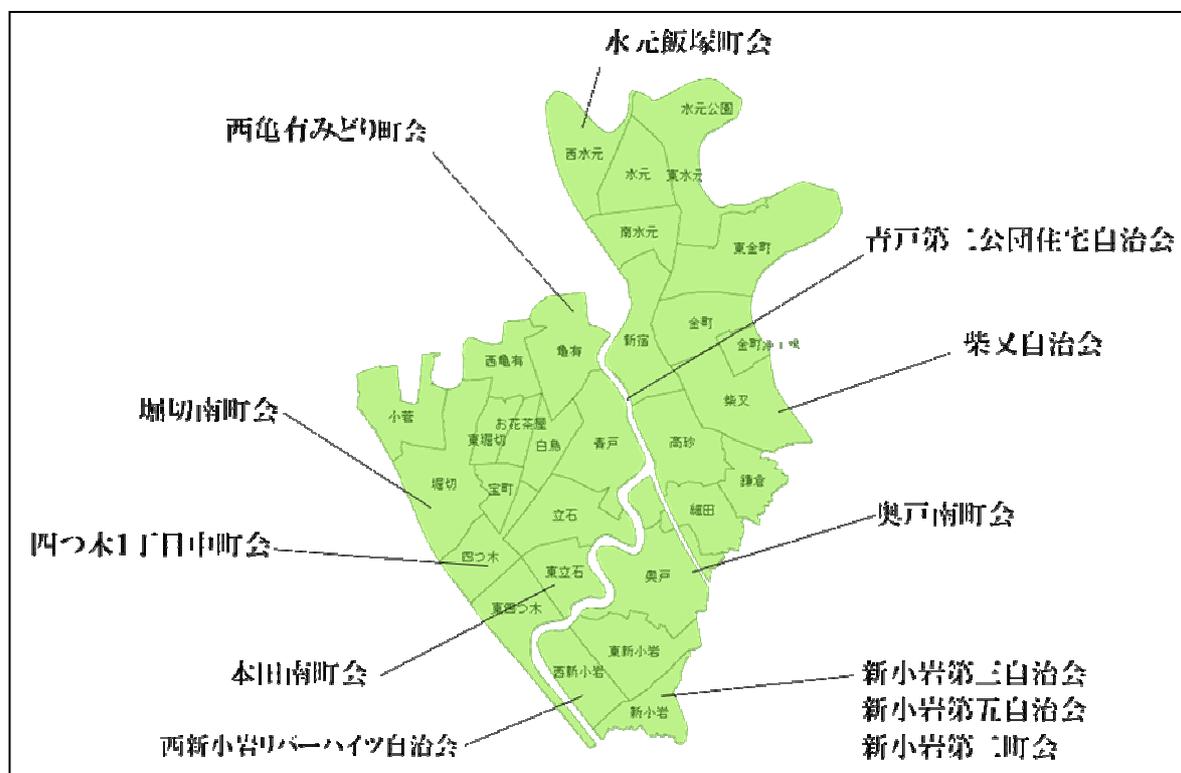
町会長聞き取り調査の結果

1. 調査結果の概要

(1) 調査の概要

葛飾区社会福祉協議会と明治学院大学・河合研究室が合同で実施した町会長・福祉協力委員調査（第2章参照）の二次調査（ヒアリング）として、河合研究室の学生が一次調査の回答者の中からお協力の同意をいただいた12人の町会長を直接訪問し、聞き取り調査を行いました。調査期間は平成28年9月14～16日の3日間で、調査員は2～3名で構成しました。

訪問した町会・自治会一覧	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 亀有地区（西亀有みどり町会） ・ 東立石地区（本田南町会） ・ 奥戸地区（奥戸南町会） ・ 四つ木地区（四つ木1丁目中町会） ・ 堀切地区（堀切南町会） ・ 青戸地区（青戸第二公団住宅自治会） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新小岩地区（西新小岩リバーハイツ自治会） （新小岩第三自治会） （新小岩第二町会） （新小岩第五自治会） ・ 西水元地区（水元飯塚町会） ・ 柴又地区（柴又自治会）



(2) 調査結果のポイント

◆ 12 町会・自治会で共通していること

- ① 役員の固定化 & 高齢化
- ② 商店街の減少（スーパーなどでまかなえる）
- ③ イメージ通りの葛飾区の下町人情
 - ⇒ ①②は全国的な町会・自治会問題と同じ特徴的な活動をしている町会・自治会もある

◆ 全国的に見て活動や地域特性が特徴的な事例

- ① 西水元地区水元飯塚町会
 - ⇒ 他の 11 町会に比べて町会活動が活発であり、イベントが豊富である。
- ② 新小岩地区西新小岩リバーハイツ町会
 - ⇒ 二次調査した 12 町会の中では数少ない集合住宅の町会であり、中国人と日本人が混在している。
- ③ 柴又地区柴又自治会
 - ⇒ 皆さんの葛飾区のイメージといえば柴又 = 寅さんですよ？

(3) 特徴的な事例の紹介

①西水元地区水元飯塚町会 ～ アクティブな町会

- “教養とスポーツ”をテーマに、地域での繋がりや住民同士の親睦を深めることを重視。

◆ 代表的な活動

- 日帰り旅行 ～ 横須賀の軍港、新宿の屋上でご飯
- 芋煮会 ～ みんなで一同に会し、お芋を食べる
- クリーン作戦 ～ 大掛かりな清掃活動



水元飯塚町会の調査風景

②新小岩地区西新小岩リバーハイツ町会 ～ お年寄りに住み良い街づくりを目指す

- 定期的に保健所の職員がお年寄りと話をする場を作り、健康チェックをしながら交流の場を設けている。
- 10円で乳酸菌飲料を提供することで、よりお年寄りが興味を持つような企画を用意。



西新小岩リバーハイツ町会の調査風景

③柴又地区柴又自治会 ～ 昔ながらの趣が残る街

- 柴又といえば「寅さん」:昔から人と人とのつながりを大切にしており、協調性がある。
- イベントも盛んに行われており、敬老会・防犯訓練・年に2回ある青年部主催のお楽しみ会はどのイベントも盛り上がり住人からの満足度も高い。

柴又自治会の調査風景



◆ 課題と展望

- 現代における町会・自治会の共通課題であるが、担い手の不足や固定化・活動のマンネリ化などがあげられる。葛飾区も例外なく影響を受けていることがわかる。
- コミュニティの多様化や防犯・防災の面から町会・自治会の必要性は増してくると考えられるが、いかにして担い手不足を解決するか、地域行政と住民との橋渡しを円滑に行えるかが大きな課題である。
- しかし、紹介した三つの地区の事例からもわかるように、人と人を繋げる取り組みや地域を活性化しようとする活動には、全国的に自治会・町会が抱えている課題を解決するヒントが隠されているのではないかと考えられる。

2. 町会ごとの調査結果

亀有地区 西亀有みどり町会

地域特性	自治町会の活動
<ul style="list-style-type: none"> ●町会発足の45年前は一戸建てで自営業を営む方が多かったがその後賃貸アパートやマンション、分譲マンションも建設されてきた。 ●亀有とお花茶屋の中間で買い物や交通の便は非常に良い。 ●高齢化と子どもの減少は顕著である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●町会の加入率は5割。 ●役員平均年齢は50歳、平均在任年数は20年。 ●町会二大イベントの夏祭りや餅つき大会には100名ほどが参加する。一方で夜警、交通安全、防犯パトロール、避難訓練、講習会等は集まりが悪い。

東立石地区 本田南町会

地域特性	自治町会の活動
<ul style="list-style-type: none"> ●戸建てが多い地域で戸建て7割、マンション3割。マンションを建てるスペースがない為住宅が密集する。 ●利便性が高く交通の便は整っているのだが、古くからある商店街は寂れてしまっている。 ●元々住んでいる方と新しく入居した方では地域への意識の差が見られるが、両者下町人情に溢れている。 ●高齢者と子どもの割合はここ数年等しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●町会の加入率は9割。 ●役員平均年齢は70歳、平均在任年数は10年ほど。 ●二年に一度開催される熊野神社例大祭は300~400人程が参加する。 ●災害時におけるライフラインが十分に整備されていない状態である。

奥戸地区 奥戸南町会

地域特性	自治町会の活動
<ul style="list-style-type: none"> ●戸建てが多く、集合住宅が増加傾向にある。また、スペースがないためマンションが新しく建設されることは少ない。 ●駅が遠く店も近隣にない為、高齢者には不便である。高齢化が進むとさらに新たなバスが通る可能性もある。 ●6割程度が新住民であり、40年前からの住民は3.5割程度である。 ●高齢者は比較的少数で、新住民が増えていることもあり子どもが増加している。 ●高齢者と子どもの割合はここ数年等しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●町会の加入率は5割。 ●役員平均年齢は60歳で女性が3割を占める。 ●縁日祭りには200~300人が参加するが、防災訓練の参加者は少ない。 ●70歳以上を対象にした敬老行事は680人が参加する。しかし、本来800人以上に招待状を出しているところ会場に入りきらない為、約8割の方はお金を受け取る形式になっている。町会で100万円、社会福祉協議会の補助金40万円が主な財源となっている。

四つ木地区 四つ木一丁目中町会

地域特性	自治町会の活動
<ul style="list-style-type: none"> ● 典型的な下町である為、戸建てが多い。最近 は駅付近にマンションも建設され、古い戸建 てとマンションの混合となっている。 ● 都心も近く、様々な高速道路に繋がって いて交通の便は良い。高齢化と大型スーパーが できた影響で商店街の賑わいが見られない。 ● イベントが多い為、古くからの住民と新しい 住民の交流の機会が設けられている。 ● 少子高齢化の傾向。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 町会の加入率は 6.5 割。新しく建設されたマ ンション住民の加入が難しい。 ● 役員の平均年齢は 70 歳、平均在任年数は 15 ～20 年。 ● 盆踊りは二日間で 1,200 人、防災訓練や年 二回行うクリーン作戦、花見等の町会行事は 80～100 人と、積極的に参加されている。 盆踊りは担い手も 100 人以上であり、多く の協力を得ている。

堀切地区 堀切南町会

地域特性	自治町会の活動
<ul style="list-style-type: none"> ● 近年は製造業の移転・廃業等の跡地が集合住 宅になることが多い。 ● 大型スーパーの進出の影響を受け、個人経営 の店舗はなくなる。 ● バスが一時間に一本、駅前駐車スペースが不 足している等、交通の利便性は悪い。 ● 第二次世界大戦後から住んでいる方が多く みられる。 ● 高齢化が進行しているが、新築戸建てやマンシ ョンに住む世帯は年齢が若く子どもも多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 町会の加入率は 7 割。 ● 部会の一つの消火隊はこの地区で最も力を 入れている防災組織で、消防の支援を得ず独 自でゲリラ防災訓練を行っている。一年で三 件程の消火を担当している。 ● 役員の平均年齢は 68.5 歳で平均在任年数は 6 年。 ● 毎月一回、高齢者の健康維持と引きこもり防 止対策として行われるグラウンドゴルフ大 会は 20 人前後が参加する。

新小岩地区 西新小岩リバーハイツ自治会

地域特性	自治町会の活動
<ul style="list-style-type: none"> ● 戸建てよりも賃貸の集合住宅が増加している。 ● 快速も停車する JR 新小岩駅や、バスも京成 と都営が通っている為交通の便は良い。 ● 中国人が 3 割と増えてきている。多方面から新 住民が来ており人の入れ替えが激しいのだが、 顔馴染みになれるような努力を心掛けている。 ● 高齢化が進んでおり、子どもも少ないのだ が、中国人の世帯が増加している影響から以 前に比べると増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治会の加入率は 5 割。 ● 役員の平均年齢は 68 歳で平均在任年数は 6 年。 ● 8 月に行われるリバーハイツまつりは 200 人ほどが参加する。金券を配布して招致す るなどの工夫を行っている。 ● 月に二回、クリーン作戦を行っており約 15 人が参加するが、ほぼ毎回同じ人である。自 転車の置き方やタバコのポイ捨てなど中国 人のマナーの悪さが目立つ。

青戸地区 青戸第二公団住宅自治会

地域特性	自治町会の活動
<ul style="list-style-type: none"> ●自治会全体が公団住宅。 ●コンビニや 24 時間営業のスーパーが徒歩 5 分以内の距離にある。高齢者バス無料乗車券を配布している。 ●古くからの住民は半分以下の割合で、高齢者がほとんどである。出入りが激しく、新しい住民は別の場に越してしまうケースが多い。 ●子どもは増加傾向にある。また、ひとり暮らし高齢者、外国人が多く目立っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自治会の加入率は 6 割。高齢者世帯の加入率はほぼ全世帯であるが、子ども連れで、且つ長く居住する予定がない人は加入していない。 ●役員の平均年齢は 70 歳で平均在任年数は 10 年程度。女性が 6～7 割を占める。 ●防災訓練は若者の参加率は良いのだが、高齢者の参加が課題となっている。自治会のより一層の組織化を目指す。

新小岩地区 新小岩第三自治会

地域特性	自治町会の活動
<ul style="list-style-type: none"> ●都心からのアクセスが良く、若者も住む街として評価が高い為、集合住宅は増加傾向にある。「葛飾の南の玄関」とも言われている。 ●買い物は四つ木の大手スーパーへバスで行く方やアクセスが良い為電車で都心まで行く方もいる。 ●約 70 年前に外部から越してきた人が代々住んでいる。古くからの住民、新しい住民の関わりは薄い。 ●高齢化率が 23%と葛飾区全体の割合とさほど変わらない状態。子どもは年々増加傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●町会の加入率は 6 割程度。年々加入率は減少しており、新設のマンションは加入していない場合が多い。 ●役員の平均年齢は 65 歳、平均在任年数は終身就任であるため長い。 ●盆踊りは一番人気のあるイベントであり、二日間で約 5,000 人が参加する。 ●毎月行われる防災活動は 200～300 人が参加する。消防署や警察と連携して松南公園や小中学校で指導をお願いしている。新小岩は防災活動を活発に行っている為、葛飾区から評価をいただいている。

新小岩地区 新小岩第二町会

地域特性	自治町会の活動
<ul style="list-style-type: none"> ●戸建てが多く、集合住宅はあまり見られない。 ●店舗がほとんどなく、コンビニが一つあるくらいで利便性は悪い。また、バスが通っていない為、駅までは15分程歩かなければならない。 ●古くから住んでいる住民が大半であるが、建売住宅に住む若者もいる。古くからの住民と新しい住民の間でコミュニケーションはあまりとれていない状態。 ●高齢化が進んでいる一方で、建売住宅に住む若者もいる為、子どもの増加も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●町会の加入率は7割。 ●役員の平均年齢は68歳で平均在任年数は8年程度。 ●年一回行われる敬老行事は、150人程が参加する。参加する方の平均年齢は約80歳であり、また、参加人数は多い方であるが会場が狭い為、車椅子で来られた方が会場に入るスペースがなく参加できない状況にある。 ●10月に行われる運動会は150～200人が参加する。子どもと高齢者が主な参加者であり若者の参加率が少ないことが課題となっている。

新小岩地区 新小岩第五自治会

地域特性	自治町会の活動
<ul style="list-style-type: none"> ●古い木造アパート等の集合住宅がもともと多い地域であり、戸建て戸の割合は半々である。最近は分譲も増加している。 ●駅付近である為買い物や交通の利便性は良いが、居酒屋やキャバクラが多い為治安は悪い。 ●古くからの住民よりもマンションやアパートに越してくる新しい住民のほうが多い。 ●少子高齢化が進んでおり、新しい住民の中にも高齢者がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自治会の加入率は5割。加入していない人はマンション等の管理組合に入っている場合が多い。 ●役員の平均年齢は65歳で平均在任年数は20年。 ●小中学生の吹奏楽やフラダンス、日本舞踊などを発表する文化祭は3,000人程が参加する。また、東西南北の新小岩町会と協働で行うふれあい祭りは、担い手として1,000人、利用者として3～4万人が参加する。地域の親睦を深めることができる大規模な行事に取り組んでいる。

西水元地区 水元飯塚町会

地域特性	自治町会の活動
<ul style="list-style-type: none">●都営住宅が多く、最近マンションが三つ建設された。●全体的に利便性は良いが、水元飯塚町は一丁目と二丁目で範囲が広く、格差が生じている。また、全体の三分の一程度しか商店街を利用しておらず、その他は車で大きなショッピングセンターに行く人が多い。●新しい住民のほうが古くからの住民より多い。両者の関係は良いとは言えないが、町会としてはコミュニティを大切にしていきたい為、より多くの住民が交流できる機会を設けている。●子ども、高齢者共に多い。	<ul style="list-style-type: none">●町会の加入率は5割程。●役員の平均年齢は72歳で平均在任年数は13～20年。●芋煮会は380人が参加する。これは水元飯塚町会だけでなく、近隣の町会も呼び込んでいるため参加率が良い。また、クリーン作戦は850人が参加し、特に親子参加が多い。●町会に加入していない高齢者の把握ができていない為、緊急時の対策が課題とされる。

柴又地区 柴又自治会

地域特性	自治町会の活動
<ul style="list-style-type: none">●集合住宅が2万世帯と多く、増加傾向。●昭和23年カスリン台風の影響で桜土手が決壊して葛飾区が水害に遭ったが、柴又是標高が高いのでほとんど被害を受けなかった。●跡継ぎがない問題から商店街の店舗が閉まってきている。また、商店街に欲しいものが売っていない。●京成金町線柴又駅に電車が15分おきに通っているため交通の便は良い。●高齢化は進んでいる。子どもは増減がみられない状況。	<ul style="list-style-type: none">●自治会の加入率は5割。●役員の平均年齢は70歳代。男性7割、女性3割。●自治会活動に参加する地域の方は600人～2,000人とイベントによって人数が異なる。●特に力を入れている文化厚生部の敬老会は、70歳以上を対象として2,625人が参加する。●防災活動は警察、区役所、消防団と連携して一番規模が大きい。小学校と保育園は全生徒が参加して引き取り訓練等が行われている。

**第3次葛飾区地域福祉活動計画・
第2次かつしかボランティア活動推進計画
策定のための調査報告書**

平成29年3月

編集・発行 社会福祉法人 葛飾区社会福祉協議会

〒124-0006 葛飾区堀切3丁目34番1号ウェルピアかつしか3階

電話 03-5698-2411 FAX 03-5698-2513